

書

昭和 43 年度

# 地力保全基本調査成績書

[ 洞爺湖畔地域 虻田郡 { 虻田町  
豊浦町  
洞爺村

北海道立中央農業試験場

53

## 序

現状における土地生産力は諸種の土壌的阻害要因によつて十分にその地力を発揚できない場合が少くないのみならず、一方では剝脱要因もあつてその地力は消耗低下しつゝある。従つてこれら阻害要因を排除して合理的かつ適切な地力保全の対策を推進し、もつて当面の農業構造改善の基盤整備に資するため、昭和34年より農林省農政局の助成を得て基本的土壌調査分類を実施している。

本調査成積書は昭和43年度に行つた12地域20市町村をとりまとめたもので、こゝにこれを公表し営農安定の資に供する次第である。

現地調査の遂行に際して御協力を得た関係市町村、農業協同組合ならびに農業改良普及所の関係各位に対して、深く感謝の意を表する。

昭和44年3月

北海道立中央農業試験場

和田 忠 雄

## 調査並びに取まとめ方法

本調査は、凡そ100ha以上の集団になつている農耕地および付帯地を調査対象とし、調査および取まとめに当つては、夫々下記の資料に基づいた。

1. 土壌断面調査および現地での営農状況は地力保全対策資料第6号（昭和36年9月、農林省振興局農産課）によつた。
2. 土壌統および区の設定並びに土壌生産力可能性等級基準は、地力保全対策資料第12号（昭和40年3月、農林省農政局農産課）及び水田土壌統設定第1次案（昭和38年12月、農技研化学部土壌第3課）による。

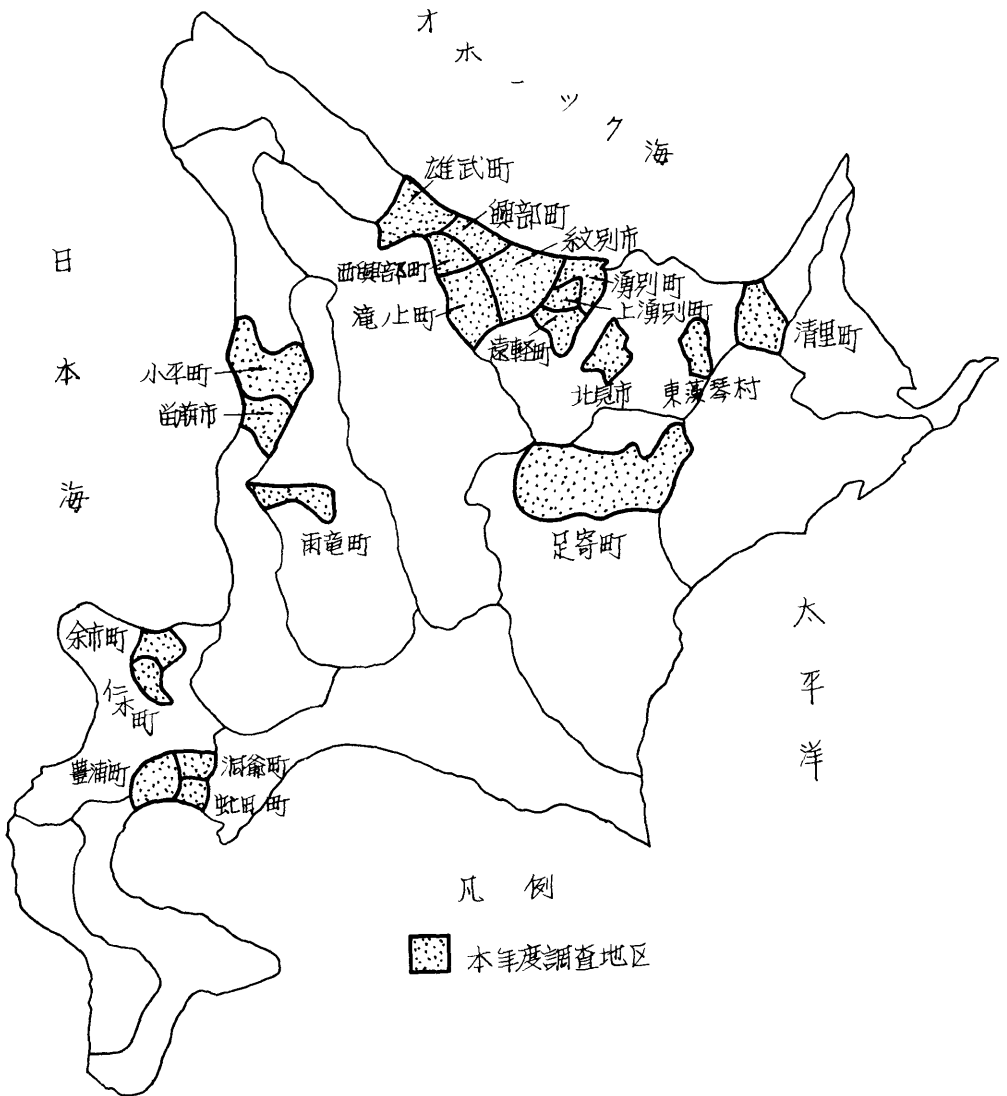
土壌統および土壌区の設定に当つては、北海道農業試験場農芸化学部土壌第1研究室の土性図を参照した。

化 学 部	部 長	長 谷 部 俊 雄
土 壌 改 良 科	科 長	後 藤 計 二
”	第 1 係 長	小 林 荘 司
”	研 究 職 員	水 元 秀 彰
	”	伊 東 輝 行
	”	木 村 清
	”	松 原 一 実
	”	坂 本 宜 崇
		（ 現 在 ・ 天 北 農 試 ）
	第 2 係 長	大 垣 昭 一
	研 究 職 員	小 林 茂
	”	宮 脇 忠
	”	山 本 晴 雄
	”	高 橋 市 十 郎
	”	上 坂 晶 司
	第 3 係 長	高 尾 欽 弥
十 勝 農 試		
土 壌 肥 料 科	研 究 職 員	菊 地 晃 二
	”	関 谷 長 昭
北 見 農 試		
土 壌 肥 料 科	研 究 職 員	秋 山 喜 三 郎

1. 調査地域一覽

調査地域名	該 当 郡 市 町 村 名	農 地 面 積 (調査対象面積) ( ha )		既 調 査 面 積 ( ha )		本 年 度 調 査 面 積 ( ha )	
		水 田	畑	水 田	畑	水 田	畑
北 見	北 見 市	2,497	9,935	-	-	2,497	9,935
丸瀬布・遠 軽	遠 軽 町	460	3,172	-	-	460	3,172
	湧 別 町	329	5,083	-	-	329	5,083
	上湧別町	480	2,962	-	-	480	2,962
紋 別	紋 別 市	68	6,468	-	-	68	6,468
	興 部 町	2	2,943	-	-	2	2,943
	西興部町	-	1,487	-	-	-	1,487
枝幸・雄武	雄 武 町	-	2,794	-	-	-	2,794
滝ノ上	滝ノ上町	522	3,960	-	-	522	3,960
斜 里	清 里 町	1	7,028	-	-	1	7,028
網走湖畔	東藻琴村	138	4,291	-	-	138	4,291
陸 別	足 寄 町	22	10,308	-	-	22	10,308
洞爺湖畔	豊 浦 町	225	2,324	-	1,000	-	1,324
	洞 爺 町	245	2,321	-	-	245	2,321
	虻 田 町	68	1,411	-	-	68	1,411
樺 戸	雨 竜 町	2,482	760	-	-	2,482	760
留 萌	留 萌 市	1,067	792	-	-	1,067	792
	小 平 町	1,505	925	-	-	1,505	925
後 志 北 部	余 市 町	698	2,060	-	-	698	2,060
	仁 木 町	885	1,053	-	-	885	1,053
合 計		11,685	72,077	-	1,000	11,685	71,077

# 調査地区位置図



# 洞 爺 湖 畔 地 域

## 虻田町 豊浦町 洞爺村

### 1 地域の概況

#### 1) 位置および調査面積

(1) 位置 北海道虻田郡 虻田町、豊浦町、洞爺村

(2) 調査面積 (ha)

郡市町村名	農地総面積				調査対象面積				過年度調査面積			
	水田	普通畑	樹園地	計	水田	普通畑	樹園地	計	水田	普通畑	樹園地	計
虻田町	68	1,411	-	1,479	68	1,411	-	1,479	0	0	0	0
豊浦町	225	2,324	-	2,549	225	2,324	-	2,549	0	0	0	0
洞爺村	245	2,321	-	2,566	245	2,321	-	2,566	0	0	0	0

郡市町村名	本年度調査面積				次年度調査面積				備 考
	水田	普通畑	樹園地	計	水田	普通畑	樹園地	計	
虻田町	68	1,411	-	1,479	0	0	0	0	洞爺湖畔地域伊達町については昭和42年度に調査を完了している。
豊浦町	225	2,324	-	2,549	0	0	0	0	
洞爺村	245	2,321	-	2,566	0	0	0	0	

### 2) 気 候

本地域は北海道南部に存在し大平洋に面した地域である。この地域は北海道でも気候条件のよいところであるが海岸地帯と山間地域とでは積雪量も異なり、後者においては融雪期が5月にかかるところがあり同一地域内とはいえその気象条件はかなりの差がある。次に海岸地帯の気象観測値として伊達観測所のデータをあげる。

伊達観測所

月 別		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	全年	統計年数
		気 平 均	-4.1	-3.9	0.2	5.9	10.8	15.1	19.8	21.4	17.7	11.7	5.3	-0.9	8.3
温 最高平均	0.1	0.7	4.6	11.0	16.0	19.5	23.8	25.7	22.5	16.7	9.4	2.8	12.7	35年	
(c) 最低平均	-8.2	-8.5	-4.2	0.7	5.5	10.7	15.7	17.1	12.9	6.6	1.1	-4.5	3.7		
月降水量(mm)	49	44	49	78	65	69	115	109	113	79	59	35	864	25年	
日最大降水量(mm)	43	40	66	180	60	48	107	151	71	62	79	53	180	14年	
最深積雪(cm)	47	62	54	22	-	-	-	-	-	4	7	37	-		
日照時数(h)	-	-	-	200.1	199.2	163.3	143.0	158.8	170.5	177.2	119.2	-	1,815.6		

霜 初日 10月29日、終日 5月10日、山間部では9月下旬、5月下旬

(日照時数は室蘭測候所)

雪 初雪 10月28日、晩雪 4月7日

### ③ 土壤条件

#### (1) 地形

本地域を地形的に3つ大別することができる。

##### (i) 太平洋ならびに洞爺湖に流入する河川に沿って発達する沖積地帯

面積は広くない。主に豊浦町、洞爺村に分布する。大半は火山灰が混じり土性は荒いが一部泥炭地となるところもある。

##### (ii) 標高100~200の丘陵地、台地

本地域で最も広い面積を占め、主として洞爺湖の西部に広がる台地は有珠火山灰Ub層で特徴づけられ、起伏も少ない。この標高で主として豊浦町においては丘陵地となり火山灰の影響も少なく急斜面地が利用されている。

##### (iii) 昆布山山ろく地帯

豊浦町とニセコ町の町境にある昆布岳の山ろく部で標高300前後の台地で(ii)よりも開析された地形であり、ゆるやかな波状の台地である。洪積層からなりロームが主体をなす。

#### (2) 地質

洞爺湖西部の台地は洞爺カルデラ形成時の噴出物を基盤としその上部に古い火山灰を起源とするロームが堆積しその上を有珠火山の活動による有珠火山灰層Uc、Ubが広くおおっている。Ub層はこの地域の土壤を強く特徴づけるものである。虻田町にあつてはさらにUaなる火山灰層がみられるがその面積は小さい。豊浦町においては一部Ub層の影響をうけるところがあるが大部分は新第三紀凝灰岩層を基盤としその上に古い火山噴出物の層を堆積しこれが土壤母材となつている。同町西部では安山岩の風化による残積、崩積土壤がみられる。

その他現河川に沿って河成沖積地が存在する。

#### (3) 侵蝕状況

本地域はいつでも火山灰土壤または火山性土壤であるため傾斜地では雨蝕がかならず観察される。台地にあつては地形的には幼年期であるが谷頭ではかなり深い水蝕が行なわれている。

#### (4) 交通状況

本地域の海岸沿いには国道37号線が通っており、虻田町から洞爺村を経て札幌まで国道230号線が通じている。町村道が完備しているため交通の便は良い。

### ④ 土地利用及び営農状況

#### 虻田町

##### a) 経営面積(1戸当平均ha)

総面積	田	普通畑	樹園地	その他
9.7	0.3	5.9	-	3.5

##### b) 主要農作物作付面積(1戸当平均ha)

作物名	水	稲	豆	類	ビート	馬	鈴	薯	雑	穀	麦	類	飼料作物
面積		0.3		1.6	0.8		0.4		0.3		0.3		2.8

c) 家畜の種類及び頭数

	牛	馬	豚	めん羊	鶏
飼育戸数	24	184	46	8	146
飼育頭数	155	302	667	18	7481
1戸当飼育頭数	6.5	1.6	14.5	2.2	51.2

d) 動力耕耘機・農用トラクター所有農家数と台数

農家数	所有の区別	駆動型耕耘機		けん引型耕耘機・農用トラクター			
				5馬力未満		5～10馬力	
		農家数	台数	農家数	台数	農家数	台数
22戸	個人	8	8	7	7	5	5
	共有	-	-	-	-	2	1

農耕地総面積1479haで、うち水田68ha、畑1411ha存在する。水田は自家米用として低地に散在する程度であるが収量は比較的高い方である。一方畑作が本町の農業を支えており高級菜豆(いんげん)が最も多く主要換金作物となっている。次いでビート、馬鈴薯、麦類、雑穀の順であるが近年豆類の連作により病害虫の多発及び連作の害が始まっている。又一部傾斜地では畑作から酪農へ転換しているが多くの場合資金難等から酪農経営の安定確立には多くの問題がある。

洞爺村

a) 経営面積(1戸当平均ha)

総面積	田	普通畑	樹園地	その他
5.6	0.6	5.0	-	-

(昭和42年度)

b) 主要農作物作付面積

水	稲	麦	類	菜	豆	馬	鈴	薯	ビ	ー	ト	ア	ス	パ	ラ	ガ	ス	果	樹	そ	の	他
21	7.4	66.6	55	9.5	36	3.6	38	0.7	53.6	1.8	399	0										

(昭和43年度)

c) 家畜の種類及び頭数

	牛	馬	豚	めん羊	鶏
飼育戸数	23	327	57	46	660
飼育頭数	138	483	420	57	12052
1戸当飼育平均頭数	6.0	1.4	7.4	1.2	18.3

(昭和40年度)

d) 農業機械利用状況

	ホイール トラクター	動力 耕耘機	ジブ	4輪 自動車	トレ- ラー	畜力車 載自動 噴霧機	モーア	ポテト デガー	ビ-ト デガー	ビ-ト ハーベ スター	ロ-タ リ- ハロー	移植 機	ポテト ハーベ スター	トラクター用 テスクロー
道貸付	5				3			1		2	3			2
共有	22	15		11	10	48	6	3	3	1	12	4	2	2
個人	17	133	9	165	28	2	4	1			26		1	2



豊浦町

a) 経営面積(1戸当平均ha)

総面積	田	普通畑	樹園地	その他
11.3	7.3	4.1	-	-

(昭和40年度)

b) 主要農作物作付面積(全町、ha)

作物	水稲	菜豆	小豆	馬鈴薯	ビート	アスパガス	えん麦	その他
面積	210	670	137	575	328	67	57	-

(昭和40年度)

c) 家畜の種類及び頭数

	牛	馬	豚	めん羊	鶏
飼育戸数	102	374	157	94	363
飼育頭数	542	544	1,200	127	13,260
1戸当平均飼育頭数	5.3	1.4	7.6	1.3	36.6

(昭和40年度)

d) 農業機械利用状況

所有の区別	動力耕耘機	農用トラクター
個人有	52台	12
共有	5	-

(昭和40年度)

2 土壌類型区分及び説明

1) 土壌統一覧及び土壌区一覧

(1) 土壌統一覧

(水田)

土壌統名	色層序	腐植層	植層	礫砂層を有する層	酸化沈積物	土性		泥炭	黒泥	グライ	母材堆積様式	分布		
						表土	次層					虻田町	豊浦町	洞爺村
入江南	Y <sub>1</sub> /Y <sub>2</sub>	表層腐植層	腐植層	あり	あり	壤質	粘質	なし	なし	あり	風積/崩積(河成)岩	○		
礼文華	Y <sub>1</sub> /Y <sub>2</sub>	表層腐植層	腐植層	なし	なし	粘質	壤質	なし	なし	なし	水積(河成)岩		○	
寺の沢	Y <sub>1</sub> /Y <sub>2</sub>	表層腐植層	腐植層	なし	あり	強粘質	強粘質	あり	なし	あり	水積(河成)岩		○	
財田	Y/Y <sub>2</sub>	表層腐植層	腐植層	なし	なし	壤質	壤質	なし	なし	なし	水積(河成)岩			○
ポロベツ川	Y/Y <sub>2</sub>	表層腐植層	腐植層	あり	あり	壤質	粘質	なし	なし	なし	風積(河成)岩			○
成香	B <sub>1</sub> /N	表層腐植層	腐植層	なし	あり	壤質	強粘質	なし	なし	あり	水積(河成)岩			○
岩屋	Y/Y <sub>2</sub>	表層腐植層	腐植層	なし	なし	壤質	強粘質	なし	なし	なし	風積(河成)岩			○
洞爺湖畔	Y/Y <sub>2</sub>	表層腐植層	腐植層	あり	あり	壤質	粘質	なし	なし	あり	非固結(扇状土)岩			○
小鉾岸川	Y <sub>1</sub> /Y <sub>2</sub>	表層腐植層	腐植層	なし	なし	粘質	強粘質	あり	あり	あり	非固結(扇状土)岩		○	

(畑)

土壌統名	色層層	腐植層序	礫層、砂層を混在する砂層	酸化沈積物	土性		母材 堆積様式	分布		
					表土	次層		虹田町	豊浦町	洞爺村
入江泉	YR/YR YR/Y	表層腐植なし "	あり "	なし "	壤質	砂質	風積 非固結火成岩	○		
入江北	YR/YR	"	"	"	砂質	砂質	風積/崩積 非固結火成岩	○		
月浦	Y/YR	"	<del>なし</del>	"	壤質	壤質	風積/崩積 非固結火成岩	○		
花和	YR/Y	"	<del>なし</del>	"	壤質	壤質	風積/崩積 非固結火成岩	○		
三豊	YR/Y	埋没土層あり	なし	"	壤質	壤質	風積 非固結火成岩	○		○
香川	Y/YR	"	"	"	壤質	粘質	風積 非固結火成岩	○	○	○
大原	Y/YR	"	"	"	壤質	粘質	風積 非固結火成岩			○
ピリカベツ	Y/YR	表層腐植なし	あり	"	礫質	礫質	風積/崩積 非固結火成岩			○
モイナイ	Y/YR	"	"	"	礫質	強粘質	風積/崩積 非固結火成岩			○
清水	YR/Y	"	"	"	壤質	壤質	風積/崩積 非固結火成岩	○	○	○
桜	YR/YR	表層腐植層	なし	"	壤質	粘質	風積/洪積 非固結火成岩			
大西山	YR/YR	表層腐植なし	"	"	壤質	壤質	洪積 非固結火成岩			○
山梨	YR/YR	表層腐植層	"	"	粘質	強粘質	洪積 非固結火成岩			○
上泉	YR/YR	"	"	"	粘質	強粘質	洪積 非固結火成岩			○
大和	YR/YR	表層腐植なし	"	"	壤質	壤質	崩積 非固結火成岩			○
高岡	YR/YR	表層多腐植層	"	"	強粘質	粘質	崩積 非固結火成岩			○
豊泉	YR/YR	表層腐植なし	"	"	強粘質	強粘質	残積 非固結火成岩			○
ボンベ	"	表層腐植層	"	"	粘質	粘質	崩積/残積 非固結火成岩			○
貫気別川	YR/YR (3)/YR6)	"	"	"	壤質	壤質	水積(河成) 非固結火成岩			○
大岸	YR/YR	表層腐植なし	あり	"	砂質	砂質	水積(海岩砂) 非固結火成岩			○

## (2) 土壤区一覽

## (水田)

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式	面 積 (ha)	備 考
入 江 南 - 入 江 南	II dEn	6 8	
礼 文 華 - 礼 文 華	II Ena	8 9	
寺 の 沢 - 寺 の 沢	III r II tdr fa	1 0 0	
財 田 - 財 田	II En	6 1	
ポロベツ川 - ポロベツ川	II En	9 1	
成 香 - 成 香	III r II a	3 5	
岩 屋 - 岩 屋	I n	6	
洞爺湖畔 - 洞爺湖畔	II Er	1 8	
小銚岸川 - 小銚岸川	II tdr fa	3 6	

## (畑)

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式	面 積 (ha)	備 考
入 江 - 入 江	III t d(w) ie II gas	5 0	
泉 - 泉	III e II tds	1 9 0	
入 江 北 - 入 江 北	III (w) lgi II ns	9 3	
月 浦 - 月 浦 - 1	III e II tds	1 8 5	
月 浦 - 月 浦 - 2	III e II fna	3 5 3	
花 和 - 花 和	III te II ds	7 0	
三 豊 - 三 豊	III e II ts	3 1 0	
香 川 - 香 川 - 1	II f ni	6 9 0	
香 川 - 2	II f n	7 8 7	
香 川 - 3	II fr se	1 6 7	豊浦町 48 ha 洞爺村 119 ha
大 原 - 大 原	II w n	9 3	
ピリカベツ - ピリカベツ	IV se III d(w) i II tpf na	3 9	
モイナイ - モイナイ	III g(w) e II f ni s	2 1	
清 水 - 清 水	III i II t(w) se	3 5 7	虹田町 271 ha 豊浦町 86 ha
桜 - 桜	III f II tn se	1 2 2	
大 西 山 - 大 西 山	III n II tf se	4 4 3	豊浦町 330 ha 洞爺村 113 ha
山 梨 - 山 梨	III t II e	7 6 1	
上 泉 - 上 泉	III f n II td se	1 7 5	
大 和 - 大 和	III td II gwf se	8 4	
高 岡 - 高 岡	III f II tdpn se	2 5 0	
豊 泉 - 豊 泉	III t II d gwf n se	3 2 4	
ポソベンベ - ポソベンベ	II td g se	8 8	
貫気別川 - 貫気別川	II t d fa	2 0	
大 岸 - 大 岸	III t f n II da	3 6	

## 2) 土壌統別説明

水 田

### 入 江 南 統

#### (1) 土壌統の概要

##### A 土壌統の特徴

##### A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15～25cmで腐植含量2～3%、土性はSLである。色は10YRで明度3～5彩度1～3である。礫を含む。発達弱度の細塊状構造。ち密度19～23で中。酸化沈積物含む。PH(H<sub>2</sub>O)6.0前後。下層との境界は波状明瞭である。

第2層は厚さ20～30cmで腐植含量1～2%、土性はSiCLである。色は10YRで明度4～6、彩度3～5である。礫あり。均質連結状。ち密度13～17で中。酸化沈積物富む。PH(H<sub>2</sub>O)6.3前後。下層との境界は平坦明瞭である。グライ層。湧水あり。

第3層は47cm以下で安山岩半円礫の砂礫層。細土の土性はSLである。色は10YRで明度2～4、彩度3～5である。単粒構造。ち密度密。PH(H<sub>2</sub>O)6.2前後。湧水あり。

#### 代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 虻田町入江(試坑 a5)

第1層	0～20cm	腐植含む、灰褐(10YR4/2)のSL、礫を含む。発達弱度の細塊状構造。ち密度21で中。酸化沈積物含む。PH(H <sub>2</sub> O)6.0。調査時の湿り湿。層界波状明瞭。
第2層	20～47cm	腐植あり、黄褐(10YR5/4)のSiCL、礫あり。均質連結状。ち密度15で中。酸化沈積物富む。PH(H <sub>2</sub> O)6.3。調査時の湿り潤。グライ層。湧水あり。層界平坦明瞭
第3層	47cm～	安山岩半円礫の砂礫層。黄褐(10YR3/4)のSL。単粒構造。ち密度密。PH(H <sub>2</sub> O)6.2。調査時の湿り潤。湧水あり。

#### 代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 (%)	礫重 含量(%)	粒 径 組 成 %				土 性	全 炭 素 %	全 窒 素 %	炭 素 率 %	腐 植 %	PH	
				粗砂	細砂	シルト	粘土						H <sub>2</sub> O	Kcl
1	0～20	1.7		55.2	20.4	16.3	8.1	SL	1.21	0.31	9.3	2.1	6.0	5.3
2	20～47	3.0		1.1	21.1	55.0	22.8	SiCL	0.99	0.07	14.1	1.7	6.3	5.2
3	47～	1.2		59.9	25.0	9.7	5.4	SL	-	-	-	-	6.2	5.4

層位	置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換容量me/100g			塩基飽和度 %	磷酸吸収係数	乾土効果	30℃ NH <sub>4</sub> -N 発生量mg/100g		有効態磷酸 mg/100g	遊離磷酸 鉄 %
			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O				乾土	湿土		
1	1.1	14.8	11.0	3.0	0.3	89.9	690		2.0		3.5	-
2	0.8	25.8	20.3	5.0	0.5	100.0	1,207		0.5		tr	-
3	0.5	10.7	7.4	2.4	0.3	94.4	542					

A - 2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としては入江統、入江北統とがあるが、入江統とは腐植層序が異り、入江北統とは表土の土性が異なるので、本統と区別される。

A - 3 母材 非固結火成岩

A - 4 堆積様式 風積(火山性)/崩積

B 地形 平坦

C 気候 年平均気温 8.3℃ 年降水量 864.0mm

D 植生及び利用状況

水田に利用されている。

E 農業上の留意事項

低地に存し排水を行うことが必要である。また土性が粗いため客土をして保水力、保肥力を増加させることが必要である。

F 分布

北海道虻田郡虻田町入江

調査及び記載責任者 上坂晶司(北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
入江南-入江南	II d ln

② 土壌区別説明

入江南統 - 入江南区
-------------

示性分級式(水田)

土	表	有	表	耕	湛	作	酸	易	遊	グ	土	透	保	自	固	土	養	置	有	微	障	炎	増	
壤	効	効	土	土	土	土	土	分	離	離	地	水	水	然	肥	層	換	性	効	量	害	物	地	
生	土	土	土	土	水	土	土	化	性	酸	の	水	潤	肥	の	分	性	苦	加	量	害	害	冠	
産	の	の	の	の	透	の	の	還	有	化	の	水	肥	肥	塩	の	石	里	里	量	害	害	す	
力	層	層	層	層	透	透	透	還	機	化	の	水	潤	肥	基	の	苦	里	里	量	害	害	べ	
可	厚	厚	厚	厚	透	透	透	還	物	化	の	水	潤	肥	基	の	苦	里	里	量	害	害	り	
能	の	の	の	の	透	透	透	還	含	化	の	水	潤	肥	基	の	苦	里	里	量	害	害	の	
性	含	含	含	含	透	透	透	還	量	化	の	水	潤	肥	基	の	苦	里	里	量	害	害	危	
等	深	深	深	深	透	透	透	還	量	化	の	水	潤	肥	基	の	苦	里	里	量	害	害	険	
級	さ	さ	さ	さ	透	透	透	還	量	化	の	水	潤	肥	基	の	苦	里	里	量	害	害	度	
t	d	g	p		ℓ	r	w	f	n	i	a													
第Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅰ	-	-	-	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅲ	Ⅲ	-	Ⅰ	Ⅰ
簡略分級式 第Ⅱdℓn																								

A 土壌区の特徴

この土壌区は入江南統に属する。表土の厚さは20cm前後でやや深い。有効土層は47cm前後でやや深い。表土の土性は壤質のため耕起、碎土は容易である。保肥力大、固定力中庸であるが塩基含量も多く自然肥沃度は高い。作土の養分は石灰多、苦土多、磷少、加里多で多い。反応は微酸性である。

B 植生及び利用状況

水田として利用されている。

C 地力保全上の問題点

低湿地に存するため、灌漑、排水路の整備を要する。また土性が粗く良質粘土の客土が必要である。また堆肥の施用につとめること。

D 分布

北海道虻田郡虻田町入江

記載責任者 上坂 晶 司 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和44年3月31日

礼 文 華 統

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm弱で腐植含量は5%内外、土性はCL。色は10YRで彩度3明度5である場合が多い。礫は含まない。無構造、ち密度15前後で疎。糸根状の斑紋を含む。透水性中である。PH(H<sub>2</sub>O)5.5前後、下層との境界は平坦判然である。

第2層はすき床層で厚さ5cm程度腐植含量は5%内外である。色は10YRで彩度1~3、明度5、土性はCL。礫なく無構造、ち密度20で中、PH(H<sub>2</sub>O)5.5前後、透水性中である。マンガンの斑紋に富む。下層との境界は平坦明瞭

第3層は厚さ45~50cm、腐植含量2%弱、土性はSL、が主であるが部分的に火山砂層があ

る。色は10YR、明度4~6、彩度2~4である。無構造、細孔げきを含む。上部はマンガン紋に富む。透水性良好、ち密度20前後で中。PH(H<sub>2</sub>O)5.6下層との境界波状判然。

第4層は安山岩の風化中円礫からなる礫層である。

代表的断面形態

(水田)

所在地 虹田郡豊浦町礼文華 (試坑y50)

第1層	0~18	腐植を含む黄褐(10YR5/3)のCL、無構造、糸根状の斑紋あり。礫なし。粘着性、透水性中、ち密度13で疎、PH(H <sub>2</sub> O)5.2調査時の湿り湿。境界平坦判然。
第2層	18~22	腐植を含む黄褐(10YR5/3)のCL、均質連結状で糸根状紋あり、マンガン紋含む。ち密度20で中、PH(H <sub>2</sub> O)5.2、調査時の湿り湿。境界平坦明瞭。
第3層	22~65	腐植欠く黄褐(10YR4/4)のSL、均質連結状で第2層近くはマンガン紋に富む。ち密度19で中、透水性良、PH(H <sub>2</sub> O)5.6、調査時の湿り湿、境界波状判然。
第4層	65~	安山岩の風化中円礫からなる礫層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成%				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素%	全窒素%	炭素率	腐植%
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
I	0~22	5.24	0	8.3	41.6	30.6	19.5	CL	-	-	2.58	0.20	13.0	4.4
II	22~43	3.74	0	19.8	58.2	17.7	4.3	SL	-	-	0.93	0.07	13.3	1.6

層位	PH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			塩基飽和度%	磷酸吸収係数	有効態 mg/100g		乾土効果	30°C NH <sub>4</sub> -N 発熱量 mg/100g		遊離酸化鉄%
	H <sub>2</sub> O	Kcl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	N		乾土	湿土	
I	5.2	4.3	3.3	26.5	13.7	4.1	0.4	68.4	1,434	10.8			7.29		2.84
II	5.6	4.9	0.7	21.5	12.7	2.8	0.6	74.7	1,453	6.7			1.12		2.38

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としては貫気別川統があるが本統の方が腐植含量が著しく少くまた腐植層も薄いこと、下層に礫層が出現することで区別される。

A-3 母材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 河成沖積

B 地形 礼文華川の沖積面

C 気候 年平均降水量 864mm 年平均気温 8.3°C

D 植性および利用状況

大部分が水田として利用されているが、上流部では畑地となっている。

E 農業上の留意事項

腐植に乏しいこと、透水性が良好なことから有機物の施用の要がある。

F 分布 北海道虻田郡豊浦町礼文華

調査および記載責任者 木村 清(北海道立中央農業試験場)  
年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
礼 文 華	(稻) IIlna

② 土壌区別説明

礼 文 華 統 - 礼 文 華 区

示性分級式(水田)

土	壤	表	有	表	耕	湛	酸	土	自	養	障	災																				
生	効	表	表	作	易	遊	透	保	濕	固	置	有	微	障	災																	
産	土	土	土	土	化	分	地	然	層	換	性	苦	加	磷	珪	害	理	冠	す													
力	の	の	の	乾	透	50	還	性	化	の	水	水	度	肥	定	塩	の	性	苦	加	磷	珪	害	理	冠	す						
可	の	の	の	粘	50	の	機	有	鉄	の	水	水	度	肥	定	塩	の	性	苦	加	磷	珪	害	理	冠	す						
能	厚	深	難	土	着	硬	土	密	含	化	乾	沃	基	状	豊	含	性	苦	加	磷	珪	害	理	冠	す							
等	さ	さ	量	易	性	性	性	度	性	量	度	湿	性	性	度	力	力	態	否	量	素	度	性	無	性	性	度					
級	t	d	g	p	ℓ	r	w	f	n	i	a																					
II	I	I	I	I	2	2	II	3	2	I	1	1	1	I	1	1	1	I	1	1	1	2	3	1	1	1	I	1	1	II	2	1
II	I	I	I	1	1	1																										

簡略分級式(稻) IIlna、(畑) IItdna

A 土壌区の特徴

この土壌区は礼文華統に属する。表土は20cm前後で厚く有効土層も60cmで深い。作土は中粒質で粘着性弱く耕起、碎土は容易である。下層に礫層があるため湛水透水性は良好である。酸化還元性は弱く水稻の根系障害はない。保肥力大、土層の塩基は飽和されて自然肥沃度は高い。置換性塩基の含量も多いが腐植が少ない。

B 植生および利用状況

水田、一部畑として利用されている。

C 地力保全上の問題点



水田としての利用では透水性が良すぎるので漏水の激しい場合は粘土客土が必要である。有機物の分解が早いので有機物の施用を行うこと。畑地としての利用では作土が浅いので有機物を施用して深耕し作土層を深めること。酸性矯正を行うこと。

D 分 布 虻田郡豊浦町礼文華

記載責任者 木 村 清 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

寺 の 沢 統

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は10～15cmで腐植7%前後、土性はLiCが主である。色は10YR、明度3～4、彩度3～4である。礫はない。細孔げきあり、糸根状斑紋に富む。粘着性大で透水性は小である。ち密度5ではなはだ疎、PH(H<sub>2</sub>O)5.0前後、グライ層であり、調査時の湿り潤。境界平坦判然。

第2層は5cm前後、腐植は7%前後、土性はLiCである。色は5GY、明度5、彩度1である。酸化鉄の層状斑を含む。粘着性大、無構造である。PH(H<sub>2</sub>O)5.0前後、調査時の湿り潤。境界平坦判然、グライ層。

第3層は20cm前後、腐植は8%前後、土性はSiC、色は10Yで明度5、彩度1である。グライ層となつている。均質連結状、糸根状酸化鉄の斑紋を含む。粘着性大で透水性小PH(H<sub>2</sub>O)4.8前後、調査時の湿り湿、下層へは漸変する。

第4層は表土下30cm以深でグライ層となつている。腐植を欠くHC、色は10YR、明度6、彩度1ち密度10で疎。

代 表 的 断 面 形 態

水 田

(所在地) 虻田郡豊浦町大岸 (試坑Y54)

第1層	0～10	腐植に富む黄褐(10YR4/3)のLiC、均質連結状、糸根状紋に富む。ち密度5ではなはだ疎、透水性不良。PH(H <sub>2</sub> O)4.9調査時の湿り潤、層界平坦判然。
第2層	10～15	腐植に富む青(5GY5/1)のLiC、均質連結状。糸根状紋に富む。ち密度5ではなはだ疎、PH(H <sub>2</sub> O)4.9調査時の湿り潤層界平坦判然(黝床層)
第3層	15～30	腐植に富む灰(10Y5/1)のSiC、均質連結状、グライ層となつている。ち密度15で疎、透水性不良PH(H <sub>2</sub> O)4.8。調査時の湿り湿、境界平坦漸変。
第4層	30～	腐植欠く灰褐(10YR6/1)のHC、均質連結状でグライ層。ち密度7ではなはだ疎、調査時の湿り潤、ヨシの遺体含む

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含 量重 量%	粒 径 組 成 %				土性	現地 容積 重g	真 比 重	全 炭 素 %	炭 素 率 %	炭 素 率	腐 植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
I	0 ~ 15	5.38	-	7.2	21.5	42.3	29.0	LiC			4.33	0.30	14.4	7.5
II	15 ~	5.64	-	2.9	20.6	48.0	28.5	LiC			4.66	0.34	13.7	8.0

層位	PH		置換 酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置 換容量 me/100g	置換性塩基me/100g			塩基 飽和 度%	磷酸級 収係数	有効態 mg/100g		乾 土 効 果	30℃:NH <sub>4</sub> 発生量 -N mg/100g		遊離 酸化 鉄%
	H <sub>2</sub> O	Kcl			Ca O	Mg O	K <sub>2</sub> O			P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	N		乾土	湿土	
I	4.9	4.3	4.2	26.3	9.6	3.0	0.2	48.8	1,580	7.6		-	22.2		2.99
II	4.8	4.3	6.8	27.9	9.1	4.1	0.1	47.6	1,653	8.5		-	20.1		4.34

A - 2 他の土壌統との関係

本統と堆積様式の同じものには礼文華統、貫気別川統があるが二者とも土性が荒いこと、透水性が良好で土層は酸化的であり、本統は還元的であることで大きく区別されるものである。

A - 3 母 材 非固結水成岩

A - 4 堆積様式 河成沖積

B 地 形 現河川の沖積平地と沢の平地

C 気 候 年平均降水量 864 mm、年平均気温 8.3 °C

D 植生および利用状況

水田として利用されている。

E 農業上の留意事項

排水を行うこと。

F 分 布 北海道虻田郡豊浦町礼文華、大岸

調査および記載責任者 木 村 清 (北海道立中央農試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
寺 の 沢	IIIr IIpfna

② 土壌区別説明

寺 の 沢 統 - 寺 の 沢 区
-------------------

示性分級式(水田)

土	壤	表	有	表	耕	(	湛	(	酸	(	土	(	自	(	養	(	障	(	災	(
生	効	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土
産	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土
力	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
可	層	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
能	厚	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
性	深	含	難	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
等	さ	量	易	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
級	t	d	g	p		l		r		w		f		n				i		a
簡略分級式	IIIr Ip fna																			

A 土壤区の特徴

この土壤区は寺ノ沢統に属する。表土は厚く有効土層も深い。表土の土性は細粒質で粘着性が強い。ため耕起、碎土はやや困難である。易分解性有機物含量が多く作土からグライ層となつていて酸化還元性大で水稻の根系障害が考えられる。固定力大、土層の塩基状態中で自然肥沃度は中である。置換性加里と磷酸にやや欠乏している。

地形はほぼ平坦である。

B 殖生および利用状況

水田としての利用がほとんどである。

C 地力保全上の問題点

この土壤区では排水不良であることが最大の制限因子となつている。排水溝を整備し、暗渠排水を行うこと。

D 分布 虻田郡豊浦町大岸、礼文華

記載責任者 木村 清 (北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和44年3月31日

財 田 統

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ13~15cmで腐植含量4~6%、土性はSLであるが、Lの場合もある。色は5Y彩度2明度4、発達弱度の塊状構造、ち密度1.2~1.7で疎、酸化沈積物あり本層の下位部に酸化沈積物の集積することあり、PH(H<sub>2</sub>O)4.3前後、下層との境界は明瞭、以下1~3層までは水積層(河成)なるも火山灰(U-IIa、U-b<sub>1</sub>)も混入。

第2層は6~9cm、腐植含量4~5%、土性はSL、色は5Y彩度2明度4発達中度の塊状構造ち密度1.8~2.1で中、酸化沈積物あり~富む。PH(H<sub>2</sub>O)5.0前後、下層との境界明瞭

第3層は5~15cm、腐植を欠く、土性はSL、色は2.5Y彩度2明度4、発達弱度の塊状~均質連結状構造で、ち密度1.5~2.3で疎~中、酸化沈積物を集積することあり、PH(H<sub>2</sub>O)5.2

前後、下層との境界面然

第4層は厚さ30～80cm腐植を欠く、土性はSL、色は5～7.5Y彩度2明度4均質連結であるが、板状構造になつていることもある。ち密度15～29で疎～密、腐植根管あり、小中孔隙に富む、PH(H<sub>2</sub>O)5.6前後、下層との境界面然U-b<sub>1</sub>層

第5層は20cm以上で、腐植含量3～7%、2層に細区分される。6～10cmは土性CL～Lic色は10YR彩度2～3明度4、発達弱～中度の塊状構造、小中孔に富む。ち密度14～18で疎下層との境界判然～明瞭、13～18cmは土性CL、色は10YR彩度4～6明度4、発達弱度の塊状構造で、小中孔に富む。ち密度12～15で疎、酸化沈積物含む。水積(河成)層

代表的断面形態

(水田)

(所在地)北海道虻田郡洞爺村、財田(試坑t27)

第1層	0～16cm	2層に細区分される。0～15cmは腐植に富み灰(5Y4/2)のSL、発達弱度の塊状構造、ち密度12で疎、PH(H <sub>2</sub> O)4.3酸化沈積物(膜状、雲状)あり、調査時の湿り乾、境界平坦明瞭、15～16cmは腐植に富む、黄褐(7.5YR5/6)の酸化沈積物の集積層、SLで、境界平坦明瞭、第1～第3層火山灰(U-IIaU-b <sub>1</sub> )と凝灰岩質土壌の水積層(河成)
第2層	16～25	腐植を含む灰(5Y4/2)のSL、来風化の小角礫あり、発達中度の、塊状構造、ち密度18で疎、PH(H <sub>2</sub> O)5.0酸化沈積物(膜状、雲状)に富む、調査時の湿り乾、境界平坦明瞭、
第3層	25～40	腐植を欠く灰(2.5Y4/2)のSL、発達極弱度の塊状構造、小中孔を含むち密度15で疎、PH(H <sub>2</sub> O)5.2調査時の湿り乾、境界平坦面然
第4層	40～78	腐植を欠く灰(7.5Y4/2)のSL、均質連結状で、中孔を含む、ち密17で疎、PH(H <sub>2</sub> O)5.6調査時の湿り乾、境界平坦面然、U-b <sub>1</sub> 層
第5層	78～102	2層に細区分できる。78～84cmは腐植に富むにぶい黄褐(10YR4/3)のL、84～102cmは腐植を含む黄褐(10YR4/6)のCL、いずれも発達弱度の塊状構造で、小中孔を含む、ち密度12～14で疎、調査時の湿り乾、境界平坦明瞭、水積層(河成)

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成%				土性	現地容積 重g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
27-1	0～15	3.6		17.1	51.9	18.9	12.1	SL	155.5	2.56	1.72	0.20	9	5.8
2	16～25	3.6		9.6	57.8	21.0	11.6	SL			3.35	0.16	21	4.6
3	～40	4.0		6.2	67.7	16.4	9.7	SL	123.9	2.77	-	-	-	-
4	～78	2.4		24.1	46.5	24.1	5.3	SL			-	-	-	-
5	～102	4.8		11.4	45.6	25.3	17.7	CL			2.70	0.23	12	5.1

層位	PH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			塩基飽和度%	磷酸吸収係数	有効態 mg/100g		乾土効果	30℃NH <sub>4</sub> -N 発生量 mg/100g		遊離酸化鉄%
	H <sub>2</sub> O	Kcl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	N		乾土	湿土	
27-1	4.3	3.8	16.63	18.6	7.7	1.1	0.1	47.8	808	11.4	tr	3,500			1.66
2	5.0	4.2	2.68	20.8	14.5	2.3	0.2	81.7	983	2.0	tr	1,400			2.57
3	5.2	4.3	1.87	23.7	17.3	3.0	0.3	86.9	990	1.7					
4	5.6	4.3	1.34	15.4	11.7	1.7	0.4	89.6	705	3.1					
5	5.6	4.7	1.34	28.0	23.5	4.5	0.4	101.4	1,150	1.4					

A-2 他の土壌統との関係

本土壌に類似する統としては、ポロベツ川統と成香統がある。ポロベツ川の表土は風積（火山灰）であるが、本統の表土は、火山灰と凝灰岩質土壌の混合水積（河成）物であつて、その下に風積（火山灰）層が挟在するので区分される。また、成香統は、堆積様式はポロベツ川統と同じであるが、湿潤でグライ化しており、かつ羊蹄ローム再堆積（河成水積）したもので土性も細粒であり、本統と区別できる。

A-3 母材 半固結火成岩

A-4 堆積様式 水積（河成）/風積（火山灰）/水積（河成）

B 地形 平坦

C 気候 年平均気温 7.6℃ 年降水量 1,125 mm

D 植生及び利用状況 水田（一毛作田）

E 農業上の留意事項

強粘質土壌の客土、酸性矯正、塩基、有機物の補給、窒素、加里の分施

F 分布 北海道虻田郡洞爺村、財田、川東

調査及び記載責任者 小林 茂（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和44年3月31日

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
財 田	II <sub>cln</sub>

② 土壌区別説明

財 田 統 一 財 田 区

示性分級式(水田)

土	表	有	表	耕	表	表	湛	作	酸	遊	土	自	保	養	置	有	微	障	災
壤	効	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土
生	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土
産	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土
力	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
可	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
能	厚	含	難	粘	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土
性	深	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
等	さ	量	易	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
級	t	d	g	p			ℓ	r			w	f		n				i	a
	III	I	I	I	I	I	II	3	2	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I
	簡略分級式 II <sub>ℓn</sub>																		

A 土壤区の特徴

この土壤区は、財田統に属する。表土の厚さは25~40cm、有効土層は1m以上で深い。壤質で、粘性弱く、耕起砕土は容易である。湛水透水性は大きい。易分解性有機物少なく、酸化鉄も少く根糸障害は認められない。保肥力、固定力中であるが、土層の塩基状態は良く、自然沃度は高い。有効態磷酸に富むが置換性塩基は中庸で酸性は強く、養分状態は中程度、障害性、災害性はない。

B 植生および利用状況

水田(一毛作田)

C 地力保全上の問題点

強粘質土壤の客土が望ましい。石灰を施用してPHの矯正を要する。塩基の補給と窒素加里の分施が効果的である。また堆厩肥など有機物の補給も忘れてはならない。

D 分布 北海道虻田郡洞爺村財田、川東

記載責任者 小林 茂 (北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和44年3月31日

ポ ロ ベ ツ 川 統

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ18~20cmで腐植含量5.2%、2層に細区分される。11~13cmは、土性SLで、小さな溶岩礫あり、色は2.5Y彩度2明度4、発達弱度の塊状構造でち密度は1.4~1.7で疎酸化沈積物を含む。PH(H<sub>2</sub>O)4.4、下層との境界判然~漸変、次の5~9cmは土性SL、小さな溶岩礫あり、色は1.0Y彩度1明度5、発達弱度の小角柱状~塊状構造、細小孔に富む、ち密度2.1~2.2で中、酸化沈積物に富む、PH(H<sub>2</sub>O)4.4、下層との境界面然、U-IIa、U-b<sub>1</sub>の混合層、

第2層は厚さ4~18cmで腐植を欠く、土性SL、色は1.0Y彩度1明度4、均質連結状で細小孔にすこぶる富む、ち密度2.3で中、PH(H<sub>2</sub>O)5.1、下層との境界面然、U-b<sub>1</sub>層

第3層は厚さ12cmで腐植5%前後、土性CL、色は10YR、彩度4明度3、発達弱度の粒状塊状の複合構造、細小孔に富む、ち密度2.0で中、PH(H<sub>2</sub>O)5.4下層との境界波状明瞭、本層以下水積層(河成)

第4層は厚さ3.8~6.5cmで、腐植層を欠く、3~7層のSとSLの互層からなる。S層は、2.5~5Y彩度3~6明度4、単粒構造、ち密度1.1~1.7で疎

SL層は10YR彩度4~6明度4、発達弱度の塊状構造で細小孔富む、ち密度1.1~1.6で疎酸化沈積物を含む、いずれもPH(H<sub>2</sub>O)5.4各層の境界判然

第5層は厚さ2.4cm以上で腐植を欠く砂礫層

代表的断面形態

(水田)

(所在地) 北海道虻田郡洞爺村財田(試坑 t14)

第1層	0~18cm	2層に細区分される。0~13cmは腐植に富む、灰(7.5Y4/1)のSL、発達弱度の塊状構造、来風化な小角礫あり、ち密度1.7で疎、酸化沈積物あり、PH(H <sub>2</sub> O)4.4、調査時の湿り半乾、境界平坦判然、1.3~18cmは腐植に富む青灰(10Y4/1)のSL、発達弱度の小角柱状構造、細小孔に富む、ち密度2.1で中、酸化沈積物(膜状管状)にすこぶる富む、調査時の湿り乾、境界平坦面然U-IIa(1-b <sub>1</sub> 混合層
第2層	1.8~3.6	腐植を欠く青灰(10Y4/1)のSL、均質連結状で細小孔にすこぶる富む、ち密度2.3で中、PH(H <sub>2</sub> O)5.1、調査時の湿り乾、境界平坦面然、U-b <sub>1</sub> 層
第3層	3.6~4.8	腐植に富む黄褐(10YR3/4)のCL、発達弱度の粒状、塊状の複合構造、細小孔に富む、ち密度2.0で中、PH(H <sub>2</sub> O)5.4、調査時の湿り乾、境界波状明瞭。以下水積層(河成)
第4層	4.8~7.6	腐植を欠き3層に細区分できる。4.8~5.5cmと6.1~7.6cmは、黄褐(2.5Y4/4)のS、単粒状で、中孔を含み、ち密度1.1~1.3で疎、5.5~6.1cmは黄褐(10YR4/4)SL、均質連結状で、小中孔を含む、いずれもPH(H <sub>2</sub> O)5.4、調査時の湿り乾、境界判然
第5層	7.6~	腐植を欠く砂礫層で調査時の湿り乾

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成%				土性	現地容積 重g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
14-1	0~1.8	3.5		20.4	47.5	18.8	13.3	SL	153.8	2.55	3.00	0.18	17	5.2
2	~3.6	2.1		26.3	47.7	20.5	5.5	SL	188.2	2.69	-	-	-	-
3	~4.8	5.3		17.7	42.5	22.6	17.2	CL			2.90	0.18	16	5.0
4	~6.6	4.4		54.6	31.2	6.4	7.8	LS			-	-	-	-

層位	PH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g				塩基飽和度 %	燐酸吸収係数	有効態 mg/100g		乾土効果	30℃NH <sub>4</sub> -N 発生量 mg/100g		遊離酸化鉄%
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>			N	乾土		湿土		
	14-1	4.4	3.9	14.75	18.3	7.9	2.0	0.1		51.7	640	4.6	0.525	1.225		
2	5.1	4.2	4.29	14.1	9.7	0.8	0.3		76.6	895	2.0	1r	1.225			1.69
3	5.4	4.6	0.53	28.7	24.4	2.9	0.4		96.5	1,119	0.6					
4	5.4	4.5	0.80	24.5	20.7	3.3	0.4		99.6	1,011	-					

A - 2 他の土壌統との関係

本土壌に類似する統としては、財田統と成香統があるが財田統の表土は火山灰と凝灰岩質土壌との混合水積（河成）層であつて、その下に風積（火山灰）層が挟在するが、本統の表土は風積（火山灰）で、その下層が水積（河成）層となつているので区分できる。また成香統は堆積様式は本統と同じであるが、下層の母材が本統は凝灰岩質土壌で、最下層に礫をともなりが、成香統では、羊蹄ロームの再堆積（河成水積）したもので、礫がなくかつグライ化しているので区別できる。

A - 3 母材 非固結火成岩 / 固結火成岩

A - 4 堆積様式 風積（火山性） / 水積（河成）

B 地形 緩傾斜

C 気候 年平均気温 7.6℃ 年降水量 1,125 mm

D 植生及び利用状況 水田（一毛作田）

E 農業上の留意事項

強粘質土の客土、酸性矯正、燐酸の増施、塩基有機物の補給、窒素、加里の分施

F 分布 北海道虻田郡洞爺村、財田、洞爺

調査及び記載責任者 小林 茂（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
ボロベツ川	II In

(2) 土壌区別説明

ボロベツ川統 - ボロベツ川区



示性分級式(水田)

土	壤	表	有	表	耕	(	湛	(	酸	(	土	自	養	(	障	災	(									
生	表	表	表	表	表	作	作	易	遊	グ	透	保	湿	自	養	置	有	微	酸	有	物	増	地			
産	効	土	土	土	土	土	土	土	土	土	地	然	層	層	分	換	"	"	効	"	"	害	理	冠	す	
力	土	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	
可	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	
能	厚	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	
性	深	含	難	土	粘	土	着	硬	水	土	性	度	性	度	性	度	性	度	性	度	性	度	性	度	性	
等	さ	さ	量	易	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	
級	t	d	g	p	ℓ	r	w	f	n	i	a															
⑧	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	
簡略分級式 Ⅱℓn																										

A 土壤区の特徴

本土壤区はポロベツ川統に属する。表土の厚さ3.6～3.8cmで厚く、有効土層は7.6cm内外で深い。壤質であるから、耕起砕土は容易である。湛水透水性は大きい。易分解性有機物、酸化鉄は少なく、根系障害は認められない。保肥力は中庸であるが、固定力は小さく、土層の塩基状態は良好で自然肥沃度は比較的高い。しかし表土の置換性塩基、有効態養分は中庸であるが、酸性が強いので養分状態は中程度である。障害性、災害性はない。

B 植生及び利用状況 水田(一毛作田)一部未耕地

C 地力保全上の問題点

強粘質土壌の客土が望ましい。石灰を投与して、酸性矯正をする。磷酸の施用も有効であり、塩基の補給と、窒素、加里の分施が効果的である。また、堆肥など有機物の補給も忘れてはならない。

D 分布 北海道虻田郡洞爺村、財田、洞爺

記載責任者 小林 茂 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和44年3月31日

成 香 統

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ2.0cm内外、腐植4.6%、土性はL、色は5Yで彩度2明度4発達弱度の塊状構造、ち密度1.4で疎、酸化沈積物を含む、PH(H<sub>2</sub>O)5.9、下層との境界波状明瞭、第1～2層はU-b<sub>1</sub>層

第2層は厚さ4.4cm内外で腐植を欠く。土性はSL、色は7.5Y彩度2明度4発達弱度の塊状構造で、ち密度1.7の疎、酸化沈積物あり。PH(H<sub>2</sub>O)6.3、湧水し弱グライである。下層との境界明瞭

第3層は厚さ3.6cm以上、腐植を含む、土性Lic、色は7.5Y彩度3明度4、グライ化している。

代表的断面形態

(水田)

(所在地)北海道虻田郡洞爺村成香 (試坑 t37)

第1層	0~2.0	腐植を含む。灰(5Y4/2)のL、発達弱度の塊状構造、ち密度1.4で疎、PH(H <sub>2</sub> O) 5.9 酸化沈積物(膜状)を含む、調査時の湿り湿、境界波状明瞭、第1~第2層U-b <sub>1</sub>
第2層	2.0~6.4	腐植を欠く青灰(10Y4/2)のSL、発達極弱度の塊状構造、ち密度1.7 PH(H <sub>2</sub> O) 6.3 酸化沈積物(膜状)あり、調査時の湿り潤、湧水し弱グライ、境界平坦明瞭
第3層	6.4~	腐植を含む、青灰(10Y3/2)のLic、グライ層で調査時の湿り潤水積層(河成)

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒径組成%				土性	現地容積 重g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
37-1	0~2.0	3.5	-	12.7	58.4	20.9	8.0	SL	89.0	2.6	2.65	0.21	13	4.6
2	~6.4	1.6	-	8.0	29.8	43.0	19.2	CL	121.0	2.7	0.73	0.04	18	1.3

層位	PH		置換 酸度 Y <sub>1</sub>	塩基 置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g				塩基 飽和 度%	磷酸 吸収 係数	有効態 mg/100g		乾土 効果	30℃NH <sub>4</sub> -N mg/100g		遊離 酸化 鉄%
	H <sub>2</sub> O	Kc/φ			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>			N	乾土		湿土		
	37-1	5.9	4.4	6.00	17.2	8.7	2.4	1.0	70.3	693	6.1					
2	6.3	4.5	4.00	13.6	7.7	3.0	1.3	88.2	485	0.2						

A-2 他の土壌統との関係

本土壌に類似する統としては財田統とポロベツ川統がある。財田統の表土は、水積で、その下に風積を俵在するが、本統の表土は風積(火山灰)下層が水積(羊蹄ロームの再堆積)なので区別できる。また、ポロベツ川統は堆積様式は本統と同じであるが、下層の水積物が凝灰岩質土壌であり最下層に礫をとともうが、本統では礫の混在がなくかつ、グライ化しているので区別される。

A-3 母材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積(火山性)/水積(火山性)

B 地形 平坦低地

C 気候 年平均気温 7.6℃ 年降水量 1.125mm

D 植生及び利用状況 水田(一毛作田)

E 農業上の留意事項

暗渠のほか、一時的停滞水を除去する排水溝の設置、灌漑水の水温上昇

F 分布 北海道虻田郡洞爺村、成香、香川

調査及び記載責任者 小林 茂 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和44年 3 月 31日

- (2) 土壌統の細分
- ① 土壌区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
成 香	II r a

- ② 土壌区別説明

成 香 統 一 成 香 区

示性分級式(水田)

土	壤	表	有	表	耕	(湛	(作	(酸	(遊	(土	(自	(養	(置	(有	(微	(障	(災	
生	産	効	土	土	土	土	土	土	地	透	保	固	層	性	態	量	有	増
力	可	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
能	性	厚	深	含	難	粘	乾	透	還	有	化	性	性	性	性	性	性	性
等	級	さ	さ	量	易	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
		t	d	g	p		ℓ		r		w		f		n		i	a
簡略分級式 II r a																		

**A 土壌区の特徴**

本土壌区は成香統に属する。表土の厚さ64cm内外で厚く、有効土層は1m以上で深い。また表土は壤質で耕起、砕土は容易である。湛水透水性は中であるが、作土直下からグライ化し、還元化が進み水稻根系障害のおそれがある。保肥力は中庸で固定力は小。土層の塩基状態も良好で自然肥沃度は高い。また養分状態も良い。障害性はないが、沢地であるため増冠水の危険性が多少ある。

**B 植生及び利用状況 水田(一毛作田)**

**C 地力保全上の問題点**

暗渠のほか、一時的停滞水を除去し得る排水施設を要する。また沢水灌漑に当つては、水温上昇に特に留意すること。

**D 分 布 北海道虻田郡洞爺村、成香、香川**

記載責任者 小 林 茂 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

岩 屋 統

A 土壌 統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cmで腐植4.7%前後、2層に細区分される。層厚15cmは、土性SL、色は5Y彩度2明度4、未風化小角礫あり。発達弱度の塊状構造でち密度は1.8の疎、酸化沈積物あり、PH(H<sub>2</sub>O)4.6前後、下層との境界明瞭、次の層厚5cmは、酸化沈積物のみ異り含む。第1～第2層はU-II、U-b<sub>1</sub>混合層。

第2層の厚さ6cm内外、腐植4.6%、土性SL、色は10YR、彩度2明度3、未風化小角礫あり。発達弱度の塊状構造でち密度2.2の中、PH(H<sub>2</sub>O)5.2前後、下層との境界判然。

第3層は厚さ31cm内外で腐植を欠き、2層に細区分される。21cmは土性SL、色は7.5Y彩度2明度4、均質連結状で、ち密度1.7の疎、次の層厚10cmは、土性SL、色は7.5Y、彩度2明度5、発達弱度の塊状構造で、小孔を含む、ち密度2.2の中、酸化沈積物あり、いづれもPH(H<sub>2</sub>O)5.5前後、下層との境界明瞭、U-b<sub>1</sub>層

第4層は厚さ7cm内外で腐植6.3%前後、土性LiC、可塑性は強いが粘着性は中、色は10YR彩度2明度2、発達中度の粒状構造、ち密度1.8で疎、PH(H<sub>2</sub>O)5.7前後、下層との境界明瞭以下崩積土。

第5層は36cm以上で、腐植を欠く。2層に細区分される。16cm内外は、土性CLで色は7.5YR彩度6明度5、発達中度の粒状構造、ち密度1.7で疎、下層との境界判然、次の20cm以上は土性、色調同じであるが、弱度の塊状構造で、小孔に富み、かつ動物管を含む。

代 表 的 断 面 形 態

(水田)

(所在地) 北海道虻田郡洞爺村岩屋(試坑 t23)

第1層	0～20cm	腐植を含み2層に細区分される。0～15cmは、灰(5Y4/2)のSL未風化な小角礫あり。発達弱度の塊状構造、ち密度1.8で疎、PH(H <sub>2</sub> O)4.6、酸化沈積(膜状雲状)あり、15～20cmは色調、土性、礫含量、構造ち密度、PHは同じであるが、酸化沈積物(膜状、雲状)を含む、いづれも調査時の湿り乾、境界明瞭第1～第2層U-IIa、U-b <sub>1</sub> 混合層。
第2層	20～26	腐植を含み、灰褐(10YR3/2)のSL、小角礫あり、発達弱度の塊状構造、ち密度2.2で中、PH(H <sub>2</sub> O)5.2調査時の湿り乾、境界判然
第3層	26～57	腐植を欠き、2層に細区分される。26～47cmは灰(7.5Y4/2)のSL、均質連結状で、ち密度1.7の疎、PH(H <sub>2</sub> O)5.5、47～57cmは灰(7.5Y5/2)のSL、発達弱度の塊状構造、小孔を含む、ち密度2.2で中、酸化沈積物(膜、雲状)あり、何れも調査時の湿り乾、境界明瞭U-b <sub>1</sub> 層。
第4層	57～64	腐植を含む、黒(10YR2/2)のLiC、中度の粒状構造、ち密度1.8で疎、調査時の湿り乾、境界明瞭、以下崩積土。

第 5 層	64~	腐植欠く、2層は細区分で可。64~80cmは黄褐(7.5YR5/6)のCL、中度の粒状構造、ち密度17で疎、調査時の湿り乾、境界判然、80~cmは色調同じ、SL、弱度の塊状構造小孔富む、動物管含む、調査時の湿り半乾。
-------	-----	--

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現地 容積 重g	真 比 重	全 炭 素 %	全 窒 素 %	炭 素 率	腐 植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
23-1	0~20	2.8	22.0	44.2	20.7	13.1	SL	171.0	2.55	2.75	0.17	16	4.7
2	~26	2.6	21.1	52.9	16.9	9.1	SL	-	-	2.65	0.13	20	4.6
3	~57	2.3	30.4	43.0	20.7	5.9	SL	157.5	2.67	-	-	-	-
4	~64	6.3	8.8	26.0	36.6	28.6	LiC	-	-	3.65	0.30	12	6.3
5	~80	7.4	20.3	30.6	24.6	24.5	CL	-	-	-	-	-	-

層位	PH		置換 酸度 Y <sub>1</sub>	塩基 置換 容量 me/ 100g	置換性塩基me/100g			塩基 飽和 度 %	磷酸 吸収 係数	有効態 mg/100g		乾土 効果	30℃NH <sub>4</sub> -N 発土量 mg/100g		遊離 酸化 鉄 %
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	N		乾土	湿土	
23-1	4.6	4.1	8.58	15.8	8.6	0.4	0.1	57.6	865	9.5	0.175	3325			2.00
2	5.2	4.5	1.07	16.1	12.4	0.3	0.1	79.5	725	2.0	tr	0.700			1.89
3	5.5	4.5	1.34	15.0	12.4	0.6	0.3	88.7	693	1.7					
4	5.7	5.0	0.53	36.5	32.9	5.2	0.5	105.8	1310	1.4					
5	5.8	5.0	0.53	37.8	33.3	5.2	0.5	103.2	1473	-					

A-2 他の土壌統との関係

本土壌に類似した統としては洞爺湖畔統とモイナイ統がある。洞爺湖畔統の表土は扇状堆土でありかつ湿潤であるが、本統の表土は風積(火山性)で下層土のみ扇状堆土(母材も異なる)なので区別できる。またモイナイ統は同じ風積/扇状堆土であるが、表土が礫質で、畑作地帯となっており、本統の表土は壤質、水田なので区別される。

A-3 母 材 非固結火成岩/固結火成岩

A-4 堆積様式 風積(火山性)/扇状堆土

B 地 形 緩傾斜 5°前後

C 気 候 年平均気温 7.6℃ 年降水量 1,125mm

D 植生及び利用状況 水田(一毛作田)

E 農業上の留意事項 磷酸の増施、塩基の有機物の補給、窒素加里の分施

F 分 布 北海道虻田郡洞爺村、岩屋

調査及び記載責任者 小 林 茂 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和 44 年 3 月 31 日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
岩 屋	Ⅱ n

② 土壤区別説明

岩 屋 統 一 岩 屋 区

示性分級式(水田)

土	壤	表	有	表	耕	表	表	湛	作	酸	遊	土	自	養	置	有	微	障	有	災	地
生	効	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	透	保	固	層	性	酸	害	物	冠	す
産	土	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	地	然	層	の	態	量	質	理	水	べ
力	の	層	の	の	の	の	の	の	の	の	の	水	水	肥	の	の	量	害	的	の	り
可	厚	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	水	潤	肥	塩	石	苦	加	磷	窒	の
能	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	乾	沃	肥	基	灰	土	里	酸	素	の
性	深	含	難	性	性	性	性	性	性	性	性	性	度	力	状	豊	含	量	要	有	危
等	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	度	力	否	量	量	素	害	險	險
級	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	度	度	否	量	量	度	性	性	度
	t	d	g	p				ℓ	r		w	f		n				i	a		
④	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
④	□																				
簡略分級式 Ⅱ n																					

A 土壤区の特徴

本土壤区は岩屋統に属する。表土の厚さ57cm内外で厚く、有効土層1m以上で深い。表土は壤質で耕耘砕土は容易である。湛水透水性は中で、易分解性有機物、酸化鉄も少なく、水稻の根系障害のおそれはない。保肥力、固定力は中庸であるが、土層の塩基状態は良好で、自然肥沃度は比較的高い。養分状態はいづれも中程度、障害性、災害性はない。

B 植生及び利用状況 水田(一毛作田)

C 地力保全上の問題点

磷酸の増施が必要である。また塩基の補給を要し、窒素、加里は分施すると効果的である、堆肥など有機物の補給も忘れてはならない。

D 分 布 北海道虻田郡洞爺村、岩屋

記載責任者 小 林 茂(北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

## 洞 爺 湖 畔 統

### A 土壤統の特徴

#### A-1 断面の特徴

第1層は厚さ16cm内外、腐植は5.3%前後で土性はSL、色は10Y彩度1明度4、発達弱度の塊状構造でち密度12の疎、酸化沈積物あり。PH(H<sub>2</sub>O)5.2前後、下層との境界明瞭、以下扇状堆土、第1～第2層にU-b<sub>1</sub>混入多い。

第2層の厚さ14cm内外、腐植2%以下、土性SL、色は7.5Y彩度2明度4板状構造で、ち密度27の密、酸化沈積物あり、PH(H<sub>2</sub>O)5.8前後、下層との境界明瞭。

第3層は15cm内外で腐植6.5%前後、土性CL、色は5Y彩度2明度4、発達弱度の塊状構造で、ち密度12の疎、酸化沈積物含む。PH(H<sub>2</sub>O)5.1前後、下層との境界明瞭。

第4層は13cm内外で腐植を欠く。土性CL、色は10Y彩度1明度5、発達弱度の塊状構造、ち密度11の疎、酸化沈積物を含む、PH(H<sub>2</sub>O)5.0前後、グライ層、下層との境界明瞭

第5層の厚さ15～42cm以上、腐植を欠くが、LP層のこともある。色は2.5Y彩度6明度5未風化な小～巨円礫層、酸化沈積物富む、湧水する。

#### 代 表 的 断 面 形 態

(水田)

(所在地) 北海道虻田郡洞爺村財田(試坑t13)

第1層	0～16cm	腐植を含み、青灰(10Y4/1)のSL、発達弱度の塊状構造ち密度12で疎、PH(H <sub>2</sub> O)5.2酸化沈積物(膜状)あり、調査時の湿り湿、境界明瞭、以下扇状土
第2層	16～30	腐植あり、灰(7.5Y4/2)のSL、板状構造でち密度27で密、PH(H <sub>2</sub> O)5.8酸化沈積物(管状)あり、調査時の湿り半乾、境界明瞭第1～第2層U-b <sub>1</sub> 混入多い。
第3層	30～45	腐植を含む、灰(5Y4/2)のCL、発達弱度の塊状構造、小孔を含み、ち密度12で疎PH(H <sub>2</sub> O)5.1、酸化沈積物(膜状)含む、調査時の湿り湿、境界明瞭
第4層	45～58	腐植を欠き青灰(10Y5/1)のCL、発達弱度の塊状構造、小孔を含みち密度11の疎、PH(H <sub>2</sub> O)5.0、酸化沈積物(膜状)を含む、調査時の湿り潤、グライ層、境界明瞭
第5層	58～	腐植を欠く、黄褐(2.5Y5/6)のCL、未風化小～巨円礫層、酸化沈積物(膜状、雲状)富む、調査時の湿り潤、湧水面95cm

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
13-1	0~16	2.4	25.7	46.9	19.0	8.4	SL	169.4	2.68	3.05	0.18	17	5.3
2	16~30	2.4	19.8	50.6	21.7	7.9	SL	204.8	2.74	-	-	-	-
3	~45	4.8	10.7	40.4	27.3	21.6	CL			3.80	0.28	14	6.5
4	~58	4.7	19.1	37.1	24.3	19.5	CL			-	-	-	-

層位	PH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			塩基飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態 mg/100g		乾土効果	30℃NH <sub>4</sub> -N 発生量 mg/100g		遊離酸化鉄 %
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			R <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	N		乾土	湿土	
13-1	5.2	4.6	1.07	14.1	10.3	0.5	0.1	77.3	685	11.8	tr	0.175			1.72
2	5.8	4.6	0.80	15.2	12.3	4.3	0.3	111.2	648	1.2	tr	0.525			1.92
3	5.1	4.3	1.34	26.1	18.3	4.2	0.5	88.1	1023	1.7					
4	5.0	4.1	2.14	27.7	17.1	7.4	0.6	90.6	1,045	1.4					

A-2 他の土壌統との関係

本土壌に類似する統として岩屋統がある。しかし、岩屋統の表土は風積（火山性）で、下層が扇状堆土となつてゐるが、本統の断面は全て扇状堆土からなり、湿潤で、かつ下層土の母材も異なるので区別できる。

A-3 母材 非固結火成岩 / 固結火成岩

A-4 堆積様式 扇状堆土

B 地形 平坦低地

C 気候 年平均気温 7.6℃ 年降水量 1,125 mm

D 植生及び利用状況 水田（一毛作田）

E 農業上の留意事項 暗渠明渠の設置 塩基の補給

F 分布 北海道虻田郡洞爺村 財田

調査及び記載責任者 小林 茂（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡略分級式
洞爺湖畔	IIrn

② 土壌区別説明

洞爺湖畔統一洞爺湖畔区



示性分級式(水田)

土	壤	表	有	表	耕	湛	酸	土	自	養	障	災																								
生	効	土	土	表	表	作	易	遊	透	保	自	養	置	有	微	酸	障	有	物	災	増	地														
産	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土													
力	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の													
可	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の													
能	層	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の													
性	厚	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の													
等	深	含	難	粘	土	乾	透	水	下	50	cm	還	有	機	物	鉄	化	乾	沃	状	豊	含	量													
級	さ	量	易	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性												
	t	d	g	p		ℓ	r	w	f	n		i	a																							
④	II	I	I	I	I	I	I	I	2	2	II	1	1	2	-	-	-	-	I	2	1	1	II	1	2	3	1	3	-	1	I	1	I	1	1	
④	□																																			
簡略分級式 IIrn																																				

A 土壤区の特徴

この土壤区は洞爺湖群統に属する。表土の厚さは30cm内外で厚く、有効土層は58cmで中程度、壤質で耕起、碎土は容易である。湛水透水性は中であるが低地であるため湿潤となり、グライ層がある。保肥力は中備であるが、固定力は小さく、自然肥沃度は比較的高い。有効態養分は豊富であるが、窒素、加里など易動性養分は乏しい。物理的障害および災害性はない。

B 植生及び利用状況 水田(一毛作田)

C 地力保全上の問題点

低地のため湿潤なので、排水が先決である。また塩基の補給とともに窒素、加里を分施すると効果的である。

D 分布 北海道虻田郡洞爺村財田

記載責任者 小林 茂 (北海道立中央農業試験場)  
日 付 昭和44年3月31日

小 銚 岸 川 統

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は15cm内外、腐植含量は10%前後、土性はCLが主である客土層である。色は10YR、明度3、彩度3、均質連結状である。透水性は中である。ち密度10前後で疎、PH(H<sub>2</sub>O)5.0前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は鋤床層で厚さ5cm前後、腐植は10%前後、土性もCLである。色は7.5YR、明度2彩度3である。無構造で連結状、ち密度15前後で疎又は中PH(H<sub>2</sub>O)5.0前後、下層との境界は平坦漸変。

第3層は黒泥層となつている。色は7.5YR、明度2、彩度3である。ち密度14位で疎、透水性中、土性はLiCである。下層へは漸変する。

第4層は泥炭層で色は7.5 YR、明度彩度ともに2、分解程度は不良である。上部は木質が多く集積している。ち密度1.0~2.0と一定していない。ヨシの根、ハンノキが主体である。

代表的断面形態

(水田)

(所在地) 虻田郡豊浦町大岸(試坑y57)

第1層	0~13cm	腐植にすこぶる富む黄褐(1.0YR3/3)のCL、均質連結状の客土層。細孔げきに富む。ち密度1.0で疎、PH(H <sub>2</sub> O)5.0。下層との境界平坦明瞭、調査時の湿り潤
第2層	13~18	腐植にすこぶる富む黄褐(7.5YR2/3)のCL、均質連結状。ち密度1.5で疎、PH(H <sub>2</sub> O)5.0。層界平坦漸変
第3層	18~40	黒泥の黄褐(7.5YR3/2)のLic、均質連結状。細孔げき含む、ち密度1.4で疎、斑紋なし。PH(H <sub>2</sub> O)5.0、調査時の湿り潤、層界漸変
第4層	40~	泥炭、黄褐(7.5YR3/2)、上部木質、ち密度2.0で中、透水性良好

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %		粒 径 組 成 %				土 性	現 地 容 積 重 g	真 比 重	全 炭 素 %	全 窒 素 %	炭 素 率	腐 植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
I	0~13	4.39	-	27.7	30.9	24.0	17.4	CL	-	-	5.70	0.74	7.7	9.8
II	13~40	11.68	-	2.3	14.9	39.8	43.0	LiC	-	-	7.24	2.92	2.5	12.5

層位	PH		置換 酸度 Y <sub>1</sub>	塩基 置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			塩基 飽和 度 %	磷酸 吸収 係数	有効態 mg/100g		乾土 効果	30℃ :NH <sub>4</sub> -N 発生量 mg/100g		遊離 酸化 鉄 %
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	N		乾土	湿土	
	I	5.0	4.5	2.1	29.0	11.2	1.7	0.2	45.1	1.181	16.1			25.34	
II	5.0	4.4	1.3	58.2	14.7	2.3	0.2	29.4	2.533	2.5			72.56		3.43

A-2 他の土壌統との関係

本統は調査地域内唯一の泥炭土壌である。

A-3 母材 ヨシ、ハンノキ

A-4 堆積様式 集積

B 地形 沖積平坦部

C 気候 年平均降水量 864 mm 8.3 年平均気温 °C

D 植生および利用状況 水田

E 農業上の留意事項

周囲の排水設備を整備して排水条件を良くすることが泥炭の分解を促すものである。



入 江 統

(1) 土壤統の概要

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ3~7cmで腐植含量5~8%、土性はSLである。色は7.5YRで明度1~3、彩度1~2である。末風化半角礫に富む。発達弱度の細塊状構造。孔隙なし、ち密度1.1~1.4で中。PH(H<sub>2</sub>O)6.0前後。下層との境界は平坦明瞭である。有珠火山灰IIa層、IIIa層の混合層。

第2層は厚さ10~15cmで腐植含量2~4%、土性はLSである。色は10YRで明度2~4、彩度1~3である。末風化半角礫に富む。単粒構造。ち密度1.5~1.7で中。PH(H<sub>2</sub>O)5.6前後。下層との境界波状明瞭である。有珠火山灰IIIa層。

第3層は厚さ12~17cmで腐植含量1%前後、土性はSである。色は10YRで明度1~3、彩度2~4である。末風化半角礫に富む。単粒構造。ち密度密。PH(H<sub>2</sub>O)5.8前後。下層との境界波状明瞭である。有珠火山灰IVa層。

第4層は33cm以下で末風化半角礫の礫層である。有珠火山灰IVa層。50cm以下は湧水。

代 表 的 断 面 形 態

(畑)

(所在地) 虻田町入江(試坑a1)

第1層	0~5cm	腐植含む、黒色(7.5YR2/1)のSL。末風化半角礫に富む。弱度の細塊状構造。孔隙なし。ち密度1.2で中。PH(H <sub>2</sub> O)6.0。調査時の湿り半乾。層界平坦明瞭。有珠火山灰IIa層、IIIa層の混合層。
第2層	5~18cm	腐植含む、灰褐(10YR3/2)のLS。末風化半角礫に富む。単粒構造。ち密度1.6で中。PH(H <sub>2</sub> O)5.6。調査時の湿り半乾。層界波状明瞭。有珠火山灰IIIa層。
第3層	18~33cm	腐植あり、黄褐(10YR2/3)のS。末風化半角礫に富む。単粒構造。ち密度密。PH(H <sub>2</sub> O)5.8。調査時の湿り半乾。層界波状明瞭。有珠火山灰IVa層。
第4層	33cm~	末風化半角礫の浮石層。有珠火山灰IVa層。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	現地 容積 重g	真 比 重	全 炭 素 %	全 窒 素 %	炭 素 率	腐 植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~5	1.8	56.1	24.4	14.8	4.7	SL	109.5	2.55	4.29	0.44	10	7.4
2	5~18	1.2	65.7	23.6	8.4	2.3	LS	-	-	1.39	0.16	9	2.4
3	18~33	0.5	65.8	29.4	4.0	0.8	S	-	-	0.41	0.02	2	0.7

層位	PH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基性 me/100g				石灰飽和度%	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O				
1	6.0	5.8	0.8	19.5	17.3	1.7	1.1		88.7	637	9.7
2	5.6	5.5	0.8	9.2	6.8	1.3	0.5		73.9	380	6.0
3	5.8	5.6	0.5	4.5	3.5	0.4	0.2		77.7	267	3.7

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては入江北統、泉統があるが、本統とはいづれも腐植層序及び表土の土性が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積(火山性)/風積

B 地形 傾斜地

C 気候 年平均気温 8.3℃ 年降水量 864.0mm

D 植生及び利用状況

畑として利用され、牧草、馬鈴薯等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

傾斜地のため土壌侵蝕のおそれがあるので、等高線栽培、緑作帯の設置が必要である。心土耕等により表土と作土を混合して根圏域の拡大をはかることが必要である。また作土は保肥力が弱いため有機物の施用が必要である。

F 分布 北海道虻田郡虻田町入江

調査及び記載責任者

上坂晶司(北海道立中央農業試験場)

年月日

昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
入江-入江	III t(d) i e II g s

② 土壌区別説明

入 江 統 - 入 江 区
---------------

示性分級式(畑)

土	壤	表	有	表	耕	表	表	表	土	透	保	湿	自	保	固	土	養	置	有	微	酸	障	有	物	災	傾	傾	侵		
生	効	土	土	土	土	土	土	土	地	然	層	性	苦	加	態	量	有	害	理	物	害	質	障	害	危	危	傾	傾	耐	
産	土	土	土	土	土	土	土	土	土	水	水	潤	肥	肥	定	塩	の	石	灰	土	里	酸	害	害	の	の	の	水	風	
力	の	の	の	の	の	の	の	の	の	乾	乾	沃	状	豊	含	量	素	度	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
可	の	の	の	の	の	の	の	の	の	性	性	度	力	態	量	素	度	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
能	厚	深	含	難	着	硬	性	性	性	性	度	力	態	量	素	度	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
性	等	級	さ	さ	量	易	性	性	性	性	度	力	態	量	素	度	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
級	Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ
簡略分級式	Ⅲtd(w)ieⅡgas																													

A 土壤区の特徴

この土壤区は入江統に属する。表土の厚さは5cm前後で非常に浅い。有効土層は33cm前後で浅い。表土の土性は壤質のため耕起、碎土は容易である。保肥力中庸であるが固定力と塩基含量多く飽和されており自然肥沃度は高い。作土の養分は石灰多、苦土多、磷酸中、加里多で養分に富む反応は酸性である。傾斜地のため侵触が所々みられる。

B 植生及び利用状況

主に牧草、馬鈴薯が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

傾斜地のため土壤侵触のおそれがあるので、土壤侵触の防止が必要である。また作土は堅密なため心土耕等による膨軟化が必要である。また堆肥、緑肥の施用につとめること。

D 分布 北海道虻田郡虻田町入江

記載責任者 上坂晶司(北海道立中央農業試験場)

日付 昭和44年3月31日

泉 統

(1) 土壤統の概要

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ18~22cmで腐植含量1~2%、土性はLである。色は10YRで明度1~3、彩度1~3である。礫なく。発達中度の細塊状構造。孔隙細孔あり。ち密度8~12で疎~中。PH(H<sub>2</sub>O)5.2前後。下層との境界は平坦明瞭である。有珠火山灰Ⅱa層、Ⅲa層の混合量。

第2層は厚さ45~55cmで腐植含量1%前後。土性はSLである。色は2.5Yで明度3~5、彩度1~3である。礫なく。発達中度の粒状構造。孔隙細孔あり。ち密度14~18で中。PH(H<sub>2</sub>O)5.8前後。下層との境界は平坦明瞭である。有珠火山灰b<sub>1</sub>層。

第3層は厚さ12~18cmで腐植含量1%前後。土性はSLである。色は2.5YRで明度3~5、

彩度 1~3 である。礫なく。発達中度の粒状構造。ち密度 1.8~2.2 中で。PH (H<sub>2</sub>O) 5.1 前後。下層との境界平坦明瞭である。有珠火山灰 b<sub>2</sub> 層。

第 4 層は厚さ 3~8 cm で腐植を欠く。土性は SL である。色は 10 YR で明度 3~5、彩度 3~5 である。礫なく。発達中度の細塊状構造。孔隙なし。ち密度 2.3~2.7 中で密。下層との境界平坦明瞭。

第 5 層は 90 cm 以下で安山岩の礫層である。

代 表 的 断 面 形 態

( 畑 )

( 所在地 ) 蛇田町入江 ( 試坑 a 2 )

第 1 層	0~20cm	腐植あり、黒色 (10YR2/2) の L、中度の細塊状構造。孔隙細孔あり。ち密度 1.0 で疎。PH (H <sub>2</sub> O) 5.2。調査時の湿り乾。層間平坦明瞭。有珠火山灰 II a 層、III a 層の混合層。
第 2 層	20~70cm	腐植あり、灰色 (2.5Y4/2) の SL。中度の粒状構造。孔隙細孔あり。ち密度 1.6 中で。PH (H <sub>2</sub> O) 5.8。調査時の湿り乾。層間平坦明瞭。有珠火山灰 b <sub>1</sub> 層。
第 3 層	70~85cm	腐植あり、灰褐 (2.5YR4/2) の SL。中度の粒状構造。孔隙なし。ち密度 2.0 中で。PH (H <sub>2</sub> O) 6.1。調査時の湿り乾。層間平坦明瞭。有珠火山灰 b <sub>2</sub> 層。
第 4 層	85~90cm	腐植欠く、黄褐 (10YR4/4) の SL、中度の細塊状構造。孔隙なし。ち密度 2.5 で密。層界平坦明瞭。
第 5 層	90cm~	安山岩礫層。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~20	1.8	20.9	42.1	27.7	9.3	L	117.3	2.80	0.81	0.09	9	1.4
2	20~70	1.5	27.3	43.3	21.1	8.3	SL	130.1	2.82	-	-	-	-
3	70~85	0.8	44.9	30.8	21.9	2.4	SL	133.2	2.63	-	-	-	-

層位	P H		置 換 酸 度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 mg/100g	置 換 性 塩 基 me/100g				石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O				
1	5.2	4.6	0.8	16.8	10.1	2.0	0.8		60.1	672	7.3
2	5.8	4.6	0.5	16.4	12.0	2.9	0.3		73.2	770	9.5
3	6.1	5.2	0.5	5.5	3.8	1.3	0.2		69.1	297	7.3

A - 2 其他の土壌との関係

本統に隣接する統としては入江統、三豊統、入江北統があるが、入江統とは腐植層序及び表土の土性が異なる又三豊統とは腐植層序及び表土、次層の土性が異なる又入江北統とは色層序が異なるので本統と区別される。

A - 3 母 材 非固結火成岩

A - 4 堆積様式 風積（火山性）

B 地 形 傾斜地

C 気 候 年平均気温 8.3℃ 年降水量 864.0mm

D 植生及び利用状況

畑として利用され、牧草、ビート、菜豆が栽培されている。

E 農業上の留意事項

傾斜地のため土壌侵蝕のおそれがあるので、等高線栽培、緑作帯の設置が必要である。また腐植に乏しく、有機物施用にこころがける必要がある。

F 分 布

北海道虻田郡虻田町泉

調査及び記載責任者 上 坂 晶 司 （北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
泉 一 泉	Me II tds

② 土壌区別説明

泉 統 一 泉 区
-----------

示性分級式（畑）

土	壤	表	有	表	耕	表	表	表	土	透	保	湿	自	保	固	土	置	有	微	酸	障	災	地	傾	侵	
生	効	効	効	効	効	効	効	効	効	効	効	効	効	効	効	効	効	効	効	効	効	効	効	効	効	
産	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	
力	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	
可	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	
性	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	
等	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	
級	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	
	t	d	g	p					w				f						n							
	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	2	2	1	I	I	I	1	1	1	2	I	I	I
	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	2	2	1	I	I	I	1	1	1	2	I	I	I
	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	2	2	1	I	I	I	1	1	1	2	I	I	I
	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	2	2	1	I	I	I	1	1	1	2	I	I	I
	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	2	2	1	I	I	I	1	1	1	2	I	I	I
	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	2	2	1	I	I	I	1	1	1	2	I	I	I
	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	2	2	1	I	I	I	1	1	1	2	I	I	I
	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	2	2	1	I	I	I	1	1	1	2	I	I	I
	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	2	2	1	I	I	I	1	1	1	2	I	I	I
	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	2	2	1	I	I	I	1	1	1	2	I	I	I
	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	2	2	1	I	I	I	1	1	1	2	I	I	I
	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	2	2	1	I	I	I	1	1	1	2	I	I	I
	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	2	2	1	I	I	I	1	1	1	2	I	I	I
	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	2	2	1	I	I	I	1	1	1	2	I	I	I
	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	2	2	1	I	I	I	1	1	1	2	I	I	I
	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	2	2	1	I	I	I	1	1	1	2	I	I	I
	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	2	2	1	I	I	I	1	1	1	2	I	I	I
	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	2	2	1	I	I	I	1	1	1	2	I	I	I
	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	2	2	1	I	I	I	1	1	1	2	I	I	I
	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	2	2	1	I	I	I	1	1	1	2	I	I	I
	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	2	2	1	I	I	I	1	1	1	2	I	I	I
	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	2	2	1	I	I	I	1	1	1	2	I	I	I
	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	2	2	1	I	I	I	1	1	1	2	I	I	I
	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	2	2	1	I	I	I	1	1	1	2	I	I	I
	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	2	2	1	I	I	I	1	1	1	2	I	I	I
	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	2	2	1	I	I	I	1	1	1	2	I	I	I
	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	2	2	1	I	I	I	1	1	1	2	I	I	I
	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	2	2	1	I	I	I	1	1	1	2	I	I	I
	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	2	2	1	I	I	I	1	1	1	2	I	I	I
	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	2	2	1	I	I	I	1	1	1	2	I	I	I
	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	2	2	1	I	I	I	1	1	1	2	I	I	I
	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	2	2	1	I	I	I	1	1	1	2	I	I	I
	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	2	2	1	I	I	I	1	1	1	2	I	I	I
	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	2	2	1	I	I	I	1	1	1	2	I	I	I
	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	2	2	1	I	I	I	1	1	1	2	I	I	I
	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	2	2	1	I	I	I	1	1	1	2	I	I	I
	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	2	2	1	I	I	I	1	1	1	2	I	I	I
	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	2	2	1	I	I	I	1	1	1	2	I	I	I
	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	2	2	1	I	I	I	1	1	1	2	I	I	I
	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	2	2	1	I	I	I	1	1	1	2	I	I	I
	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	2	2	1	I	I	I	1	1	1	2	I	I	I
	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	2	2	1	I	I	I	1	1	1	2	I	I	I
	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	2	2	1	I	I	I	1	1	1	2	I	I	I
	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	2	2	1	I	I	I	1	1	1	2	I	I	I
	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	2	2	1	I	I	I	1	1	1	2	I	I	I
	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	2	2	1	I	I	I	1	1	1	2	I	I	I
	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	2	2	1	I	I	I	1	1	1	2	I	I	I
	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	2	2	1	I	I	I	1	1	1	2	I	I	I
	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	2	2	1	I	I	I	1	1	1	2	I	I	I
	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	2	2	1	I	I	I	1	1	1	2	I	I	I
	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	2	2	1	I	I	I	1	1	1	2	I	I	I
	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	2	2	1	I	I	I	1	1	1	2	I	I	I
	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	2	2	1	I	I	I	1	1	1	2	I	I	I
	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	2	2	1	I	I	I	1	1	1				



A 土壌区の特徴

この土壌区は泉統に属する。表土の厚さは20cmで中庸で有効土層は90cmで深い。表土の土性は壤質のため耕起、砕土は容易である。保肥力、固定力とも中庸であるが塩基含量多く飽和されており自然肥沃度は高い。作土の養分は石灰多、苦土多、磷酸中、加里多で養分に富む。反応は酸性である。地形が傾斜地のため侵蝕が所々みられる。

B 植生及び利用状況

畑として利用され、主として牧草、ビート、菜豆が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

腐植含量が少なく有機物の施用につとめることが必要であろう。また傾斜地のため土壌侵蝕防止が必要であろう。

D 分 布 北海道虻田郡虻田町泉

記載責任者 上 坂 晶 司 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

入 江 北 統

(1) 土壌統の概要

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ25~35cmで腐植含量1~2%、土性はLSである。色は10YRで明度1~3、彩度2~4である。未風化の浮石礫に富む。発達弱度の粒状構造および単粒状。孔隙なし。ち密度14~18で中。PH(H<sub>2</sub>O)5.2前後。下層との境界平坦明瞭である。

第2層は厚さ10~15cmで腐植欠く、土性はLSである。色は10YRで明度2~4、彩度1~3である。未風化の浮石礫に頗る富む。単粒構造。孔隙なし。ち密度18~22で中。PH(H<sub>2</sub>O)5.7前後。下層との境界平坦漸変である。

第3層は40cm以下で浮石層。細土の土性はSLである。色は10YRで明度3~5、彩度2~4である。単純構造。孔隙なし。ち密度密。PH(H<sub>2</sub>O)5.8前後。

代 表 的 断 面 形 態

(畑)

(所在地) 虻田町入江(試坑 a3)

第1層	0~29cm	腐植あり、黄褐(10YR2/3)のLS、未風化の浮石礫に富む、発達弱度の粒状構造及び単粒状。孔隙なし、ち密度16で中。PH(H <sub>2</sub> O)5.2。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。
第2層	29~40cm	腐植欠く、灰褐(10YR3/2)のLS、未風化の浮石礫に頗る富む。単粒構造。孔隙なし。ち密度20で中。PH(H <sub>2</sub> O)5.7。調査時の湿り半湿。層界平坦漸変。
第3層	40cm~	浮石層。黄褐(10YR4/3)のSL。単粒構造。孔隙なし。ち密度密。PH(H <sub>2</sub> O)5.8。調査時の湿り乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	現地容積重g	真比重	全炭素%	全窒素%	炭素率	腐植%
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~29	0.9	62.4	24.6	9.4	3.6	L S	154.9	2.96	0.81	0.07	12	1.4
2	29~40	0.7	69.4	20.8	6.0	3.8	L S	131.9	2.53	-	-	-	-
3	40~	1.0	61.7	20.9	10.8	6.6	S L	-	-	-	-	-	-

層位	PH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g				石灰飽和度%	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O				
1	5.2	4.5	1.3	10.0	5.7	0.7	0.4		57.0	430	5.1
2	5.7	4.9	0.5	6.7	4.9	1.0	0.3		73.1	310	5.2
3	5.8	5.0	0.5	8.4	6.8	1.5	0.4		81.0	468	7.5

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては入江統、泉統とがあるが、入江統とは腐植層序及び表土の土性が異り泉統とは色層序が異なるので、本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積(火山性)/崩積

B 地形 緩傾斜地

C 気候 年平均気温 8.3℃ 年降水量 864.0mm

D 植生及び利用状況

大部分畑地として利用され牧草、菜豆、ビートなどの作物が栽培されている。

E 農業上の留意事項

透水性が良好な土壌で早害のおそれが多い。有機物に乏しいので有機物施用の要がある。

F 分布 北海道虻田郡虻田町入江

調査及び記載責任者 上坂晶司(北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
入江北-入江北	III(w)dgi II n s

② 土壌区別説明

入江北統 - 入江北区

示性分級式(畑)

土	壤	表	有	表	耕	表	表	表	土	透	保	濕	自	保	固	土	置	有	微	酸	障	災	傾	侵	耐	耐
生	効	土	土	土	土	土	土	土	地	然	層	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	有	物	災	傾	侵	耐
産	土	土	土	土	土	土	土	土	地	然	層	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	有	物	災	傾	侵	耐
力	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
可	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
能	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
性	厚	深	含	難	粘	着	硬	乾	性	性	度	力	力	態	量	量	量	量	量	量	性	性	性	性	性	性
等	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
級	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e															
Ⅲ	Ⅰ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ
簡略分級式												Ⅲ(w) d g i Ⅱ n s														

A 土壤区の特徴

この土壤区は入江北統に属する。表土の厚さは29cmで深い。有効土層は40cmで浅い。表土の土性は砂質のため耕起、碎土は容易である。保肥力中庸であるが、固定力大であり塩基含量も多く自然肥沃度は高い。作土の養分は石灰多、苦土中、磷酸中、加里多で中庸。反応は微酸性である。土性が粗いため透水性は良好で干害のおそれが多い。

B 植生及び利用状況

主として畑として利用され、牧草、菜豆などが栽培されている。

C 地力保全上の問題点

浮石層のため透水が良好で干害のおそれが多く、客土をして保水力、保肥力を増加させることが必要である。また有機物に乏しく堆厩肥、緑肥等の補給も必要である。

D 分 布 北海道虻田郡虻田町入江

記載責任者 上坂 晶 司 (北海道立中央農業試験場)  
日 付 昭和44年3月31日

月 浦 統

(1) 土壤統の概要

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ22~28cmで腐植含量1~2%。土性はSLである。色は2.5Yで明度2~4、彩度1~3である。礫なく。発達弱度の細粒状構造。細孔あり。ち密度1.8~2.3で中。PH(H<sub>2</sub>O)6.4前後。下層との境界は平坦明瞭である。有珠火山灰Ⅱa層、Ⅲa層、Ⅳa層を混合したb<sub>1</sub>層。

第2層は厚さ50~60cmで腐植を欠く、土性はSLである。色は2.5Yで明度3~5、彩度2~4である。礫なく。発達中度の粒状構造。細孔あり。ち密度2.5~3.0で密。PH(H<sub>2</sub>O)5.3前後。下層との境界は波状明瞭である。有珠火山灰b<sub>1</sub>層で傾斜地のため場所による厚薄が著しい。

第3層は78cm以下で安山岩の礫間に不明火山灰層(羊蹄山噴出物相当層)をはさむ礫層で腐植含量2~4%。細土の土性はLである。色は7.5YRで明度3~5、彩度3~5である。

代表的断面形態

(畑)

(所在地) 虻田町月浦(試抗 a18)

第1層	0~23cm	腐植あり、灰色(2.5Y3/2)のSL、礫なく、弱度の細粒状構造あり、細孔あり、ち密度21で中、PH(H <sub>2</sub> O)6.4、調査時の湿り乾、層界平坦明瞭、有珠火山灰IIa層、IIIa層、IVa層、b <sub>1</sub> 層の混合層。
第2層	24~78cm	腐植欠く、灰色(2.5Y4/3)のSL、礫なく、中度の粒状構造あり、細孔あり、ち密度28で密、PH(H <sub>2</sub> O)5.3、調査時の湿り半乾、層界波状明瞭、有珠火山灰b <sub>1</sub> 層。
第3層	78cm~	腐植含む、黄褐(7.5YR4/4)のL、安山岩礫間に不明火山灰層(羊蹄山噴出物相当層)を狭む礫層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現地 容積 重 g	真 比 重	全 炭 素 %	全 窒 素 %	炭 素 率	腐 植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~24	2.0	14.1	55.6	21.6	8.7	SL	122.8	2.98	0.93	0.10	9	1.6
2	24~78	2.3	11.6	60.0	21.2	7.2	SL	127.8	2.81	0.06	0.01	6	0.1
3	78~	8.8	20.5	40.6	28.3	10.6	L	-	-	1.91	0.19	10	3.3

層位	PH		置 換 性 酸 度 Y <sub>1</sub>	塩 基 置 換 容 量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g			石灰 飽和 度 %	燐 酸 吸 収 係 数	有効態 燐 酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	6.4	5.9	0.8	18.2	18.1	0.6	1.0	99.4	735	10.7
2	5.3	4.4	1.1	17.1	12.5	1.3	0.7	73.1	758	7.3
3	6.1	4.3	1.1	36.3	13.6	3.1	0.3	37.5	2002	0.7

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては三豊統、香川統があるがいずれも腐植層序が異り、本統と区別されるまた類似する統として花和統があるが有効土層及び色層序、表土の厚さが異り本統と区別される。

A-3 母 材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積(火山性)/崩積

B 地 形 傾斜地

C 気 候 年平均気温 8.3℃ 年降水量 864.0mm

D 植生及び利用状況

殆んど耕地化され、主に菜豆、ビート、牧草等が栽培されている。また自家米用として水田が散在している所もある。

E 農業上の留意事項





花 和 統

(1) 土壤統の概要

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ8~13cmで腐植含量2~4%、土性はSLである。色は10YRで明度2~4、彩度1~3である。礫なく。発達弱度の粒状構造。孔隙細孔あり。ち密度1.8~2.2で中。PH(H<sub>2</sub>O)5.1前後。下層との境界は平坦明瞭である。有珠火山灰b<sub>1</sub>層。IIa層。

第2層は厚さ40~50cmで腐植含量1%前後、土性はSLである。色は2.5YRで明度3~5、彩度1~3である。礫なく。発達中度の粒状構造。孔隙細孔含む。ち密度1.8~2.2で中。PH(H<sub>2</sub>O)5.8前後。下層との境界は平坦明瞭である。有珠火山灰b<sub>1</sub>層。傾斜地のため場所による厚薄が著しい。

第3層は54cm以下で安山岩の礫間に不明火山灰層(羊蹄山噴出物相当層)をはさむ礫層で腐植含量2~4%、細土の土性はLiCである。色は7.5YRで明度2~4、彩度3~5である。発達中度の細塊状構造。孔隙なし。ち密度中。PH(H<sub>2</sub>O)5.6前後。

代 表 的 断 面 形 態

(畑)

(所在地) 虻田町花和(試坑 a8)

第1層	0~11cm	腐植含む、灰褐(10YR3/2)のSL。礫なく。弱度の粒状構造あり。細孔あり。ち密度2.0で中。PH(H <sub>2</sub> O)5.1。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。有珠火山灰b <sub>1</sub> 層。IIa層。
第2層	11~54cm	腐植あり、灰色(2.5Y4/2)のSL。礫なく。中度の粒状構造あり。細孔含む。ち密度2.0で中。PH(H <sub>2</sub> O)5.8。調査時の湿り半乾。層界平坦明瞭。有珠火山灰b <sub>1</sub> 層。
第3層	54cm~	腐植含む、黄褐(7.5YR3/4)のLiC。安山岩礫間に不明火山灰層(羊蹄山噴出物相当層)を挟む礫層。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現地 容積 重g	真 比 重	全 炭 素 %	全 窒 素 %	炭 素 率	腐 植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~11	2.4	18.3	50.6	22.2	8.9	SL	125.3	2.71	1.57	0.17	9	2.7
2	11~54	1.6	10.3	57.9	22.3	9.5	SL	148.6	2.74	0.23	0.04	6	0.4
3	54~	3.8	6.5	19.5	36.5	37.5	LiC	93.2	2.65	1.62	0.17	9	2.8

層位	PH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g				石灰飽和度%	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O				
1	5.1	4.3	1.6	18.3	8.3	1.3	0.7		45.4	1.004	6.9
2	5.8	4.2	1.3	17.5	12.8	2.0	0.4		73.1	870	7.3
3	5.6	4.7	0.8	26.1	14.2	2.3	0.5		54.4	1365	0.9

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては、香川統があるが腐植層序が異り本統と区別される。また類似する統として月浦統があるが有効土層の深さ、色層序及び表土の厚さが異り本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積(火山性)/崩積

B 地形 傾斜地

C 気候 年平均気温 8.3℃ 年降水量 864.0mm

D 植生及び利用状況

主として牧草、ビート、菜豆等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

傾斜地のため土壌侵蝕のおそれがあり、侵蝕防止策が必要である。また有機物に乏しいので堆肥の施用が必要である。

F 分布 北海道虻田郡虻田町花和

調査及び記載責任者 上坂晶司(北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
花 和 - 花 和	III te II ds

② 土壌区別説明

花 和 統 - 花 和 区
---------------



示性分級式(畑)

土	壤	表	有	表	耕	表	表	表	土	自	養	置	有	微	酸	障	災	傾	自	傾	入	侵	耐	耐	
生	産	土	効	土	耘	土	土	土	地	然	層	分	換	"	"	効	有	物	害	理	冠	す	へ	り	
力	の	層	の	の	の	乾	の	水	水	潤	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	量	害	質	的	害	
可	能	性	厚	の	含	難	土	着	硬	乾	沃	基	豊	含	"	"	"	要	障	有	害	危	險	險	
等	級	さ	さ	量	易	性	性	性	性	性	度	力	態	量	否	素	度	無	性	性	度	度	度	度	
t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e															
Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	2	-	-	Ⅲ
簡略分級式										Ⅲte Ⅱds															

A 土壤区の特徴

この土壤区は花和統に属する。表土の厚さは11cmで非常に浅い。有効土層は54cm内外でやや浅い。表土の土性は壤質のため耕起、碎土は容易である。保肥力、固定力とも中庸であるが塩基含量多く飽和されており自然肥沃度は高い。作土の養分は石灰多、苦土多、磷酸中、加里多で養分に富む。反応は微酸性である。傾斜地のため侵蝕が所々みられる。

B 植生及び利用状況

牧草、ビート、菜豆等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

土壤侵蝕防止のため等高線栽培や緑作帯の設置が必要である。また表土は一般に薄いため深耕する必要があるが傾斜地のため場所の選択も必要となろう。また有機物に乏しく堆厩肥の施用も必要であろう。

D 分布 北海道虻田郡虻田町花和

記載責任者 上坂晶司(北海道立中央農業試験場)

日付 昭和44年3月31日

三 豊 統

(1) 土壤統の概要

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15~25cmで腐植含量2~3%、土性はSLである。色は10YRで明度2~3、彩度1~2である。礫なく、発達弱度の細粒状構造。孔隙なし。ち密度15~18で中。PH(H<sub>2</sub>O)5.5前後。下層との境界は平坦明瞭である。有珠火山灰Ⅱa層、Ⅲa層、Ⅳa層の混合層。

第2層は厚さ45~55cmで腐植含量1%前後、土性はLである。色は2.5YRで明度2~3、彩度2~3である。礫なく、発達中度の粒状構造。孔隙小孔あり。ち密度19~22で中。PH(H<sub>2</sub>O)5.4前後。下層との境界平坦明瞭である。有珠火山灰b<sub>1</sub>層。

第3層は厚さ8~12cmで腐植含量7~10%、土性はSiLである。色は7.5YRで明度1~2彩度1~2である。礫なく。発達中度の細塊状構造。孔隙小孔あり。ち密度1.7~1.9で中。PH(H<sub>2</sub>O)5.4前後。下層との境界平坦漸変である。不明火山灰層(駒ヶ岳火山灰e層相当層)。

第4層は厚さ15~19cmで腐植含量9~11%、土性はSiLである。色は7.5YRで明度1.7~2である。礫なく。発達中度の細塊状構造。孔隙小孔あり。ち密度1.5~1.9で中。PH(H<sub>2</sub>O)5.4前後。下層との境界平坦明瞭である。不明火山灰層(駒ヶ岳火山灰e層相当層)。

代表的断面形態

(畑)

(所在地) 虻田町三豊(試坑 a13)

第1層	0~19cm	腐植あり、灰褐(10YR3/2)のSL、礫なく、弱度の細粒状構造あり。孔隙なし。ち密度1.7で中、PH(H <sub>2</sub> O)5.5。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。有珠火山灰IIa層、IIIa層、IVa層の混合層。
第2層	19~70cm	腐植あり、灰色(2.5Y 3/2)のL。礫なく、中度の粒状構造あり。孔隙小孔あり。ち密度2.1で中。PH(H <sub>2</sub> O)5.4。調査時の湿り半乾。層界平坦明瞭。有珠火山灰b1層。
第3層	70~80cm	腐植富む、黒色(7.5YR2/2)のSiL、礫なく、中度の細塊状構造。孔隙小孔あり。ち密度1.8で中。PH(H <sub>2</sub> O)5.4。調査時の湿り半乾。層界平坦漸変。不明火山灰層(駒ヶ岳火山灰e層相当層)
第4層	80~96cm	腐植頗る富む、黒色(7.5YR1.7/1)のSiL、礫なく、中度の細塊状構造あり。孔隙小孔あり。ち密度1.9で中、PH(H <sub>2</sub> O)5.4。調査時の湿り半乾。不明火山灰層(駒ヶ岳火山灰e層相当層)。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含 量重 量%	粒 径 組 成 %				土 性	現地 容積 重g	真 比 重	全 炭 素 %	全 窒 素 %	炭 素 率	腐 植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~19	1.3		16.5	49.4	25.2	8.9	SL	91.8	2.63	1.10	0.12	9	1.9
2	19~70	1.4		9.7	54.9	28.3	7.1	L	133.5	2.83	0.12	0.01	12	0.2
3	70~80	7.6		6.8	33.6	47.1	12.5	SiL			4.93	0.50	10	8.5
4	80~96	10.0		10.8	30.6	49.9	8.7	SiL			5.97	0.65	9	10.3

層位	P H		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g				石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O				
1	5.5	4.6	1.3	18.9	10.9	1.1	0.5		57.7	75.2	2.9
2	5.4	4.3	1.3	19.4	13.0	2.1	0.5		67.0	83.0	5.6
3	5.4	5.0	0.8	45.4	26.0	2.7	1.0		57.3	210.0	0.7
4	5.4	5.0	0.8	57.2	26.3	5.4	1.1		46.0	266.3	0.4

#### A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては入江統があるが、本統とは有効土層の浅深及び埋没土層の有無により、本統と区別される。

#### A-3 母材 材 非固結火成岩

#### A-4 堆積様式 風積(火山性)

#### B 地 形 傾斜地

#### C 気 候 年平均気温 8.3℃ 年降水量 864.0mm

#### D 植生及び利用状況

畑として利用され、牧草、ビート、菜豆等が栽培されている。また最近は牧草の増加がめだつて

#### E 農業上の留意事項

傾斜地のため土壌侵蝕のおそれがあるので、等高線栽培、緑作帯の設置が必要である。また腐植に乏しく、有機物施用をこころがける必要がある。

#### F 分 布 北海道虻田郡虻田町三豊

調査及び記載責任者 上坂晶司(北海道立中央舞業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

### (2) 土壌統の細分

#### ① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
三 豊 - 三 豊	Me Its



2) 土壌統別説明

香 川 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は12~28cmで腐植2~8%、土性SL、色は5~7.5Y、彩度2、明度2~4、U-II aを特徴付ける未風化小角礫あり、発達弱度の細粒状、粒状および塊状構造およびその復合構造からなる。ち密度1.4~2.0で疎~中、PH(H<sub>2</sub>O)4.9~5.6前後、下層との境界明瞭~画然耕土 U-II aとU-b<sub>1</sub>の混合層。

第2層は厚さ5~34cm内外で腐植を欠く、土性SL、色は7.5Y、彩度2~3、明度4、板状構造であるが、薄層になると均質速結状、小孔含む~富む、ち密度1.7~3.0で疎~すこぶる密、PH(H<sub>2</sub>O)5.7前後、下層との境界画然、U-b<sub>1</sub>層。

第3層の厚さ5~12cm、腐植8~16%、土性SicL、色は10YR彩度1~2、明度2、発達強度の細粒状構造、ち密度1.7前後で疎、PH(H<sub>2</sub>O)5.3~5.5前後、下層との境界画然、不明火山灰層。

第4層は厚さ1.7~2.4cm、腐植5.0~10.8%、土性LであるがSicL、CLもある。色は10YR彩度2~3明度2~3、発達中~強度の細粒状構造でち密度1.7~2.0の疎~中、PH(H<sub>2</sub>O)5.2~5.5前後、下層との境界漸変。

第5層の厚さ1.3~2.3cm、腐植1.5~11.6%、土性LであるがSicL、SicLもある。色は7.5~10YR彩度3~4明度3~4、発達弱~中度の細塊状~塊状構造でち密度1.8~2.5の中、PH(H<sub>2</sub>O)5.1~5.4前後。下層との境界判然~漸変。

第6層は5~39cm以上で、腐植0~3%、土性LであるがSicL、Licもある。色は7.5~10YR彩度6明度4、発達弱度の塊状構造、細小孔含む~富む。ち密度1.7~2.5の中、腐朽小浮石礫あり。

代表的断面形態

(畑)

(所在地)北海道虻田郡洞爺村成香(試坑t1)

第1層	0~12	腐植を含む。灰(5Y4/2)のSL、発達弱度の塊状構造、未風化な小角礫あり、ち密度1.4で疎、PH(H <sub>2</sub> O)4.9、調査時の湿り乾、境界画然、U-II a、U-b <sub>1</sub> 混合層。
第2層	12~46	腐植を欠き、灰(7.5Y4/2)のSL、板状構造でち密度3.0のすこぶる密、PH(H <sub>2</sub> O)5.7、調査時の湿り乾、境界画然、U-b <sub>1</sub> 層
第3層	46~54	腐植を含む、黒(10YR2/2)のSicL 発達強度の細粒状、粒状混合構造、ち密度1.7で疎、PH(H <sub>2</sub> O)5.5、調査時の湿り乾、境界明瞭、不明火山灰層
第4層	54~72	腐植に富む、黒(10YR2/2)のL、発達強度の細粒状構造、ち密度2.0の中、PH(H <sub>2</sub> O)5.5、調査時の湿り乾、境界漸変、以下羊蹄ローム層
第5層	72~95	腐植あり、黄褐(7.5YR4/4)のL、発達弱度の塊状構造、ち密度2.2で中、腐植根管を含む、調査時の湿り乾、境界判然

第6層	95～	腐植を欠く黄褐(7.5 YR 4/6)のL、弱度の塊状構造、ち密度2.5で密、調査時の湿り半乾
-----	-----	---

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土 性	現地容積重 g	真比重
				粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			
1-1	0～12	2.8		12.3	58.9	23.8	5.0	SL	158.2	2.66
2	12～46	2.0		2.1.6	51.5	21.1	5.9	SL	172.5	2.70
3	46～54	7.2		2.7	16.8	58.4	22.1	Sic1	118.3	2.63
4	54～72	13.5		3.4	55.7	28.9	12.0	L	113.6	2.69
5	72～95	13.2		3.4	55.4	31.6	9.6	L	118.8	2.60
層位	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %	P H		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置 CaO	
					H <sub>2</sub> O	Kcℓ				
1-1	1.16	0.07	17	2.0	4.9	4.0	6.70	17.7	9.9	
2	—	—	—	—	5.7	4.3	1.34	14.1	11.9	
3	4.74	0.54	9	8.2	5.5	4.7	0.80	38.5	29.7	
4	6.30	0.67	9	10.8	5.5	4.7	0.80	53.2	28.3	
5	—	—	—	—	5.4	4.6	0.80	46.0	14.2	
層位	換性塩基 me/100g		石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g					
	MgO	K <sub>2</sub> O								
1-1	1.4	0.5	55.9	893	4.4					
2	1.1	0.3	84.4	748	5.1					
3	6.4	0.5	77.1	1590	1.5					
4	1.3	0.6	53.2	2550	0.4					
5	1.4	0.6	30.9	3012	0.3					

A-2 他の土壌統との関係

本土壌に類似する統として大西山統、大原統がある。大西山統の新期火山灰層、ローム層ともに本統より薄く、ローム層の直下に浮石礫層があるので区別できる。また大原統は全層腐植層となつているので区別される。

A-3 母 材

非固結火成岩

A-4 堆積様式

風積(火山性)ノ洪積世堆積

B 地 形

平坦一部傾斜(4°～8°)

C 気 候

年平均気温7.6℃ 年降水量1125mm

D 植生及び利用状況

畑(菜豆、馬鈴薯、てん菜、小豆など) 山林 植林

E 農業上の留意事項



② 土壤区別説明

香 川 一 1

示性分級式(畑) 混層耕後

土	壤	表	有	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵													
牛	効	土	表	表	地	透	保	湿	然	保	固	土	置	有	微	酸	有	物	增	地	自	傾	人	侵	耐
産	土	土	耘	土	土	の	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	物	冠	す	然	斜	為	水	
力	層	の	の	の	粘	乾	性	度	沃	力	態	基	灰	土	里	酸	要	害	質	障	の	危	傾	傾	風
可	の	疎	土	着	土	乾	性	度	沃	力	態	基	灰	土	里	酸	要	害	質	障	の	危	傾	傾	風
能	厚	深	難	性	性	の	性	度	沃	力	態	基	灰	土	里	酸	要	害	質	障	の	危	傾	傾	風
性	等	級	さ	量	易	さ	湿	度	否	否	否	否	否	否	否	否	否	性	性	性	性	性	性	性	性



示性分級式（畑）

土	表	有	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵										
生	効	土	表	表	透	保	固	置	有	微	酸	有	物	增	地	自	傾	人	侵	耐	
産	土	土	土	土	湿	然	層	換	効	効	量	害	理	冠	す	然	斜	為	水	風	
力	の	の	の	の	水	水	潤	肥	肥	定	塩	石	苦	加	燐	害	質	障	危	の	傾
可	の	の	の	の	水	潤	肥	肥	定	塩	石	苦	加	燐	要	害	質	障	危	の	傾
能	の	の	の	の	水	潤	肥	肥	定	塩	石	苦	加	燐	要	害	質	障	危	の	傾
性	厚	深	含	難	性	性	乾	性	度	沃	力	力	態	量	量	素	度	無	性	度	傾
等	さ	量	易	（	湿	度	否	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
級	さ	量	易	（	湿	度	否	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e										
Ⅱ	I	I	I	I	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
簡略分級式 Ⅱ fn																					

A 土壤区の特徴

本土壤区は香川統に属する、表土の厚さ19～33cmで厚く、有効土層1m以上で深い。表土は壤質で、耕起碎土は容易である。透水性は大きいが保水性もやや大きいので過干のおそれはない。保肥力、固定力ともに中庸で、自然肥沃度は中程度、置換性塩基はやや豊富であるが有効態磷酸は中庸で、かつ酸性に傾いているので、養分状態は中程度である。物理的障害、および災害性はない。

B 植生及び利用状況

畑（馬鈴薯、てん菜、白花など）、植林、山林

C 地力保全上の問題点

混層耕によつて、保肥力の大きい下層土の混入を計るとともに石灰、燐燐など土改資材の施用によつて、酸性矯正、自然肥沃度の向上を計ること、堆厩肥など有機物の補給も必要である。

D 分布

北海道虻田郡洞爺村、香川、大原、虻田町花和

記載責任者

小林 茂（北海道立中央農業試験場）

日付

昭和44年3月31日

(2) 土壤区別説明

香	川	—	3
---	---	---	---

示性分級式(畑)

土	表	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵																										
生	効	(表	(表	(表	透	保	湿	然	保	固	土	分	置	有	微	酸	有	物	增	地	自	傾	人	侵	耐	耐										
力	土	土	土	土	の	の	の	の	風	水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	物	的	害	水	べ	然	斜	為	水	風					
可	の	の	の	の	粘	乾	乾	乾	性	性	度	沃	力	態	状	豊	量	量	量	量	素	度	無	性	危	危	傾	方	傾	度	性	性				
能	厚	深	含	難	性	性	の	硬	性	性	度	沃	力	態	状	豊	量	量	量	素	度	無	性	危	危	傾	方	傾	度	性	性					
等	級	さ	さ	量	易	さ	湿																													
	t	d	g	p		w		f		n											i	a	s				e									
II	I	I	I	I	1	1	1	I	1	1	1	II	2	2	2	II	1	2	1	2	1	2	1	1	1	I	1	1	II	2	-	-	II	2	2	1
簡略分級式		II fnse																																		

A 土壤区の特徴

本土壤区は香川統に属する。表土の厚さ15~26cmで中、有効土層は1m以上で深い、表土の土性は壤質で、耕起、砕土は容易である。透水性は大きい、保水性もやや大きいので、過干のおそれはない。保肥力、固定力は中庸で、自然肥沃度は中程度、置換性塩基はやや豊富であるが、有効態燐酸は中庸で、酸性に傾いているので、養分状態は中程度である。物理的障害性、災害性はないが、一部に自然傾斜(4~8°)があり、侵蝕のおそれがある。

B 植生及び利用状況

畑(馬鈴薯、白花、牧草、てん菜など)、植林、山林

C 地力保全上の問題点

石灰、熔燐などを施用して、酸性矯正、自然肥沃度の向上を計るとともに、一部傾斜地では、牧草などの導入を計り、侵蝕防止に努めなければならない。

D 分布

北海道虻田郡洞爺村、富丘

記載責任者 小林 茂 (北海道立中央農業試験場)  
日付 昭和44年3月31日

大 原 一 統

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は28cm内外で腐植8%前後。土性SL、色は7.5Y彩度2明度3、未風化小角礫あり、発達弱度の粒状構造でち密度14内外で疎、PH(H<sub>2</sub>O)5.6前後、下層との境界明瞭。本層はU-IIaとU-b<sub>1</sub>の混合層。

第2層は5cm内外で腐植を欠く、土性SL、色は7.5Y彩度3明度4、均質連結状で小孔に富む。ち密度23内外で中、PH(H<sub>2</sub>O)5.6前後、下層との境界画然、本層はU-b<sub>1</sub>層

第3層は7cm内外で腐植16%前後、土性SicL、色は10YR、彩度1明度2、発達弱度の細

粒状構造。ち密度17内外で疎、PH(H<sub>2</sub>O)5.4前後、下層との境界画然、本層は不明火山灰層。

第4層は20cm内外で腐植8%前後、土性Si c L、色は10YR、彩度2明度2、発達中度の細粒状構造で、ち密度20内外の中、PH(H<sub>2</sub>O)5.3前後、下層との境界漸変、本層は羊蹄ロームA1層。

第5層は13cm内外で腐植8%前後、土性Si L、色は10YR、彩度3明度4、発達弱度の粒状構造で、ち密度24内外の中～密、PH(H<sub>2</sub>O)5.1前後、下層との境界漸変、本層は羊蹄ロームA2層。

第6層は26cm内外で腐植4%前後、土性Si L、色は10YR、彩度6明度4、発達弱度の塊状構造で、ち密度24内外の中～密、粘着性がやや強い。本層は羊蹄ロームB層。

代表的断面形態

(畑)

(所在地)北海道虻田郡洞爺村大原(試坑t9)

第1層	0～28cm	腐植に富む、灰(7.5Y3/2)のSL、発達弱度の粒状構造、未風化な小角礫あり、ち密度14で疎、PH(H <sub>2</sub> O)5.6、調査時の湿り乾、境界平坦明瞭、U-II a、U-b <sub>1</sub> 混合層。
第2層	28～33	腐植を欠く、灰(7.5Y4/3)のSL、均質連結状でち密度23の中、小孔に富む。PH(H <sub>2</sub> O)5.6、調査時の湿り乾、境界平坦画然、U-b <sub>1</sub> 層 第1層と第2層混合して試料1
第3層	33～40	腐植にすこぶる富む。黒(10YR2/1)のSi c L、発達弱度の細粒状構造、ち密度17で疎、PH(H <sub>2</sub> O)5.4、調査時の湿り半乾、下層との境界平坦画然。本層は不明火山灰、試料2
第4層	40～60	腐植に富む、黒(10YR2/2)のSi c L、発達中度の細粒状構造、ち密度20の中、PH(H <sub>2</sub> O)5.3、調査時の湿り半乾、境界漸変、羊蹄ロームA1層、試料3
第5層	60～73	腐植に富む、黄褐(10YR4/3)のSi L、発達弱度の粒状構造、ち密度24の中、PH(H <sub>2</sub> O)5.1、調査時の湿り半乾、境界漸変、羊蹄ロームA2層
第6層	73～	腐植を含む、黄褐(10YR4/6)のSi L、発達弱度の塊状構造、ち密度24の中、調査時の湿り半乾、羊蹄ロームB層、第5層、第6層混合して試料4

A-2 他の土壌統との関係

本土壌に類似した統として、香川統、大西山統がある。香川統は表層に腐植を欠き、大西山統は表層腐植層のみであるが、本統は全層腐植層なので区別することができる。

A-3 母材

非固結火成岩

A-4 堆積様式

風積(火山性)ノ洪積世堆積

B 地形

略ノ平坦

C 気 候

年平均気温 7.6℃ 年降水量 1.125mm

D 植生及び利用状況

畑(馬鈴薯、てん菜、白花など)

E 農業上の留意事項

磷酸の増施、塩基(苦土)の補給

F 分 布

北海道虻田郡洞爺村大原

調査及び記載責任者

小 林 茂 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日

昭和44年3月31日

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土 性	現地容 積重 g	真比重
				粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			
9-1	0~33	3.8		16.0	53.1	24.6	6.3	SL	150.5	2.68
2	33~40	7.3		3.6	29.7	45.9	20.8	SicL	-	-
3	40~60	10.3		2.1	25.5	53.3	19.1	SicL	-	-
4	60~	12.7		4.6	36.1	49.3	10.0	SiL	-	-
層位	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %	P H		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置 CaO	
					H <sub>2</sub> O	Kcl				
9-1	4.64	0.13	36	8.0	5.6	4.6	1.07	20.3	12.3	
2	9.33	0.11	85	16.0	5.4	4.5	1.07	40.7	23.8	
3	4.47	0.47	10	7.7	5.3	4.3	1.34	33.0	13.4	
4	4.06	0.49	8	7.0	5.1	4.4	1.34	33.6	6.9	
層位	換性塩基 me/100g			石灰飽 和度%	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g				
	MgO	K <sub>2</sub> O								
9-1	0.1	0.8		60.6	1.218	2.5				
2	1.1	0.8		58.5	1.727	2.7				
3	0.9	0.5		40.6	2.120	0.4				
4	0.3	0.5		20.5	3.000	0.3				

① 土壤区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
大 原	Ilwn

② 土壤区別説明

大原統一 大原区

示性分級式(畑)

土	壤	表	有	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵														
生	効	土	土	表	表	透	保	湿	然	保	固	土	置	有	微	酸	有	物	增	地	自	傾	人	侵	耐	
産	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土
力	層	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	
可	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	
能	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	
性	厚	深	含	難	性	性	乾	性	性	度	沃	力	力	態	豊	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	
等	さ	さ	量	易	さ	湿	度	否	性	性	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜	
級	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e															
II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	
簡略分級式 II wn																										

A 土壌区の特徴

本土壌区は大原統に属する。表土の厚さは、33cm内外で厚く、有効土層も1m以上で深い。壤質で耕起碎土は容易である。透水性は大きい、保水性も大きく、地形的に周囲よりやや凹地であるため、一時的過湿のおそれがある。保肥力は大きい、固定力は中庸で、土層の塩基状態も良く、自然肥沃度は高い。しかし、置換性塩基が不均衡で、やや酸性に傾いているので、養分状態は中程度である。物理的障害性、災害性は少ない。

B 植生及び利用状況

畑地(馬鈴薯、てん菜、白菜など)

C 地力保全上の問題点

置換性塩基の状態が不均衡になつていので、苦土など、少ない塩基の補給と燐酸の増施が必要である。

D 分布

北海道虻田郡洞爺村大原  
 記載責任者 小 林 茂 (北海道立中央農業試験場)  
 日 付 昭和44年3月31日

ピリカベツ統

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層の厚さ15cm内外、腐植3%、土性SL、色は2.5Y彩度3明度2、未風化小中半角礫すこぶる富む。中度の粒状構造で、ち密度1.5前後の疎、PH(H<sub>2</sub>O)5.2前後で下層との境界面然、U-II a、U-b<sub>1</sub>の混合層であるが、傾斜地であるため、本層の層厚は、侵蝕により変動著しい。崩積土混入。

第2層は厚さ36cm内外、腐植を欠く、土性CL、色は1.0YR彩度6明度4の未風化小中半角礫層、PH(H<sub>2</sub>O)5.7前後、下層との境界判然、以下崩積土。

第3層は49cm以上で腐植を欠く。色は10YR彩度6明度5の未風化小中半角礫層。

代表的断面形態

(畑)

(所在地)北海道虻田郡洞爺村岩屋(試坑t24)

第1層	0~15 cm	腐植を含む。灰(2.5Y2/3)のSL。未風化小中半角礫すこぶる富む。中度の粒状構造、ち密度1.5で疎、PH(H <sub>2</sub> O)5.2、調査時の湿り乾、境界面然、U-IIaとU-b <sub>1</sub> の混合層。
第2層	15~51	腐植を欠く黄褐(10YR4/6)のCL、未風化小中半角礫層。PH(H <sub>2</sub> O)5.7、調査時の湿り乾、境界判然。
第3層	51~	腐植を欠く黄褐(10YR5/6)の未風化小中半角礫層、調査時の湿り乾、第2~第3層崩積土。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土 性	現地容 積重g	真比重
				粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			
24-1	0~15	1.6		28.5	42.9	20.9	7.7	SL	146.2	2.76
2	16~51	3.1		30.1	29.7	23.5	16.7	CL	—	—
層位	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %	P H		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置	
					H <sub>2</sub> O	Kcl				置
24-1	1.73	0.15	1.2	3.0	5.2	4.5	1.60	17.5	12.1	
2	—	—	—	—	5.7	4.8	0.53	30.4	26.4	
層位	換性塩基 me/100g		石灰飽 和度%	腐 植 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g				
	MgO	K <sub>2</sub> O								
24-1	0.9	0.9	69.1		7.70	15.1				
2	5.4	0.2	86.8		1.225	0.8				

A-2 他の土壌統との関係

本土壌に類似する統としては月浦統がある。月浦統の表土は本統より厚く、かつ下層の崩積土は月浦統では安山岩を主材とし、本統では石英粗面岩で、礫含量も著しく多いので区別できる。

A-3 母 材

非固結火成岩/固結火成岩

A-4 堆積様式

風積(火山性)/崩積

B 地 形

波状性傾斜 15°~30°

C 気 候

年平均気温 7.6℃ 年降水量1,125mm

D 植生及び利用状況

畑地、そ菜類を主に菜豆、玉葱黍栽培、一部山林、植林

E 農業上の留意事項

牧草地の造成、除礫、石灰、熔燐など土改資材の施用、有機物の補給。

F 分 布

北海道虻田郡洞爺村川東、岩屋

調査及び記載責任者 小 林 茂 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
ピリカベツーピリカベツ	IVseIIIdgwiIItpfna

② 土壌区別説明

ピリカベツ統一ピリカベツ区

示性分級式(畑)

土	壤	表	有	効	土	表	表	表	透	保	湿	然	保	固	土	分	置	有	微	酸	有	物	増	地	自	傾	人	侵	耐					
生	産	効	土	土	土	表	表	表	透	保	湿	然	保	固	土	分	置	有	微	酸	有	物	増	地	自	傾	人	侵	耐					
力	可	能	厚	深	含	難	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性				
級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級				
t	d	g	p																															
IV	II	III	III	II	2	1	1	(III)	1	2	(II)	2	2	1	II	1	2	1	1	1	2	III	1	3	II	1	2	IV	4	--	IV	4	2	1
簡略分級式		IVseIIIdg(w)iIItpfna																																

A 土壌区の特徴

この土壌区はピリカベツ統に属する。表土、有効土層共に15cm内外で浅い。表土の土性は礫質で、耕起碎土がやや困難である。

保水性は中庸であるが、透水性は大きく、一時的過干のおそれが多い。保肥力、固定力、中庸で自然肥沃度は中位である。有効態磷酸は比較的豊富であるが、稍酸性に傾き、養分状態は中程度、物理的障害があり加えて地すべりの災害を受ける危険性も多少ある。傾斜地のため侵蝕のおそれ甚しい。

B 植生及び利用状況

畑地、そ菜類を主に菜豆、玉葱黍、栽培、一部山林、植林

C 地力保全上の問題点

波状性傾斜地(15°~30°)であるから、侵蝕を防止するため、草地を中心とした経営にする。下層土が混入或は露出した場合は石灰、熔燐などの改良資材の施用と除礫も必要。また堆肥など有機物の補給も忘れてはならない。

D 分 布

北海道虻田郡洞爺村、川東、岩屋

記載責任者 小 林 茂 (北海道立中央農業試験場)  
 日 付 昭和44年3月31日

モイナイ統

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm内外、腐植2.1%前後。土性SL、色は2.5Y彩度2明度3、未風化小中半角礫にすこぶる富む、発達中度の粒状構造でち密度1.5前後で疎、PH(H<sub>2</sub>O)5.7前後、下層との境界明瞭、本層は傾斜地のため侵蝕著しく、本層は上部からの侵蝕土の堆積物で層厚には著しい変動がある。

第2層の厚さ19cm内外で腐植を欠く、土性SL、色は5Y彩度2明度4、未風化小中半角礫(稀に巨礫)に富む、発達中度の塊状構造でち密度2.0前後の中、PH(H<sub>2</sub>O)5.8前後、下層との境界明瞭、本層はU-II aとU-b<sub>1</sub>の混合層であるが、傾斜上部では侵蝕されて著しく薄層となる。

第3層は21cm内外で、腐植を欠く。土性SL、色は7.5Y彩度2明度4、均質連結状で、ち密度2.2の中程度。PH(H<sub>2</sub>O)6.0前後、下層との境界画然U-b<sub>1</sub>層。

第4層の厚さ21cm内外で腐植8.6%前後、土性Lic、色は1.0YR、彩度3明度3、未風化および半風化小半角礫を含む。発達中度の細粒状構造で細小孔に富む。ち密度1.9内外で中程度、PH(H<sub>2</sub>O)5.9前後、下層との境界漸変、以下扇状堆土。

第5層は厚さ25cm以上で腐植を欠く、土性Lic、色は1.0YR彩度6明度4、未風化および半風化小半角礫にすこぶる富む。発達中度の細粒状構造で小孔に富む。

代表的断面形態

(畑)

(所在地)北海道虻田郡洞爺村川東(試坑t25)

第1層	0~15 cm	腐植を含む、灰(2.5Y3/2)のSL、未風化小中半角礫にすこぶる富む。発達中度の粒状構造、ち密度1.5で疎、PH(H <sub>2</sub> O)5.7、調査時の湿り乾、境界明瞭、侵蝕堆積物。
第2層	15~34	腐植を欠く、灰(5Y4/2)のSL、未風化小中半角礫(稀に巨礫)富む。発達中度の塊状構造、ち密度2.0で中、PH(H <sub>2</sub> O)5.8調査時の湿り乾。境界明瞭、U-II aとU-b <sub>1</sub> の混合層。
第3層	34~54	腐植を欠く、灰(7.5Y4/2)のSL、均質連結でち密度2.2の中、PH(H <sub>2</sub> O)6.0、調査時の湿り乾、境界画然、U-b <sub>1</sub> 層
第4層	54~75	腐植に富む黄褐(1.0YR3/3)のLic、未風化および半風化小半角礫を含む。発達中度の細粒状構造、細小孔に富む。ち密度1.9で中、PH(H <sub>2</sub> O)5.9、調査時の湿り半乾、境界漸変。
第5層	75~	腐植を欠く黄褐(1.0YR4/6)のLic、未風化および半風化小半角礫にすこぶる富む。発達中度の細粒状構造、小孔に富む、調査時の湿り半乾、第4~第5層は扇状土。



代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重
				粗砂	細砂	シルト	粘土			
25-1	0~15	2.1		20.4	49.5	24.2	5.9	S L	145.2	2.75
2	15~34	1.0		25.1	46.8	21.5	6.6	S L	—	—
3	34~54	1.6		27.7	43.8	22.6	5.9	S L	—	—
4	54~	3.9		16.3	35.0	22.3	26.4	Lic	—	—
層位	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %	P H		置換度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置 CaO	
					H <sub>2</sub> O	Kcl				
25-1	1.22	0.13	9	2.1	5.7	4.8	0.53	19.2	15.7	
2	0.27	0.04	7	0.5	5.8	4.5	0.80	15.1	13.2	
3	—	0.01	—	—	6.0	4.6	0.53	14.4	12.7	
4	5.45	0.43	13	8.6	5.9	5.2	1.07	28.2	24.5	
層位	換性塩基 me/100g		石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g					
	MgO	K <sub>2</sub> O								
25-1	0.7	0.2	81.8	77.7	14.4					
2	0.9	0.4	87.4	69.0	11.1					
3	2.3	0.5	88.2	68.0	19.4					
4	5.2	0.5	86.8	137.5	1.1					

A-2 他の土壌統との関係

本土壌に類似する統として岩屋統がある。岩屋統も同じ風積/扇状堆土であるが、表土が壤質で水田となっており、本統は礫質、畑作なので区別できる。

A-3 母材

非固結火成岩/固結火成岩

A-4 堆積様式

風積(火山性)/扇状堆土

B 地形

傾斜 5°~15°

C 気候

年平均気温 7.6℃ 年降水量 1125mm

D 植生及び利用状況

畑(菜豆、玉葱、小豆など)、一部山林

E 農業上の留意事項

牧草地の造成、石灰、熔燐など土改資材の施用、除礫、塩基、有機物の補給

F 分布

北海道虻田郡洞爺村、岩屋、川東

調査及び記載責任者 小林 茂 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡略分級式
モイナイーモイナイ	Ⅲ gweIldfnis

② 土壌区別説明

モイナイ統一モイナイ区

示性分級式(畑)

土	壤	表	有	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵																								
生	効	土	土	土	土	透	保	湿	然	固	土	分	置	有	微	酸	有	物	增	地	自	傾	人	侵	耐											
産	土	土	土	土	土	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の											
力	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の											
可	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の											
能	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の											
性	厚	深	含	難	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性											
等	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の											
級	さ	さ	量	易	さ	湿	度	否	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性											
	t	d	g	p	w	f	n		i	a	s	e																								
Ⅲ	I	II	III	II	2	1	1	Ⅲ	1	2	(2)	II	2	2	1	II	1	2	2	1	1	2	II	1	2	I	1	1	II	2	—	—	III	3	2	1
簡略分級式Ⅲ g(w) eIldfnis																																				

A 土壌区の特徴

この土壌区はモイナイ統に属する。表土の厚さ34cm内外で厚いが、有効土層は75cm内外で中程度、表土は礫にすこぶる富み、礫質で、耕起、砕土はやや困難である。保水性は中庸であるが、透水性は大きく、一時的過干のおそれが多い。保肥力、固定力は中庸で、自然肥沃度は中程度、有効態燐酸に富むがやや酸性に傾き、養分状態は中程度、除去やや困難な物理的障害があるが、災害性はない。5°~15°の自然傾斜のため、侵蝕のおそれが多い。

B 植生及び利用状況

畑(菜豆、玉葱黍、小豆)、一部山林

C 地力保全上の問題点

傾斜地(5°~15°)が多いから、草地を中心とした経営にすること。侵蝕で下層土が混入或いは露出した場合は石灰、燐など改良資材を施用するとともに除礫が必要である。

D 分 布

北海道虻田郡洞爺村、岩屋、川東

記載責任者 小林 茂 (北海道立中央農業試験場)  
日 付 昭和44年3月31日

清 水 統

(1) 土壌統の概要

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20～25cmで腐植含量3～4%、土性はLである。色は10YRで明度2～4、彩度1～3である。礫なく。発達弱度の粒状構造。細孔あり。ち密度1.3～1.7で中。PH(H<sub>2</sub>O) 5.3前後。下層との境界は波状明瞭である。有珠火山灰Ⅱa層を混合したb<sub>1</sub>層。

第2層は厚さ5～10cmで腐植含量1%前後。土性はLである。色は2.5Yで明度2～4、彩度1～3である。礫なく。発達中度の粒状構造。細孔富む。ち密度2.0～2.5で中～密。PH(H<sub>2</sub>O) 5.7前後。下層との境界は波状明瞭である。有珠火山灰b<sub>1</sub>層で傾斜地のため場所による厚薄が著しい。

第3層は29cm以下で安山岩礫層。

代表的断面形態

(畑)

(所在地) 虻田町清水(試坑a15)

第1層	0～22cm	腐植富む。灰褐(10YR 3/2)のL、礫なく、弱度の粒状構造あり、細孔あり、ち密度1.5で中、PH(H <sub>2</sub> O) 5.3、調査時の湿り乾、層界波状明瞭、有珠火山灰Ⅱa層、b <sub>1</sub> 層の混合層。
第2層	22～29cm	腐植あり、灰色(2.5Y 3/2)のL、礫なく、中度の粒状構造あり、細孔富む、ち密度2.3で中、PH(H <sub>2</sub> O) 5.7、調査時の湿り半乾、層界波状明瞭、有珠火山灰b <sub>1</sub> 層。
第3層	29cm～	未風化の安山岩礫層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重
				粗砂	細砂	シルト	粘土			
1	0～22	1.4		22.8	38.0	27.8	11.4	L	105.6	2.79
2	22～29	1.3		7.8	49.3	32.6	10.3	L	124.3	2.75
層位	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %	P H		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置 C a O	
					H <sub>2</sub> O	K c l				
1	1.91	0.28	7	3.3	5.3	4.5	0.8	23.0	14.3	
2	0.35	0.04	9	0.6	5.7	4.4	0.8	21.1	14.2	
層位	換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	燐酸吸収係数	有効態燐酸 mg/100g				
	M g O	K <sub>2</sub> O								
1	1.7	0.5		62.2	800	2.3				
2	2.1	0.3		67.3	938	4.7				

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては三豊統があるが、本統とは有効土層の浅深が異なり、また三豊統には埋没土層があるので、本統と区別される。

A-3 母材

非固結火成岩

A-4 堆積様式

風積(火山性)ノ崩積

B 地形

傾斜地

C 気 候

年平均気温 8.3℃ 年降水量 844.0mm

D 植生及び利用状況

殆んど耕地化され、主に菜豆、牧草等が栽培されている。また一部に果樹が植付けされている。

E 農業上の留意事項

下層に安山岩礫層が存在するため、過干のおそれがある。また傾斜地のため土壤侵蝕が著しいので等高線栽培、緑作帯の設置、階段畑の造成による侵蝕防止を要する。また腐植に乏しく、有機物施用にこころがける必要がある。

F 分 布

北海道虻田郡虻田町清水、豊浦町東雲

調査及び記載責任者 上 坂 晶 司 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土 壤 区 名	簡略分級式
清 水-清 水	III d i l t(w) s e

② 土壤区別説明

清 水 統 - 清 水 区

示性分級式(畑)

土 壤	表有表耕	土	自 養	障 災 傾 侵	
生 効 土 産 力 可 能 性 等 級	土 土 層 的 粘 土 厚 深 含 難 性 性 硬 易	透 保 湿 然 潤 肥 定 塩 石 苦 加 磷 要 素 度	置 換 性 性 能 量 微 酸 効 能 量 微 酸 効 能 量 微 酸 効 能 量	有 物 害 質 障 害 有 害 無 性	增 地 冠 水 べ の り 危 險 度 斜 向 斜 度 傾 人 為 傾 方 向 斜 度 耐 風 蝕 蝕 性 性
t d g p	w	f	n	i a s	e
III II II I I I I I (II)	1 2 1 I I 2 1 I I 2 1 I I 1 1 2 1 2	III 1 3 I I 1 I II 2 -- II 2 1 1			
簡略分級式 III d i l t(w) s e					

A 土壤区の特徴

この土壤区は清水統に属する。表土の厚さは22cmで中庸で有効土層は25~30cmで浅い。表土の土性は壤質のため耕起、砕土は容易である。保肥力高く、固定力はあるが塩基含量多く飽和されており自然肥沃度は高い。作土の養分は石灰多、苦土多、磷酸中、加里多で養分に富む。反応は微酸性である。地形が傾斜地のため侵蝕が所々みられる。

B 植生及び利用状況

畑として利用され、菜豆、牧草等が栽培されている。また一部に果樹が植付けされている。

C. 地力保全上の問題点

下層が礫層のため過干のおそれがあり、有機物の施用につとめること、緩効性肥料の併用を図ること等が必要である。傾斜地のための土壌侵蝕のおそれがあるので、等高線栽培、緑作帯の設置等が必要である。

D 分 布

北海道虻田郡虻田町清水、豊浦町東雲

記載責任者 上 坂 晶 司 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

桜 統

(1) 土壌統の概要

A 土壌区の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm内外で腐植含量10%前後、土性はLが主である。色は10YRで彩度1、明度2。粒状構造で発達程度は弱、細孔げきに富む。礫は含まない。ち密度10前後で疎、PH(H<sub>2</sub>O)5.5前後、下層との境界は平坦判然である。

第2層は厚さ20cm~30cmで腐植含量は10~15%、土性はSicLである。色は10YR彩度3、明度3。塊状構造、細塊状構造で発達強度は強である。細孔げき、中孔げきに富む。ち密度20で中、PH(H<sub>2</sub>O)5.5前後、下層との境界は平坦判然である。

第3層は地表下30cm以深の土層で腐植は含まれない。土性はSiLで発達程度弱の塊状構造を示す。細孔げき、中孔げきに富む。色は10YR、彩度6、明度5である。PH(H<sub>2</sub>O)5.5前後である。

代表的断面形態

(畑)

(所在地) 虻田郡豊浦町桜(試坑y18)

第1層	0~15cm	腐植に富む黒色(10YR2/3)のL、発達程度弱の粒状構造、細孔げきに富む。ち密度10で疎、PH(H <sub>2</sub> O)5.4、調査時の湿り半乾、境界平坦判然
第2層	15~32cm	腐植に富む黄褐(10YR3/3)のSicL、発達程度強の細塊状構造。細孔げきに富み、中孔げきを含む。ち密度20で中、PH(H <sub>2</sub> O)5.4、調査時の湿り半乾、境界平坦判然
第3層	32cm~	腐植ありの黄褐(10YR5/6)のSiL、発達程度弱の塊状構造、細、中孔げきに富む。ち密度17で中、PH(H <sub>2</sub> O)5.7、調査時の湿り半乾~半湿

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土 性	現地容積重 g	真比重
				粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			
I	0~15	4.89	—	4.9	35.3	44.9	14.9	L	134	
II	15~32	10.20	—	6.6	18.0	56.2	19.2	SiCL	120	
III	32~	8.69	—	13.7	10.4	61.1	14.8	SiL	124	
層位	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %	P H		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置 換 CaO	
					H <sub>2</sub> O	Kcl				
I	5.39	0.45	24.1	9.3	5.4	4.5	1.6	24.1	6.6	
II	5.40	0.35	39.6	9.3	5.4	4.6	0.8	39.6	5.8	
III	—	—	—	—	5.7	5.0	0.4	28.6	3.2	
層位	性塩基me/100g		石灰飽和度 %	磷 酸 吸 収 係 数	有効態磷酸 mg/100g					
	MgO	K <sub>2</sub> O								
I	0.04	0.4	27.3	2.058	22.3					
II	0.6	0.7	14.5	2.900	0.9					
III	0.8	0.2	11.0	2.650	tr					

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統に香川統香川3区がある。本統も香川3区も有珠火山灰層Ubによつて覆われている地辺であるが本統は地形的に、また距離的にもその厚さは薄く、本統に隣接する香川3区では作土下に起耕されずにUb層が20cm前後残されているが本統ではすべて作土中に耕起されてしまつている。下層はロームになつている。

A-3 母 材

非固結火成岩（火山灰）

A-4 堆積様式

洪積世堆積、風積

B 地 形

平坦～緩傾斜を有する標高200m前後の台地

C 気 候

海岸に近い気候的におだやかである。初霜も遅い。

年平均気温 12.7℃ 年間降水量900mm前後。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、豆類、燕麦、牧草等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

腐植含量は多いが心土が瘠薄であり、また磷酸吸収係数も大きい。一部有珠火山灰層がみられるところはこの層がけん密なのでこれを破壊する必要がある。傾斜地においては表土の土性が中粒質なので土壌侵蝕の防止を行なうこと。

F 分 布

豊浦町桜の丘陵地

調査及び記載責任者 木 村 清（北海道立中央農業試験場）  
年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
桜	Ⅲ f Ⅱ t n s e

② 土壌区別説明

桜 統 一 桜 区

示性分級式(畑)

土	表	表	耕	土	自	養	災	傾	斜	侵																
生	効	土	耘	表	透	保	湿	然	保	固	土	置	有	微	酸	有	物	增	地	自	傾	人	侵	耐		
産	土	土	土	土	地	然	然	然	層	分	層	換	効	効	態	量	害	理	冠	す	然	斜	為	水	風	
力	層	の	の	の	の	水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	要	害	質	的	害	の	傾	傾	蝕	
可	の	の	の	の	粘	乾	性	性	度	沃	力	態	基	状	豊	含	素	度	無	性	無	傾	斜	蝕	蝕	
能	厚	深	含	難	性	性	乾	性	性	度	沃	力	態	基	状	豊	含	素	度	無	傾	斜	蝕	蝕	蝕	
性	厚	深	含	難	性	性	乾	性	性	度	沃	力	態	基	状	豊	含	素	度	無	傾	斜	蝕	蝕	蝕	
等	さ	さ	量	易	硬	湿	度	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	斜	斜	蝕	蝕	蝕	
級	さ	さ	量	易	硬	湿	度	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	斜	斜	蝕	蝕	蝕	
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	N	e														
Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
簡略分級式(畑)	Ⅲ f Ⅱ t n s e																									

A 土壌区の特徴

この土壌区は桜統に属する。表土は15cm~25cm内外で中、有効土層は100cm以上で深い。表土は中粒質で粘着性弱く耕起砕土は容易である。全層にわたって透水性が良好であり、また保水性もよい。

保肥力は中、磷酸固定力が著しく大きい。土層の塩基状態は低い。作土の養分は概ね中に近いが下層土は不良であり特に磷酸に欠乏する。特殊な障害性はない。土性が中粒質のため一部傾斜地では土壌侵蝕の恐れがある。

B 植生及び利用状況

平坦地、緩傾斜地はほとんど耕地に利用され、燕麦、豆類が栽培され草地の利用もかなりみられる。

C 地力保全上の問題点

腐植を多く含むが表土、下層土ともに火山灰起源であるため瘠薄化されやすいから牧草栽培、有機物施用により地力の培養に努めることが必要である。施肥の方向としては磷酸に欠乏することと置換性の石灰苦土の欠乏を解消するように行うべきである。この点については、特に大型機械等による急激な深耕の場合土壌改良資材として磷酸質肥料の投入が必要となる。

D 分 布

豊浦町桜

記載責任者 木 村 清 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

大 西 山 統

(1) 土壌統の概要

A 土壌区の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm前後で腐植含量5%弱、土性はLが主体である。色は10YR、彩度3~4、明度3である。礫は含まないが一部大和地区では安山岩の細、円礫を含む場合がみられる。粒状構造を示し発達程度は中である。ち密度15前後で疎、PH(H<sub>2</sub>O)5.5前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は15cm~20cmで腐植は3%前後、土性はSL~LC、色は10YR、彩度6、明度4~5、一部チャートの細礫を含むところもある。細孔げき、中孔げきに富む。発達程度弱~中の塊状構造である。酸化沈積物はみられない。ち密度15~20で中、下層との境界は平坦漸変である。

第3層は地表下40~50cm以深の土層である。腐植を欠き土性はSL~SiL、色は10YR、彩度、明度ともに6である。均質連結状で細小孔げきに富む。凝灰質浮石の腐朽した土層である。ち密度15前後で疎。

代表的断面形態

(畑)

(所在地) 虻田郡豊浦町新山梨(試坑y10)

第1層	0~18	腐植ありの黄褐(10YR 3/4)のL。発達程度中の粒状構造で礫なし。細孔げきに富む、ち密度18で疎、PH(H <sub>2</sub> O)5.4。調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第2層	18~43	腐植なしの黄褐(10YR 5/6)のSL、発達程度弱の塊状構造、中の粒状の複合構造。細小孔げきに富む。中孔げきふくむ。チャート細礫を含む。ち密度15で疎、PH(H <sub>2</sub> O)5.8、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第3層	43~	腐植欠く黄褐(10YR 6/6)のSL、凝灰質の腐朽した浮石層からなり原組織をのこす。均質連結状構造で細小孔げきにすこぶる富む。弱い斑状斑を示す。ち密度13で疎、PH(H <sub>2</sub> O)5.8、調査時の湿り半乾

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土 性	現地容積重 g	真比重
				粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			
I	0~18	4.55		22.4	21.5	42.0	14.1	L	146	1.59
II	18~43	4.74		29.7	39.8	27.7	2.8	SL	148	2.21
III	43~	4.04		29.8	36.7	27.9	5.6	SL		-
層位	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %	P H		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換 CaO	
					H <sub>2</sub> O	Kcl				
I	2.72	0.26	10.5	4.7	5.4	4.5	3.3	18.3	3.7	
II	1.03	0.09	11.4	1.8	5.8	4.6	0.4	13.7	4.1	
III	-	-	-	-	5.8	4.4	1.6	12.1	3.9	
層位	性塩基 me/100g		石灰飽和度 %	磷 酸 有効態 mg/100g						
	MgO	K <sub>2</sub> O								
I	0.2	0.2	20.3	1.876						
II	0.1	0.3	30.1	1.580						
III	0.2	0.6	32.5	1.068						





A 土壌区の特徴

この土壌区は大西山統に属する。表土の厚さは20cm程度で中であるが有効土層は1m以上で深い。表土に礫は含まない。土性は中粒質で粘着性も弱く農具の使用は容易であるが、かなりの急傾斜地でカール状の地形的に困難である。透水性は良好であるが地形的に一部水の集まるところは排水を考慮する必要がある。保肥力、土層の塩基状態は中であるが固定力は大きい。置換性の石灰苦土、加里に欠乏している。また酸性も強い。特殊な障害性はないが急傾斜地では土壌侵蝕がある。

B 植生および利用状況

ほとんど耕地として利用されている。草が多い。

C 地力保全上の問題点

この土壌区は腐植の少ないこと、置換性の塩基及び有効態磷酸に欠乏していることが大きな制限因子となつてい。そのため土壌保全をも考慮して牧草栽培を強化して有機物の富化をはかり、また熔りん珪カル等の施用、酸性矯正が大切である。

D 分 布

北海道虻田郡豊浦町新山梨、洞爺村ボンヌキ山周辺

記載責任者 木 村 清 (北海道立中央農業試験場)  
年 月 日 昭和44年3月31日

山 梨 統

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15~25cmで腐植含量6~8%、土性はCLが主でLのところもある。色は10YRで彩度3、明度3~4。礫は含まない。細粒状構造で発達程度は中~強である。一部細塊状構造も示す。細孔げきに富む。ち密度15前後で疎、PH(H<sub>2</sub>O)5.5前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ20cm前後、一部35cmにもなるところもみられる。腐植は5%程度、土性はSiCで粘着性は中を示す。色は10YRで彩度6、明度4である。発達程度強の細塊状構造で細孔げきにすこぶる富む。ち密度20前後で中、PH(H<sub>2</sub>O)5.5~6.0、下層との境界は平坦漸変である。

第3層は50cm以深の土層で腐植を欠く。土性はSiCL、色は10YR、彩度4、明度5である。均質連結状で細小孔げきに富む。ち密度20前後、いわゆるローム層である。

代表的断面形態

(畑) (所在地) 虻田郡豊浦町山梨、三和、上泉 試坑y4

第1層	0~25	腐植に富む黄褐(10YR3/3)のCL、発達程度中の細塊状構造、細孔げきに富む。斑紋なし。粘着性弱、PH(H <sub>2</sub> O)6.0、調査時の湿り半乾、ち密度15で疎
第2層	25~48	腐植含む黄褐(10YR4/6)のSiC、均質連結状でありまた発達程度中の細塊状構造、細小孔げきに富む。粘着性中、PH(H <sub>2</sub> O)5.3、ち密度18で中、調査時の湿り半乾。
第3層	48~	腐植欠く黄褐(10YR5/4)のSiC、均質連結状で細小孔げきに富む。可塑性、粘着性ともに中、弱い膜状斑あり、ち密度17で中、調査時の湿り半乾

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土 性	現地容積重 g	真比量
				粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			
I	0~25	4.31		13.4	36.5	34.9	15.2	CL	153	2.01
II	25~48	7.06		8.6	18.8	47.5	25.1	SiC	150	2.15
層位	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %	PH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換 CaO	
					H <sub>2</sub> O	Kcl				
I	4.14	0.38	10.9	7.1	6.0	5.1	0.4	2.30	10.9	
II	3.23	0.32	10.1	5.6	5.3	4.5	2.3	2.45	2.2	
層位	性塩基 me/100g		石灰飽和度 %	磷 酸 吸 収 係 数	有効態磷酸 mg/100g					
	MgO	K <sub>2</sub> O								
I	1.4	0.6	47.2	1.891	2.5					
II	0.6	0.7	9.0	2.699	tr					

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としては大西山統、桜統がある。本統ともいづれも下層は古い火山噴出物に由来するが、大西山統はガラス質木目状の浮石の組織をのこすこと、桜統は粘着性が大きくなることで区別される。

A-3 母 材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地 形 昆布岳の山ろく部、標高300~400mのかなり解析された丘陵地。

C 気 候

本地域は最も標高の高い部分のため雪積量も多くそのため融雪期も遅れる。融雪期5月下旬、初霜9月下旬、晩霜5月中旬

年平均気温 12.7℃ 年平均雨量 900前後

D 植生および利用状況

平担部はほとんど耕地下され飼料作物、草地として利用されている。

E 農業上の留意事項

磷酸固定力が大きいため土壌改良資材としてよう磷、珪カルをほどこすこと。

F 分 布

北海道虻田郡豊浦町山梨、花園、上泉の一部

調査および記載責任者 木 村 清 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
山 梨	III f II e



4～5、発達程度中の塊状構造、細孔げきに富み、また中孔げきも含む、ち密度1.8前後で疎、PH(H<sub>2</sub>O) 5.5内外。下層との境界は平坦明瞭。

第3層は深さ70cm以深、ところによつてはそれ以深の土層で羊蹄山に由来するとされている細粒の浮石層、火山砂からなる、腐植を欠き色は7.5 YR、明度6、彩度8、単粒状構造である。ち密度1.5前後で疎、透水性極めて良好である。

代表的断面形態

(畑)

(所在地) 虻田郡豊浦町

第1層	0～15	腐植に富む黄褐(10 YR 3/4)のSiCL、発達程度中の細粒状構造、礫なし。細孔げきに富むち密度1.0で疎。PH(H <sub>2</sub> O) 4.8、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭
第2層	15～70	腐植を含む黄褐(10 YR 5/6)のSiC、角塊状構造で発達程度中。細孔げきに富み。中孔げきあり。ち密度1.8で疎、PH(H <sub>2</sub> O) 5.5、下層との境界平坦明瞭
第3層	70～	腐植欠く細粒の浮石層、色は黄褐(7.5 YR 6/8)のLS、単粒状構造、ち密度1.6で疎、PH(H <sub>2</sub> O) 6.0、湿めり半乾

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土 性	現地容積重 g	真比重
				粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			
I	0～15	5.82		11.4	18.5	48.7	21.4	SiCL		—
II	15～70	7.17		16.2	11.4	45.6	26.8	SiC		—
III	70～	9.52		57.8	28.3	12.5	1.4	LS		—
層位	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %	P H		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換 CaO	
					H <sub>2</sub> O	KCl				
I	3.80	0.39	9.7	6.5	4.8	4.3	5.5	23.5	1.8	
II	2.10	0.23	9.1	3.6	5.5	4.8	0.4	21.4	1.2	
III	—	—	—	—	6.0	5.7	0.4	16.0	0.7	
層位	性塩基 me/100g		石灰飽和度 %	磷 酸 吸収係数	有効態磷酸 mg/100g					
	MgO	K <sub>2</sub> O								
I	0.1	0.5	7.8	2.433	15.3					
II	0.5	0.4	5.6	2.883	tr					
III	1.0	0.1	4.2	3.033	tr					

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としては山梨統があるが、山梨統は腐植層力厚くまた下層に浮石層が出現しないので本統と異なる。

A-3 母材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積、洪積世堆積

B 地 形

台地上の平坦部、緩波状地

C 気 候

山地のため平地と比較して融雪期、晩霜も遅くなる。

年平均雨量 864 mm      年平均気温 8.3 °C

D 植生および利用状況

大部分耕地化され草地、飼料作物畑として利用されているところが多い。

E 農業上の利用状況

置換性塩基の欠乏が著しいのでこれを補給すること。作土層が浅いので有機物を施用して作土層を深めること。

F 分布

北海道虻田郡豊浦町 上泉、新山梨

調査及び記載責任者 木 村 清 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和 4 4 年 3 月 3 1 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
上 泉	III fn II t d se

② 土壌区別説明

上 泉 統 一 上 泉 区

示性分級式(畑)

土 壤	表 有 表 耕	土	自 養	障 災	傾 侵	侵	耐						
生 産 力 可 能 性 等 級	効 土 の 層 の 厚 等 級	表 土 の 粘 着 性 の 強 さ	透 水 性 の 強 さ	湿 潤 度	固 定 力 の 強 さ	置 換 性 の 強 さ	有 機 質 の 含 量	微 酸 性 の 強 さ	有 機 物 の 害 害 無 性	地 冠 す り の 危 険 度	自 然 的 傾 斜 の 強 さ	人 為 的 傾 斜 の 強 さ	耐 風 蝕 性 の 強 さ
	t d g p	w	f	n	i	a	s	e					
	III II II I I I I I I I I I I III 1 4 3 III 3 3 1 1 1 1 1 3 I I I I I I II 2 -- II 2 2 1												
	簡略分級式												

A 土壌区の特徴

この土壌区は上泉統に属する。表土の厚さは 15 cm ~ 20 cm 中で、有効土層は 70 cm 以上で、土性には中粒質で粘着性も少く農具の使用は容易である。水分の条件は良好である。火山性土のため固定力極大で、土層の塩基状態は不良である。また置換性の石灰、苦土も不足している。

B 植生および利用状況

一部二次林のまま、他ほとんど牧草畑としての利用されている。

C 地力保全上の問題点

この土壌区の制限因子は磷酸の固定が大きいこと、塩基に欠けること、酸性の強いことなので、

土壌改良資材としてよう燐、珪カル等を下層土まで施用し、合わせて石灰、有機物を施用し作土層を深めることが必要である。傾斜地では表土の流亡を防止すること。

D 分布

北海道虻田郡豊浦町上泉、新山梨

記載責任者 木 村 清 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

大 和 統

A 土壌統の特調

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm前後で腐植含量4~5%、土性はLである。色は10YR、彩度3~4、明度3~4である。1cm~3cm大のガラス質浮石礫に富む。発達程度弱の粒状構造を示し細孔げきに富む。粘着性は弱い。ち密度10前後で疎。PH(H<sub>2</sub>O)6.0前後。下層との境界は判然である。

第2層は10~20cm、色は7.5YR~10YR、彩度4、明度3である。腐植は少なく2~3%である。第1層と同じく浮石礫に富む場合が多い。構造は細塊状、または均質連結状で細小孔げきにすこぶる富む。一部地形的に地下水の集まる場所では酸化鉄の斑状集積がみられる。土性はL~SLである。PH(H<sub>2</sub>O)6.0前後、ち密度10~15で疎、下層との境界は直線明瞭である。

第3層は地表下30cm以深で腐植を欠く。土性は第2層と同じくSL~Lである。色は10YR明度6、彩度2である。一般に浮石礫にすこぶる富む、構造は連結状である。細小孔げきに富む。中孔げきもみられる。ち密度10~15で疎、透水性は良好であるが一部過湿地もみられる。

代表的断面形態

(畑)

(所在地) 虻田郡豊浦町大和(試坑y17)

第1層	0~15	腐植含む黄褐(10YR3/3)のL、発達程度弱の細粒状構造で細孔げきに富む。ガラス質浮石の腐朽小中円礫に含む。ち密度10で疎、PH(H <sub>2</sub> O)6.0、調査時の湿り湿、境界平坦判然。
第2層	15~25	腐植含む黄褐(7.5YR3/4)のSL、連結状で無構造、細小孔げきに富む。ガラス質浮石の腐朽小中円礫に含む。ち密度10で疎、PH(H <sub>2</sub> O)5.7、調査時の湿り湿、境界明瞭。
第3層	25~	腐植欠く黄褐(10YR6/2)のSL、無構造連結状、細小孔げきに富む。ガラス質浮石の腐朽小中大円礫にすこぶる富む。斑状斑紋に富む。ち密度15で疎、調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量重量%	粒 径 組 成 %				土 性	現地容積重 g	真比重
				粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			
I	0~15	3.37	10~20	16.3	46.0	27.7	10.0	L		
II	15~	3.16	10~20	23.2	42.0	23.6	11.2	SL		
層位	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %	P H		置換酸度	塩基置換容量 me/100g	置換 CaO	
					H <sub>2</sub> O	KCl	Y <sub>1</sub>			
I	2.29	0.24	9.5	4.0	6.1	5.2	0.4	18.0	12.2	
II	1.55	0.17	9.1	2.3	5.7	4.6	0.4	22.5	9.6	
層位	性塩基 me/100g		石灰飽和度 %	磷 酸 吸収係数	有効態磷酸 mg/100g					
	MgO	K <sub>2</sub> O								
I	1.4	0.5	68.2	1,045	30.6					
II	2.7	0.2	42.6	1,353	4.1					

A-2 他の土壌統との関係

本統は調査地域において全く独立した存在で場所によつては層分化のかなり異なる場合もある。

A-3 母 材 固結火成岩、非固結火成岩

A-4 堆積様式 一部崩積、扇状堆積

B 地 形 現河川の沖積面の一部と沖積面に続く斜面

C 気 候 年平均雨量 864 mm、年平均気温 8.3 °C

D 植生および利用状況

平坦地は耕地となつていて、豆類が栽培されている。

E 農業上の留意事項

有機物施用、表土流亡の防止、多礫にては除礫、地形的に過湿となるところは暗渠が必要である。

F 分 布

北海道虻田郡豊浦町大和、美和

調査および記載責任者 木 村 清 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡略分級式
大 和	III t d II g w f s e

② 土壌区別説明

大 和 統 - 大 和 区



示性分級式(畑)

土	壤	表	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵											
生	効	土	表	表	透	保	固	置	有	微	酸	有	增	地	自	傾	人	侵	耐			
産	土	土	私	土	土	然	土	換	効	微	酸	害	物	冠	地	傾	人	耐	耐			
力	層	の	の	の	の	潤	肥	石	苦	加	磷	害	物	冠	地	傾	人	耐	耐			
可	の	の	の	の	の	沃	力	灰	土	里	酸	害	物	冠	地	傾	人	耐	耐			
能	の	の	の	の	の	沃	力	灰	土	里	酸	害	物	冠	地	傾	人	耐	耐			
性	厚	深	難	性	性	沃	力	灰	土	里	酸	害	物	冠	地	傾	人	耐	耐			
等	さ	量	易	性	性	沃	力	灰	土	里	酸	害	物	冠	地	傾	人	耐	耐			
級	さ	量	易	性	性	沃	力	灰	土	里	酸	害	物	冠	地	傾	人	耐	耐			
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e											
	III	III	II	I	I	I	II	II	II	II	I	I	I	I	I	II	2	--	II	2	2	1
	簡略分級式 III t d II g w f n e																					

A 土壤区の特徴

この土壤区は大和統に属する。表土の厚さは一般に薄く有効土層も浅い。ガラス質腐朽浮石の量が下層にいくに従って多くなる。透水性は良好であるが地形的に斜面の浸透水があるところは過湿地となる場合がある。保肥力、固定力ともに中で自然肥沃度は中、置換性塩基含量も多く養分は豊である。傾斜の急なところは侵蝕をうける。

B 植生および利用状況

地形的に広い耕地はみられないが一般に豆類、アスパラガスが栽培されている。

C 地力保全上の問題点

この土壤区では表土が薄いの制限因子となつている。有機物を施用して深耕すること、透水性は良好であるが地形的に過湿となるところには集水渠、暗渠を行なうこと。表土流亡の防止を考慮して緑作帯の設置を行なうことが望ましい。

D 分布

北海道虻田郡豊浦町大和、美和

記載責任者 木 村 清 (北海道立中央農業試験場)  
年 月 日 昭和44年3月31日

高 岡 統

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20~25cmで腐植含量10~15%とすこぶる富む。土性はLiCが主で色は10YR、彩度2、明度2である。礫は一般に5~10cm大の安山岩半角腐朽礫に富むが、一部礫のみみられない地区もある。細粒状構造にすこぶる富む。細孔げきに富む。ち密度1.5で疎、透水性は良好。PH(H<sub>2</sub>O)5.3前後、下層との境界は平坦判然である。

第2層は第1層と同じ程度の腐植含量で土性はSiC~LiCと細粒質となる。色は10YR、彩度3、明度2~4である。礫は安山岩の中大腐朽半角礫に富む。塊状構造、細塊状構造で発達程度は中、細孔げきに富む。ち密度2.0前後で中、PH(H<sub>2</sub>O)5.2前後、下層との境界は平坦明瞭

である。

第3層は地表下約50cm以深の土層である。土性はSiCが主である。色は10YR、彩度6、明度4となる場合が多い。礫はなく均質連結状構造である。細小孔げきにすこぶる富み透水性は良好である。ち密度20前後で中、PH(H<sub>2</sub>O)5.3前後。

代表的断面形態

(畑)

(所在地) 虻田郡豊浦町高岡(試坑y17)

第1層	0~22	腐植に頗る富む黒色(10YR2/2)のLiC、礫なく発達程度強の細粒状構造、細孔げきに富む、ち密度15で疎、透水性良好、PH(H <sub>2</sub> O)5.3、調査時の湿り乾~半乾、境界平坦判然
第2層	22~35	腐植に富む黄褐(10YR2/3)のSiCL、礫なし。発達程度中の塊状、細塊状構造、細孔げきに富み中孔げきを含む。ち密度20で中、PH(H <sub>2</sub> O)5.2、調査時の湿り半乾、境界平坦漸変
第3層	35~55	腐植含む黄褐(10YR4/3)のSiCL。発達程度弱の塊状構造、細孔げきに富む、ち密度20で中、PH(H <sub>2</sub> O)5.2、調査時の湿り乾、境界平坦明瞭
第4層	55~	腐植欠く黄褐(10YR4/6)のSiC、無構造均質連結状、礫なし、細小孔げきに富む。ち密度18で中。粘着性中、調査時の湿り半乾、PH(H <sub>2</sub> O)5.3

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土 性	現地容積重 g	真比重
				粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			
I	0~22	7.66	0	7.6	22.0	42.3	28.1	LiC		1.89
II	22~55	10.27	0	8.7	6.5	65.7	19.1	SiCl		1.83
III	55~	6.82	0	5.5	9.3	55.8	29.4	SiC		—
層位	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %	P H		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換 CaO	
					H <sub>2</sub> O	KCl				
I	7.61	0.66	11.5	13.1	5.3	4.6	0.8	33.3	7.7	
II	5.65	0.51	11.1	9.7	5.2	4.6	1.6	36.9	2.1	
III	—	—	—	—	5.3	4.9	0.4	21.7	2.2	
層位	性塩基 me/100g		石灰飽和度 %	磷 酸 吸収係数	有効態磷酸 mg/100g					
	MgO	K <sub>2</sub> O								
I	1.3	0.7	23.1	2,341	tr					
II	1.9	5.2	5.6	3,303	tr					
III	1.2	0.3	10.1	2,752	tr					

A-2 他の土壌統との関係

本統と類似する統としては椈統があるが、腐植層が薄いこと、また表土が火山灰で特徴づけられること、礫がないことで本統と区別される。分布する地形についても椈統は平坦な台地土であり本統はほとんどが斜面であることでも区別される。

A-3 母 材 非固結火成岩、固結火成岩

A-4 堆積様式 残積、崩積

B 地形 標高200m前後の波状台地、傾斜面

C 気候 かなり海岸の影響を受けだすものと考えられる。

年平均雨量864mm、年平均気温8.3℃

D 植生および利用状況

一部2次林のまま、他ほとんど草地、豆類の栽培が行なわれている。沢の部分では水田もみられる。

E 農業上の留意事項

磷酸に欠乏していること、酸性が強いこと、表土流亡防止の保全耕作を行なうことに留意する必要がある。

F 分布

北海道虻田郡豊浦町高岡、桜の一部

調査および記載責任者 木 村 清 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
高 岡	Ⅲ f Ⅱ t d p n s e

② 土壌区別説明

高 岡 統 一 高 岡 区

示性分級式(畑)

土	表	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵													
生	効	土	転	表	表	地	透	保	固	土	置	有	微	酸	有	物	増	地	自	傾	人	侵	耐
産	土	土	土	土	土	土	透	然	層	分	換	"	"	効	性	理	冠	す	然	斜	為	水	風
力	の	の	の	の	の	の	水	水	潤	肥	塩	石	苦	加	磷	害	物	的	害	の	り	傾	蝕
可	の	の	の	の	の	の	水	水	潤	肥	塩	石	苦	加	磷	害	物	的	害	の	り	傾	蝕
能	の	の	の	の	の	の	水	水	潤	肥	塩	石	苦	加	磷	害	物	的	害	の	り	傾	蝕
性	厚	深	含	難	性	性	性	性	度	沃	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力
等	さ	量	易	さ	湿	度	度	否	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
級	t	d	g	p	w	f	n		i	a	s	e											
	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	—	Ⅱ	Ⅱ
簡略分級式	Ⅲ f Ⅱ t d p n s e																						

A 土壌区の特徴

この土壌区は高岡統に属する。表土の厚さは22cmで中、有効土層は60cmで中、表土の土性は細粒質であるが粘着性弱で農機具の使用はやや困難をとまなり。透水性は良好であるが保水性も良く乾ばつは受けない。固定力極大で土層の塩基状態も不良、酸性も強い。特殊な障害性なし。傾斜の急なところでは表土の流亡がみられる。

B 植生および利用状況

一部2次林のまま、他ほとんど耕地化されていて牧草畑、豆類の栽培が行なわれている。

C 地力保全上の問題点

この土壌区では他の統に比較して急傾斜地が多いので等高線栽培、緑作帯設置等保全耕作を行なうこと。磷酸に欠乏しているので磷酸資材を施用し、また酸性矯正を実施すること。多礫地では除礫することが望ましい。

D 分布

虻田郡豊浦町高岡と桜の一部

記載責任者 木 村 清 (北海道中央農業試験場)  
年 月 日 昭和44年3月31日

豊 泉 統

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15~20cmで腐植含量2~5%で土性はLiCが主であるが、L、CLのところもある。色は10YRで彩度3~4、明度3。安山岩の小円礫に富む、細塊状構造に富む。細孔げきに富みち密度1.5前後で疎である。透水性良好である。PH(H<sub>2</sub>O)5.4前後、下層へは平坦で明瞭または判然である。

第2層は表土下20cm以深で腐植はほとんど含まない。土性はLiC~CL、色は10YR、彩度4~6、明度4~5。安山岩の風化小中円礫を含む。均質連結状で細孔げきに富む、また、粘着性大で透水性不良である。PH(H<sub>2</sub>O)5.4前後。

代表的断面形態

(草地)

(所在地) 虻田郡豊浦町豊泉(試坑y 29)

第1層	0~22	腐植含む黄褐(10YR 3/4)のLiC、発達程度弱の塊状構造、細孔げき含む。粘着性大、ち密度1.9で中、PH(H <sub>2</sub> O)5.4。境界平坦明瞭、調査時の湿り乾。
第2層	22~	腐植欠く黄褐(10YR 4/4)のLiC、均質連結状で安山岩風化小中円、半角礫を含む。細孔げきに富む。粘着性大で透水性も不良、ち密度2.2で中、PH(H <sub>2</sub> O)4.8、調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量重量 %	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重
				粗砂	細砂	シルト	粘土			
I	0~22	4.53		16.0	22.2	34.4	27.4	LiC		2.01
II	22~	5.07		15.8	20.3	36.0	27.9	LiC		2.04

層位	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %	P H		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換 CaO
					H <sub>2</sub> O	KCl			
I	1.93	0.19	10.2	3.3	5.4	5.0	0.4	20.4	12.3
II	0.71	0.06	11.8	1.2	4.8	4.3	7.0	19.9	7.8

層位	性塩基 me/100g		石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	MgO	K <sub>2</sub> O			
I	1.7	0.7	60.3	1.049	8.8
II	2.9	0.6	39.2	1.369	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としてはボンベンベ統があるが、本統より腐植層が深いこと、含まれる礫の形状が角礫であること、土性が荒いことと本統と区別される。

A-3 母材 固結火成岩

A-4 堆積様式 崩積

B 地形 丘陵地斜面

C 気候 年平均雨量 864 mm、年平均気温 8.3 °C

D 植生および利用状況

草地としての利用が多くまた普通畑として豆類が栽培されている。

E 農業上の留意事項

作土層が浅いこと、酸性の強いこと、急斜面では表土が流亡することが留意事項となる。

F 分布

虻田郡豊浦町豊泉、大岸、メナ、礼文華の一部

調査および記載責任者 木村清 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
豊泉	III t II d g f n s e

② 土壌区別説明

豊泉統一豊泉区



代表的断面形態

(畑)

(所在地) 虻田郡豊浦町東雲(試坑y32)

第1層	0~15	腐植に富む黄褐(10YR2/3)のCL、発達程度中の粉状構造、風化小中半角礫含む。細孔げきに富む。ち密度7で疎。PH(H <sub>2</sub> O)6.1、調査時の湿り乾、境界平坦明瞭。
第2層	15~30	腐植含む黄褐(10YR4/4)のCL、発達程度中の粉状構造、風化小中半角礫を含む。細孔げきに富む。ち密度17で疎、透水性中、PH(H <sub>2</sub> O)5.7、境界平坦漸変。
第3層	30~	腐植欠く黄褐(10YR5/4)のCL、連結状構造で細孔げき含む。安山岩の風化巨礫含む、ち密度19で中、PH(H <sub>2</sub> O)5.5で調査時の湿り乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土 性	現地容積重 g	真比重
				粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			
I	0~15	3.69		18.9	34.0	31.7	15.4	CL		
II	15~30	3.91		13.6	19.5	42.9	24.0	CL		
III	30~	4.38		23.7	19.4	38.2	18.7	CL		

層位	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %	P H		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換 CaO
					H <sub>2</sub> O	KCl			
I	3.40	0.33	10.3	5.9	6.1	5.9	0.4	19.7	21.0
II	2.70	0.18	14.2	4.7	5.7	5.4	0.4	20.8	10.7
III	-	-	-	-	5.5	4.8	0.4	15.0	7.2

層位	性塩基 me/100g		石灰飽和度 %	磷 酸 吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	MgO	K <sub>2</sub> O			
I	2.5	1.2	102.5	1.052	55.8
II	1.4	0.5	51.3	1.427	1.3
III	1.9	0.3	48.4	1.091	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としては豊泉統があるが本統は土性が荒く腐植の量が多いこと、含まれる礫が角礫であることで区別される。

A-3 母材 固結火成岩

A-4 堆積様式 崩積土、残積土

B 地 形 海岸に面した斜面地

C 気 候 町内で最も気候のおだやかなところと考えられる。

年平均雨量863 mm、年平均気温 8.3℃

D 植生および利用状況

緩斜面はほとんど耕地として利用され主に豆類が栽培されている。

E 農業上の留意事項

有機物を施用して作土層を深めること。等高線栽培等保全耕作を行なうこと。

F 分布

北海道虻田郡豊浦町東雲

調査および記載責任者 木 村 清 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

(1) 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
ボンベンベ	II t d g s e

(2) 土壌区別説明

ボンベンベ統 - ボンベンベ区

示性分級式 (畑)

土 壤	表 有 表 耕	土	自	養	障	災	傾	侵	
生 効 土 土	(表 表 表 地)	(透 保 湿 然)	(保 固 土 層)	(置 換 性 基 状 量)	(有 微 酸 性 態 量)	(有 物 害 質 的 障 害 無 性)	(增 地 冠 す 水 べ の り 危 険 度)	(自 傾 人 斜 為 傾 方 斜 向 斜 度)	(侵 耐 水 風 蝕 蝕 性 性)
産 土 土 層	の の の 風 の 水 水 潤 肥 肥 定 塩 の 石 苦 加 磷	の の の 乾 性 性 度	の の の 基 状 量	の の の 灰 土 里 酸 要 含 量	の の の 素 度	の の の 障 害 無 性	の の の 危 険 度	の の の 斜 向 斜 度	の の の 蝕 蝕 性 性
力 の 可 能 性 等 級	の 礫 土 粘 乾 性 性 度	の 粘 乾 性 性 度	の 基 状 量	の 灰 土 里 酸 要 含 量	の 素 度	の 障 害 無 性	の 危 険 度	の 斜 向 斜 度	の 蝕 蝕 性 性
	厚 深 含 難 性 性 度	の 粘 乾 性 性 度	の 基 状 量	の 灰 土 里 酸 要 含 量	の 素 度	の 障 害 無 性	の 危 険 度	の 斜 向 斜 度	の 蝕 蝕 性 性
	さ さ 量 易	さ 湿 度	否			性 性	性 性	斜 斜	蝕
	t d g p	w	f	n		i	a	s	e
	II II II II	2 1 1	1 1 1	1 2 1	1 1 1 1 1 1	1 1 1	1 1	II 2 - -	II 2 2 1
	簡略分級式 II t d g s e								

A 土壌区の特徴

この土壌区はボンベンベ統に属する。表土は15cm内外で薄い。また有効土層も60cm位で中である。安山岩風化半角小中礫を含む。土性は中粒質で粘着性弱く農具の使用は容易である。保水性良好、透水性も良好である。保肥力大、固定力中で自然肥沃度高く置換性塩基の量も多く、養分は多い。特殊な障害性もない。傾斜地では表土流亡の恐れがある。

B 植生および利用状況

分布は少ないがほとんど耕地となつていて主に豆類の栽培が行なわれている。

C 地力保全上の問題点

この土壌区は作土が浅いので有機物を施用しながら漸次深耕を行なうこと。一部巨礫のあるところは除礫すること、保全耕作を行なうこと。

D 分布

虻田郡豊浦町東雲

記載責任者 木 村 清 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日



貫 気 別 川 統

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ25cm前後で腐植含量7~10%、土性はLが主である。礫は含まないが一部安山岩の小礫のみられることもある。色は10YR、彩度1~2、明度2~4である。粉状、粒状構造で発達程度は中~強である。粘着性小、透水性良好である。ち密度10前後で疎、PH(H<sub>2</sub>O)5.5前後、下層との境界は平坦漸変。

第2層は厚さ15~20cm、腐植含量7~10%、土性はLである。色は10YR、彩度2~3、明度2~4、発達程度中の細粒状構造、礫は腐朽浮石礫を含むことがある。ち密度18前後で中、透水性は良好である。PH(H<sub>2</sub>O)5.5前後、下層との境界は直線判然である。

第3層は20cm前後、腐植5%前後で土性はLが主である。発達程度中の細塊状構造、細孔げきに富む。ち密度15前後で疎、透水性大である。安山岩、浮石の腐朽中礫を含む。PH(H<sub>2</sub>O)5.5前後、下層との境界は平坦判然である。

第4層は地表下60cm以深で腐植を欠くL~Sの土性である。安山岩、浮石の腐朽中大礫を含み発達程度中の塊状構造である。色は10YR、明度4、彩度6である。細孔げきに富む。ち密度20前後で中。

代表的断面形態

(畑)

(所在地) 虻田郡豊浦町高岡(試坑y1)

第1層	0~24	腐植に富む黒(10YR 2/1)のL、発達程度中の粉状構造、細孔げきに富む。ち密度10で疎、透水性良好、PH(H <sub>2</sub> O)5.5、調査時の湿り半乾、境界平坦漸変。
第2層	24~42	腐植に富む黒(10YR 2/2)のL、発達程度中の細粒状構造、細孔げきに富む。ち密度18で中、PH(H <sub>2</sub> O)5.5、調査時の湿り半乾、下層との境界判然。
第3層	42~60	腐植に富む黄褐(10YR 2/3)のL、発達程度中の細塊状構造、細孔げきに富む。ち密度15で疎、透水性良好。PH(H <sub>2</sub> O)5.5、安山岩、浮石の腐朽中半角礫含む。層界平坦判然。
第4層	60~	腐植なしの黄褐(10YR 4/6)のL、安山岩、浮石の腐朽礫で中礫を含む。発達程度中の細塊状構造、細孔げきに富む。ち密度20で中。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土 性	現地容積重 $g$	真比重
				粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			
I	0~24	4.51		13.1	37.5	35.7	13.7	L		-
II	24~42	5.86		10.7	44.8	31.9	12.6	L		2.04
III	42~60	4.97		20.0	32.0	36.4	11.6	L		-

層位	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %	P H		置換酸度 $Y_1$	塩基置換容量 $me/100g$	置換 CaO
					H <sub>2</sub> O	KCl			
I	5.17	0.45	11.2	8.9	5.5	4.7	0.4	28.9	14.3
II	4.99	0.51	9.8	8.6	5.5	4.6	0.4	31.1	11.5
III	3.31	-	-	5.7	5.5	4.4	2.3	26.5	6.3

層位	性塩基 $me/100g$		石灰飽和度%	燐 酸 吸収係数	有効態燐酸 $mg/100g$
	MgO	K <sub>2</sub> O			
I	1.9	0.6	49.5	1,652	5.4
II	0.6	0.2	37.1	2,118	0.9
III	1.5	0.2	23.7	2,280	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統は豊浦町管内では最も肥沃な土壌である。堆積様式からは礼文華統があるが腐植含量が少なく、下層に砂礫層が出現することで本統とは区別されるものである。

A-3 母 材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 河成沖積

B 地 形

貫気別川に沿う沖積面、分布は少ない。

C 気 候

年平均雨量 864 mm、年平均気温 8.3 °C

D 植生および利用状況

本統すべて耕地となつていて豆類、アスパラ、ビート等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

肥沃な土壌であるが透水性が良好なため腐植の消耗もはげしいものと考えられるので有機物の施用が必用である。

F 分 布

北海道虻田郡豊浦町貫気別川流域一帯

調査および記載責任者 木 村 清 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日、

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
貫 気 別 川	Itdfa

② 土壌区別説明

貫気別川統一貫気別川区

示性分級式(畑)

土	壤	表	有	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵																	
生	効	土	(表	(表	(表	(透	(保	(固	(置	(有	(有	(增	(地	(自	(傾	(人	(侵	(耐											
産	土	土	耘	土	土	地	湿	然	層	換	"	"	効	害	物	冠	す	然	斜	為	水	風							
力	層	の	の	の	の	の	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	燐	要	害	質	的	害	の	り	傾	傾	為	水	風	
可	の	の	の	粘	乾	土	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	燐	要	害	質	的	害	の	り	傾	傾	為	水	風	
能	の	の	の	粘	乾	土	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	燐	要	害	質	的	害	の	り	傾	傾	為	水	風	
性	厚	深	含	難	性	性	乾	性	度	沃	力	力	態	豊	量	"	"	素	度	無	性	危	險	危	險	度	性	性	
等	級	さ	さ	量	易	さ	湿	度	否											性	性	斜	斜	斜	斜	度	性	性	
		t	d	g	p		w		f		n							i	a	s	e								
		II	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	II	2	I	1	1	1	1	1	1
		簡略分級式 II t d f a																											

A 土壌区の特徴

この土壌区は貫気別川統に属する。表土の厚さは20cm～25cmでかなり厚い。有効土層は60cm内外で中、表土に礫は含まないが下層には安山岩、浮石等の腐朽礫を含む。黒色の肥沃な土壌で透水性、保水性も良好である。また土性は中粒質で農具の使用は容易である。自然肥沃度は中、養分は高い、侵蝕はほとんどみられない。

B 植生および利用状況

ほとんど耕地となつていて主に豆类、アスパラ、ビートが栽培されている。一部苗圃としても利用されている。

C 地力保全上の問題点

一般に肥沃であるが透水性が良好なため養分の流亡もはげしいので有機物の施用を行なうこと。母林が火山灰質のため燐酸の固定力が大きいので溶燐の施用が必要である。酸性矯正を行なうこと。

D 分布

虻田郡豊浦町貫気別川流域

記載責任者 木 村 清 (北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和44年3月31日

大 岸 統

A 土壌区の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ10cm内外で腐植含量2%弱、土性はSがほとんどで一部海岸を離れるに従いLSになることもある。色は10YRで明度2～3、彩度2～3である。礫は含まない。単粒状構造、

ち密度 5 前後ではなはだ粗。PH (H<sub>2</sub>O) 5.0 以下、下層との境界は直線状で判然である。

第 2 層は 40 cm 内外、腐植含量 4 % 前後、土性は S、色は 10 YR で明度 2、彩度 3 である。単粒状構造、ち密度 10 前後で疎、PH (H<sub>2</sub>O) 4.5。下層との境界は直線明瞭。

第 3 層は 50 cm 以深で腐植欠く、土性 S である。色は 10 YR で明度、彩度ともに 4、ち密度 10 で疎、pH (H<sub>2</sub>O) 4.6。透水性良好である。

代表的断面形態

(畑)

(所在地) 虻田郡豊浦町大岸 (試坑 y 24)

第 1 層	0 ~ 7	腐植ありの黄褐 (10 YR 2/2) の S、単粒状構造、礫なし。ち密度 5 ではなはだ疎。粘着性なし、pH (H <sub>2</sub> O) 4.9。下層との境界平坦判然。調査時の湿り乾。
第 2 層	7 ~ 50	腐植含む黄褐 (10 YR 2/3) の S、単粒状構造、礫なし、ち密度 10 で疎、pH (H <sub>2</sub> O) 4.5、境界平坦明瞭。湿り乾。
第 3 層	50 ~	腐植なしの黄褐 (10 YR 4/4) の S、礫なし。単粒状構造、ち密度 10 で疎、透水性極大。pH (H <sub>2</sub> O) 4.6、湿り乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量重量 %	粒 径 組 成 %				土 性	現地容積重 g	真比重
				粗 砂	細 砂	シルト	粘 土			
I	0 ~ 7	1.47		83.5	9.1	4.3	3.1	S		
II	7 ~ 50	2.65		90.3	4.4	3.1	2.2	S		
III	50 ~	1.26		97.4	1.5	0.2	0.9	S		

層位	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %	p H		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換 CaO
					H <sub>2</sub> O	KCl			
I	1.09	0.09	12.1	1.9	4.9	4.1	3.9	9.6	1.7
II	2.30	0.11	20.9	4.0	4.5	4.3	3.1	11.9	1.1
III	—	—	—	—	4.6	4.5	0.8	4.3	0.3

層位	性塩基 me/100g		石灰飽和度 %	磷 酸 吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	MgO	K <sub>2</sub> O			
I	0.5	0.2	17.3	4.48	40.8
II	1.5	0.2	9.3	1.071	7.8
III	1.5	0.1	6.1	6.67	5.3

A-2 他の土壌統との関係

本統は海岸沿いの砂地の地区で調査地区内で特異な存在である。面積はごく小さい。

A-3 母 材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 沖積 (海岸砂)

B 地 形 海岸沿いの平坦地

C 気 候 年平均降水量 864 mm、年平均気温 8.3 °C

D 植生および利用状況

一部畑地として利用されているが自給用程度で企業性はうすい。一部水田。

E 農業上の留意事項

透水性が過良なので有機物の分解が旺盛である。有機物を補給すること。また同じく肥料の流亡がはげしいことから常に塩基補給を行なうこと、客土を考慮すること。

F 分布

北海道虻田郡豊浦町海岸一帯

調査および記載責任者 木 村 清 (北海道立中央農業試験場)  
年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
大 岸	Ⅲ t f n Ⅱ d (w) a

(2) 土壌区別説明

大 岸 統 - 大 岸 区

示性分級式(畑)

土	障	災	傾	侵
壤表有表耕	障	災	傾	侵
生効土土	有物	障	自傾人	侵耐耐
産土土	害理冠す	害障	然斜為	水風
力層の	害質的害	の障	の傾	蝕蝕
可の礫	有害無性	危險	斜斜	蝕蝕
能厚深含	性無性	度險	度斜斜	度性性
等	性性	性性	性性	性性
級	性性	性性	性性	性性
t d g p	w	f	n	i a s e
ⅢⅢⅡⅠⅠⅠⅠⅠⅡⅠⅠ(2)Ⅲ	2 1 3	Ⅲ 3 2 2 1 1 3	Ⅰ 1 1 Ⅱ 2 1	Ⅰ 1 1 - Ⅰ 1 1 1
簡略分級式	Ⅲ t f n Ⅱ d (w) a			

A 土壌区の特徴

この土壌区は大岸統に属する。表土は風で動かされるため一定していない。全層にわたって土性は砂土で極めて透水性がよい。そのため乾ばつを受ける恐れがある。酸性が強い。土層の塩基状態は悪く、置換性塩基の量も少ない。

B 植性および利用状況

利用可能なところは耕地になつているが、鉄道、道路、市街地のしめる割合が大きい。一部水田もみられる。

C 地力保全上の問題点

有機物の分解がはげしいので大量に補給すること、酸性が強いので石灰の投入を行なうこと、施用する肥料は遅効性のものを利用するべきである。

D 分布

虻田郡豊浦町海岸一帯

記載責任者 木 村 清 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

### 3 保全対策地区区分及び説明

#### 1) 保全対策地区の設定

(水田)

保全対策地区名	該当土壌区名	面積(㍔)	主 な 特 徴	重要な保全対策
財 田	財 田-財 田 ポロベツ川-ポロベツ川 礼文華-礼文華 岩 屋-岩 屋	247	通気、通水性良好な沖積土壌で土性がやや荒い。	透水性の良すぎる水田には粘土客土、有機物の施用、塩基補給
成 香	成 香-成 香 洞爺湖畔-洞爺湖畔 寺の沢-寺の沢	153	沢地、低地の過湿地でグライ土壌を呈する。	暗渠、明渠排水、水温上昇をはかること。
入江南	入江南-入江南	68	浮石質の平坦な地形であるが地下水が高いため湿田となつている。	暗渠排水、粘土客土、有機物の施用
小鉢岸川	小鉢岸川-小鉢岸川	36	黒泥、泥炭地	暗渠排水客土

(畑)

保全対策地区名	該当土壌区名	面積(㍔)	主 な 特 徴	重要な保全対策
月 浦	月 浦-月浦-1 " - " -2 花 和-花 和 ピリカベツ-ピリカベツ モイナイ-モイナイ 高 岡-高 岡 大 和-大 和 ポベツ-ポベツ 入 江-入 江 三 豊-三 豊 清 水-清 水 豊 泉-豊 泉	2,331	火山灰土壌で有機物に乏しい。また、土壌侵蝕のはげしいところでもある。作土は強酸性となつているため土壌改良を行う必要がある。	有機物の施用、保全耕作、塩基補給、土壌改良資材
山 梨	大 西 山-大 西 山 桜 一 桜 山 梨-山 梨 上 泉-上 泉	1,501	新しい火山灰が作土中に混和されていて磷酸固定力が大である。また、強酸性を呈する。急傾斜地が多い。	土壌改良資材によつて作土、心土の土層改良を行うこと。 保全耕作
香 川	香 川-香川-1 " 2 " 3	1,644	上層は有珠火山灰 U <sub>b</sub> 1 層、下層はロームからなる。作土下に盤層が存在する。	混層耕、酸土矯正、磷酸、各塩基の補給、有機物施用
貫気別川	貫気別川-貫気別川 大 原-大 原	113	腐植層もかなり厚い、透水性良好な沖積地である。	現在の地力維持のため有機物の施用。塩基補給を行うこと。
入江北	入江北-入江北 大 岸-大 岸	129	土性が荒く透水性極大の砂土。または浮石礫層からなる土壌である。	できるかぎり粘土客土を行うこと。有機物の施用、緩効性肥料の使用。

2) 保全対策地区説明

< 財田保全対策区 >

(1) 分 布

市 町 村 名	面 積 (ha)	該 当 土 壤 区
洞爺村、豊浦町	247	財田、ポロベツ川、礼文華、岩屋

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

この対策地区は、沖積壤質型で通気、通水性の良好な地帯を取まとめたものである。

したがって、粘土分の多い土壌の客土が必要で、保肥力の増大を計るとともに、保水性を改善する。また塩基の流亡が甚しいから、塩基の補給をすることと、特に易動性の窒素、加里については分施すると効果的である。

堆厩肥など有機物の補給を計るよう心がける必要がある。

(3) 地力保全対策

対策の種類	地策地及び対象面積 (ha)	実 施 方 法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備 考
粘土客土	財 田 ポ ロ ベ ツ 川 札 文 華 岩 屋 247ha	馬 搬	20m <sup>3</sup> /10a	
酸度矯正		完 全 混 和	pH(H <sub>2</sub> O)5.5になるよう矯正。炭カル、苦土石灰	
磷酸塩基の補給		苦土、加里、窒素、磷酸の施用	苦土石灰、硫酸加里、尿素、燐成燐肥	
分 施		幼穂形成期	硫酸アンモニア、硫酸加里 5~10Kg/10a 2~4Kg/10a	
堆 厩 肥		春期完全混和	1~25/10a	

< 成香保全対策区 >

(1) 分 布

市 町 村 名	面 積 (ha)	談 当 土 壤 区
洞爺村、豊浦町	153	成香、洞爺湖畔、寺の沢

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

沢地、低地などで、過湿地となり、通気、通水が不良なグライ土壌を取まとめたものである。暗渠などの排水が先決であるが、粘着性に乏しい壤質土壌なので、過排水とならぬよう、渠間、渠深には注意が必要である。また沢地にあつては、一時的増冠水の危険があるので、これらの停滞水を速かに除去し得る排水施設を必要とする。更に沼水など冷水を利用している場合は、上温施設を完備する必要がある。塩基の補給も大切である。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対策地及び対象面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備考
暗渠排水	香 沢 湖 畔 寺 洞 爺 湖 畔 153ha	軽度の暗渠排水を行う	素焼き土管、ハイゼロ ロックス 渠間15~20 m、渠深0.7~0.8m	過排水とならぬよう 調節施設を併置する
幹線明渠		沢地の一時的増冠水排除	—	
水温上昇		共同または単独	ため池、温水パイプ、 D.E.Dグリーンなど	
塩基の補給		石灰、苦土、加里、窒素の施用 窒素は一部幼穂形成期に分施する。	苦土石灰、硫酸加里、 尿素、硫酸	

< 入江南保全対策区 >

(1) 分布状況

市 町 村 名	面 積 (ha)	該 当 土 壤 区
虻田郡虻田町	68	入江南

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

本対策地区の特徴は浮石質の略々平担の湿地で地下水位が高い湿田である。従つて、明暗渠排水により地下水位を下げるのが大切である。また堆肥の導入や粘土客土をすることによつて地力の増進を図ることが必要である。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対策地及び対象面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備考
排水	入 江 南 68ha	明渠、暗渠排水	工事費の補助	
有機物補給		堆肥、稲わら施用、良質粘土を客土	家畜の増加	
客土				
防風		防風林	防風林の完備	

< 小鉢岸川保全対策区 >

(1) 分 布

市 町 村 名	面 積 (ha)	該 当 土 壤 区
虻田郡豊浦町	36	小鉢岸川

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

特徴と問題点

作土は客土層、次層は黒泥、第3層が木質の未分解泥炭となつている。排水をはかることが第1条件である。次に客土を実施すること。



営農の方向

本対策区の面積は少ないが隣接する対策区においても排水の要があるので地域的な対策工事が期待される。用排水の分離を行うこと。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対策地及び対象面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具等の種類、型式、数量等	備考
排水客土	小鉾岸川  3.6 ha	暗渠、明渠排水の実施  山土客土	素焼土管、塩化ビニールパイプ等  工事費の助成	

< 月浦保全対策区 >

(1) 分布状況

市町村名	面積 (ha)	該当土壌区
蛇田郡蛇田町	2,331	入江、清水、月浦1、2、泉
豊浦町		花和、高岡、ピリカベツ、ボンベンベ
洞爺町		豊泉、三豊、大和、モイナイ

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

本対策地区の特徴は火山灰土壌の傾斜地で土壌侵蝕の被害の大きい事である。従つて侵蝕の防止に努めること、すなわち等高線栽培、緑作帯設置による保全耕作が必要である。また有機物に乏しく堆肥や緑肥を施用することによつて地力の増進を図ることが大切である。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対策地及び対象面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具等の種類、型式、数量等	備考
侵蝕防止 有機物補給	入江、清水、月浦1 2、泉、花和、高岡 ピリカベツ、ボンベンベ、豊泉、三豊、 大和、モイナイ 2,331	等高線栽培 堆肥、緑肥施用、 塩基補給	緑作帯の設置、家畜の増加	

< 山梨保全対策区 >

(1) 分布

市町村名	面積 (ha)	該当土壌区
蛇田郡豊浦町	1,501	大西山、桜、山梨、上泉

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

作土は混和されているものの新しい火山灰が存在しているため、また下層土は古いロームや腐朽した浮石が多いためいずれも炭酸吸収係数が大きい。特に心土においては有効態炭酸は極少である。また同時に酸性が強くなっているためこの矯正も必要である。

また傾斜地においては土壌保全のため等高線畦や牧草線による斜面の帯状分割を行うことが望ましい。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対策地及び対象面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備考
土壌改良資材による土層改良	大西山 桜山梨 上泉 1501 ha	燐酸、石灰、苦土、加里を土壌改良資材として施用	熔燐、珪カル、炭カル等の施用の指導	
有機物施用		緑肥、堆肥	指導	
保全耕作		等高線畦 牧草線による帯状分割 草地への転換	指導	

< 香川保全対策区 >

(1) 分布

市町村名	面積 (ha)	該当土壌区
洞爺村、豊浦町、虻田町	1,644	香川-1 香川-2 香川-3

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

上層はu-b1、下層が羊蹄ロームの乾性型地帯を取まとめたものである。通気、通水性の良好な粘着性に乏しい壤質土壌であるため。塩基および腐植の流亡が甚しい。従つて酸性も比較的強くなつており、酸度矯正、堆肥の施用、塩基の補給が大切である。また有効態燐酸も乏しいから増施が必要であらう。つぎにu-b1が40~50cm以上堆積している地帯では、耕土直下が盤層化しているから、下層の比較的肥沃な埋没腐植土の利用もかねて混層耕をすると効果的である。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対策地及び対象面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備考
塩基の補給	香川-1	石灰、苦土、加里、窒素の施用	苦土石灰、硫酸加里 尿素	
燐酸の補給	" - 2	燐酸の施用	熔成燐肥 過燐酸石灰	
堆肥の施用	" - 3	完全混和	1~2 t / 10 a	
酸度矯正	1,644 (ha)	完全混和	PH (H <sub>2</sub> O) 6.5 になるよう矯正 炭カル、苦土石灰	
混層耕		耕深 65~85cm	混層耕用円盤ブラウ	

< 貫気別川保全対策区 >

(1) 分 布

市 町 村 名	面 積 (ha)	該 当 土 壤 区
虻田郡豊浦町、洞爺村	113	貫気別川、大原

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

これらの土壌区はいずれも腐植層が厚く透水性も良好な肥沃な土壌の分布するところであるが、透水性の良好なことは有機物の分解の早いことと塩基の流亡の激しいことにもつながる。そのため現在の地力維持のため有機物の施用と各塩基の補給が必要とされる。地形的にも平坦なところであるからこの2点は必ず行なわなければならない。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対策地及び対象面積 (ha)	実 施 方 法	対 策 資 材 及 び 機 械 器 具 等 の 種 類 、 型 式 、 数 量 等	備 考
有機物施用	貫気別川 大 原  113ha	堆肥、緑肥	指 導	
塩基補給			指 導	

< 入江北保全対策区 >

(1) 分 布

市 町 村 名	面 積 (ha)	該 当 土 壤 区
虻田郡虻田町、豊浦町	129	入江北、大岸

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

この土壌区において、入江北では作土下に浮石層が、また大岸に於ては全層砂土で透水性が良すぎる事が問題となる。土性からみても粘土分に欠けるので粘土客土と有機物の増施、また各塩基溶脱がはげしいので持続性のある施肥法をとることが大切である。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対策地及び対象面積 (ha)	実 施 方 法	対 策 資 材 及 び 機 械 器 具 等 の 種 類 、 型 式 、 数 量 等	備 考
客 土	入 江 北 大 岸  129ha		共 同 化	
有機物施用		緑肥すきこみ		
施肥合理化		持続性のある形態で行う	緩効性窒素肥料の併用等	

2) 土壤分析成績(水田)

保 全 对 策 区	土 地 点 番 号	層 深 cm	理 学 性														
			礫 (風乾物中) % 風乾細土中	細土無機物中					土 性	現地における理学性 100CC 容中					H <sub>2</sub> O		
				水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %		シ ル ト %	粘 土 %	容 積 重 g	固 相 容 積 CC	水 分 容 積 CC		空 気 容 積 CC	孔 隙 率 %
財 田	t 27	1	0~16	3.6	5.8	17.1	51.9	69.0	18.9	12.1	SL	103.3	40.4	52.2	7.4	59.6	4.3
		2	16~25	3.6	4.6	9.6	57.8	67.4	21.0	11.6	SL	-	-	-	-	-	5.0
		3	25~40	4.0	-	6.2	67.7	73.9	16.4	9.7	SL	87.3	31.5	36.6	31.9	68.5	5.2
		4	40~78	2.4	-	24.1	46.5	70.6	24.1	5.3	SL	-	-	-	-	-	5.6
		5	78~100	4.8	5.1	11.4	45.6	57.0	25.3	17.7	CL	-	-	-	-	-	5.6
	t 26	1	0~13	2.4	4.6	12.8	67.4	80.2	13.4	6.4	SL	111.1	43.3	51.9	4.8	56.7	4.8
		2	13~25	2.4	4.9	13.1	65.0	78.1	14.0	7.9	SL	-	-	-	-	-	4.7
		3	25~55	2.3	-	24.3	45.7	70.0	24.0	6.0	SL	175.6	64.2	30.4	5.4	35.8	5.7
		4	55~65	6.0	6.5	1.4	38.1	39.5	32.3	28.2	LiC	-	-	-	-	-	5.6
		5	65~	5.9	3.0	1.5	44.4	45.9	31.4	22.7	CL	-	-	-	-	-	5.6
ポ ロ ベ シ 川	t 14	1	0~18	3.5	5.2	20.4	47.5	67.9	18.8	13.3	SL	98.9	38.8	54.9	6.3	61.2	4.4
		2	18~36	2.1	-	26.3	47.7	74.0	20.5	5.5	SL	150.1	2.7	55.9	38.1	44.1	5.1
		3	36~48	5.3	5.0	17.7	42.5	60.2	22.6	17.2	CL	-	-	-	-	-	5.4
		4	48~86	4.4	-	54.6	31.2	85.8	6.4	7.8	LS	-	-	-	-	-	5.4
礼 文 田 華	y 50	1	0~22	5.2	4.4	8.3	41.6	49.9	30.6	19.5	CL	-	-	-	-	-	5.2
		2	22~43	3.7	1.6	19.8	58.2	78.0	17.7	4.3	SL	-	-	-	-	-	5.6
	y 23	1	0~17	4.6	3.6	33.7	33.4	67.1	21.9	11.0	SL	-	-	-	-	-	5.1
		2	17~24	3.4	0.7	86.3	9.6	95.9	3.9	0.2	S	-	-	-	-	-	5.5
		3	24~35	4.2	-	45.8	23.5	69.3	23.1	7.6	SL	-	-	-	-	-	5.6
	y 27	1	0~17	4.6	3.7	14.9	40.8	55.7	27.2	17.1	CL	-	-	-	-	-	5.2
		2	17~35	4.5	4.1	16.0	40.1	56.1	26.8	17.1	CL	-	-	-	-	-	5.4
3		35~50	4.6	-	38.0	31.7	69.7	18.9	11.4	SL	-	-	-	-	-	5.5	
岩 屋	t 23	1	0~20	2.8	4.7	22.0	44.2	66.2	20.7	13.1	SL	121.2	47.6	49.8	2.6	52.4	4.6
		2	20~26	2.6	4.6	21.1	52.9	74.0	16.9	9.1	SL	-	-	-	-	-	5.2
		3	26~57	2.3	-	30.4	43.0	73.4	20.7	5.9	SL	127.0	47.5	30.5	22.0	52.5	5.5
		4	57~64	6.3	6.3	8.8	26.0	34.8	36.6	28.6	LiC	-	-	-	-	-	5.7

化 学 性																
pH	置 換 酸 度 Y <sub>1</sub>	有 機 物			塩 基 置 換 要 量 me/ 100g	置 換 性 塩 基 mg/100g			塩 基 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 數	乾 土 効 果	30℃ NH <sub>4</sub> <sup>-</sup> N 發 生 量		有 効 態		遊 離 酸 化 鐵 %
		T-C %	T-N %	C/N		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O				乾 土	湿 土	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	N	
3.8	16.6	1.72	0.20	9.0	18.6	216	23	4	47.8	808	3.5	3.5	tr	1.4	-	1.7
4.2	2.7	3.35	0.16	21.0	20.8	405	46	9	81.7	983	1.4	1.4	tr	2.0	-	2.6
4.3	1.9	-	-	-	23.7	485	61	15	86.9	990	-	-	-	1.7	-	-
4.3	1.3	-	-	-	15.4	328	34	18	89.6	705	-	-	-	3.1	-	-
4.7	1.3	2.70	0.23	12.0	28.0	657	92	17	101.4	1,150	-	-	-	1.4	-	-
4.1	4.3	2.65	0.13	20.0	13.7	216	21	9	64.9	779	0.5	0.5	tr	4.9	-	1.9
4.1	4.6	2.85	0.14	20.0	13.8	218	15	5	63.0	685	0.3	0.3	tr	7.7	-	1.5
4.4	0.5	-	-	-	14.9	301	66	11	95.3	628	-	-	-	1.7	-	-
4.9	0.5	3.75	0.31	12.0	37.4	912	95	21	101.1	1,365	-	-	-	tr	-	-
4.7	1.3	1.72	0.13	13.0	32.6	756	123	24	103.1	1,344	-	-	-	0.6	-	-
3.9	14.7	3.00	0.18	17.0	18.3	221	41	6	54.7	640	1.2	1.7	0.5	4.6	-	2.1
4.2	4.3	-	-	-	14.1	272	16	13	76.6	895	1.2	1.2	tr	2.0	-	1.7
4.6	0.5	2.90	0.18	16.0	28.7	684	58	18	96.5	1,119	-	-	-	0.6	-	-
4.5	0.8	-	-	-	24.5	579	67	17	99.6	1,011	-	-	-	tr	-	-
4.3	3.3	2.58	0.19	13.0	26.5	382	82	19	68.4	1,434	-	7.3	-	10.8	-	2.8
4.7	0.7	0.93	0.07	13.3	21.5	355	57	26	74.7	1,453	-	1.1	-	6.7	-	2.4
4.6	3.1	2.10	0.24	8.8	24.5	353	44	18	51.5	1,101	-	-	-	5.0	-	-
4.7	0.8	0.41	0.05	8.2	17.7	276	62	20	55.7	1,155	-	-	-	12.2	-	-
4.9	0.4	-	-	-	23.1	461	68	22	62.0	1,368	-	-	-	9.6	-	-
4.7	0.4	2.13	0.25	8.5	29.4	523	62	46	63.5	1,541	-	-	-	5.9	-	-
4.7	0.4	2.36	0.26	9.1	29.6	544	72	18	65.6	1,502	-	-	-	1.3	-	-
4.9	0.4	-	-	-	26.7	514	81	8	68.7	1,262	-	-	-	5.3	-	-
4.1	8.6	2.75	0.17	16.0	15.8	241	8	4	57.6	865	3.3	3.5	0.2	9.5	-	2.0
4.5	1.1	2.65	0.13	20.0	16.1	347	6	5	79.5	725	0.7	0.7	tr	2.0	-	1.9
4.5	1.3	-	-	-	15.0	346	12	12	88.7	693	-	-	-	1.7	-	-
5.0	0.5	3.65	0.30	12.0	36.5	922	106	23	105.7	1,310	-	-	-	1.4	-	-

保 全 对 策 区	土 地 点 番 号	地 層 位	深 さ cm	理 学 性														
				礫 (風 乾 物 中) %	風 乾 土 中		細 土 無 機 物 中					土 性	現 地 に お け る 理 学 性 1 0 0 C C 容 中					H <sub>2</sub> O
					水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シ ル ト %	粘 土 %		容 積 重 g	固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc	空 気 容 積 cc	孔 隙 率 %	
		5	64~80	7.4	-	20.3	30.6	50.9	24.6	24.5	CL	-	-	-	-	-	5.8	
成 香 洞 爺 湖 畔 寺 の 沢	t 37	1	0~20	3.5	4.6	-	-	-	-	-	-	89.0	-	-	-	-	5.9	
		2	20~64	1.6	1.3	-	-	-	-	-	-	121.0	-	-	-	-	6.3	
		t 13	1	0~16	2.4	5.3	25.7	46.9	72.6	19.0	8.4	SL	115.4	43.1	54.0	2.9	56.9	5.2
		2	16~30	2.4	-	19.8	50.6	70.4	21.7	7.9	SL	169.5	61.9	35.3	2.8	38.1	5.8	
		3	30~45	4.8	6.5	10.7	40.4	51.1	27.3	21.6	CL	-	-	-	-	-	5.1	
		4	45~58	4.7	-	19.1	37.1	56.2	24.3	19.5	CL	-	-	-	-	-	5.0	
	y 54	1	0~15	5.4	7.5	7.2	21.5	28.7	42.3	29.0	LiC	-	-	-	-	-	4.9	
		2	15~	5.6	8.0	2.9	20.6	23.5	48.0	28.5	SiC	-	-	-	-	-	4.8	
	y 58	1	0~13	5.4	6.8	5.1	17.9	23.0	43.2	33.8	LiC	-	-	-	-	-	4.9	
		2	13~20	6.6	4.9	7.1	20.3	27.4	39.5	33.1	LiC	-	-	-	-	-	5.2	
	3	20~70	5.7	4.7	6.0	12.7	18.7	43.8	37.5	LiC	-	-	-	-	-	5.5		
入 江 南	a 5	1	0~20	1.7	2.1	55.2	20.4	75.6	16.3	8.1	SL	114.4	42.1	43.4	14.5	57.9	6.0	
		2	20~47	3.0	-	1.1	21.1	22.2	55.0	22.8	SiCL	-	-	-	-	-	6.3	
		3	47~	1.2	-	59.9	25.0	84.9	9.7	5.4	SL	-	-	-	-	-	6.2	
小 銚 岸 川	y 57	1	0~13	4.4	9.8	27.7	30.9	58.6	24.0	17.4	CL	-	-	-	-	-	5.0	
		2	13~40	11.7	12.5	2.3	14.9	17.2	39.8	43.0	LiC	-	-	-	-	-	5.0	

化 学 性																
pH	置 換 酸 度 Y <sub>1</sub>	有 機 物			塩 基 置 換 容 量 me/100g	置 換 性 塩 基 mg/100g			塩 基 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 數	乾 土 効 果	30℃ NH <sub>4</sub> <sup>+</sup> -N 発 生 量		有 効 態 mg/100g		遊 離 酸 化 鉄 %
		T-C %	T-N %	C/N		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O				乾 土	湿 土	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	N	
5.0	0.5	-	-	-	37.8	932	106	23	131.2	1.473	-	-	-	tr	-	-
4.4	6.0	2.65	0.21	12.6	17.2	247	48	-	70.3	693	-	-	-	-	-	-
4.5	4.0	0.73	0.04	18.2	13.6	219	61	-	88.2	485	-	-	-	-	-	-
4.6	1.1	3.05	0.18	17.0	14.1	289	11	5	77.3	685	0.2	0.2	tr	11.8	-	1.7
4.6	0.8	-	-	-	15.2	345	86	14	111.2	648	0.5	0.5	tr	1.2	-	1.9
4.3	1.3	3.80	0.28	14.0	26.0	513	85	25	88.5	1,023	-	-	-	1.4	-	-
4.1	2.1	-	-	-	27.7	479	150	30	90.6	1,045	-	-	-	1.7	-	-
4.3	4.2	4.33	0.30	14.4	26.3	268	61	9	488	1,670	-	2.22	-	7.6	-	3.0
4.3	6.8	4.66	0.34	13.7	27.9	256	80	6	47.6	1,752	-	20.1	-	8.5	-	4.3
4.2	7.3	3.96	0.26	15.2	98.9	1,077	271	32	53.2	1,635	-	16.6	-	11.0	-	3.4
4.6	1.3	2.83	0.21	12.9	32.1	609	114	14	86.6	1,678	-	9.0	-	6.2	-	3.8
4.7	0.7	2.75	-	-	31.9	479	151	21	78.5	1,864	-	-	-	4.5	-	-
5.3	1.1	1.21	0.13	9.3	14.8	308	60	12	89.9	690	-	2.0	-	3.5	-	-
5.2	0.8	-	-	-	25.8	570	102	22	100.0	1,207	-	0.5	-	tr	-	-
5.4	0.5	-	-	-	10.7	208	48	12	94.4	542	-	-	-	1.7	-	-
4.5	2.1	5.70	0.74	7.7	29.0	313	34	9	45.1	1,181	-	25.9	-	16.1	-	2.1
4.4	1.3	7.24	2.92	2.5	58.2	411	45	7	29.4	2,533	-	7.26	-	2.5	-	3.4

土 壤 分 析 成 績 ( 畑 )

保 全 策 区	土 壤 区 号	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学 性											
					礫 (風乾物中) %	風乾細土中		細土無機物中					土 性	現地における 100 cc		
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シ ル ト %	粘 土 %		容 積 重 g	固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc
月 浦	a18	1	0~24		2.0	1.6	14.1	5.6	69.7	2.16	8.7	SL	122.8	4.12	32.5	
		2	24~78		2.3	0.1	11.6	6.0	71.6	2.12	7.2	SL	127.8	4.54	32.9	
		3	78~		8.8	3.3	20.5	4.06	61.1	28.3	10.6	L	-	-	-	
	a17	1	0~9		2.1	-	12.9	5.39	66.8	2.60	7.1	SL	105.7	3.79	27.6	
		2	9~		2.0	-	8.8	6.01	68.9	2.33	7.8	SL	126.0	4.89	29.8	
	t19	1	0~20		2.7	1.3	18.2	5.06	68.8	1.97	11.5	SL	-	-	-	
		2	20~34		2.4	-	22.8	4.81	70.9	2.08	8.3	SL	-	-	-	
		3	34~55		3.5	1.5	18.3	3.46	52.9	28.9	18.2	CL	89.9	3.35	38.9	
		4	55~75		5.6	2.0	25.7	2.76	53.3	28.8	17.9	CL	99.7	3.66	43.5	
		5	75~90		5.7	-	20.2	3.13	51.5	30.0	18.5	CL	-	-	-	
	t18	1	0~17		3.6	5.0	19.5	5.08	70.3	2.35	6.2	SL	-	-	-	
		2	17~31		2.1	-	17.7	5.44	72.1	1.99	8.0	SL	-	-	-	
		3	31~49		3.9	4.6	28.3	1.96	47.9	3.38	18.3	L	-	-	-	
	t22	1	0~23		1.7	5.6	21.2	4.64	67.6	2.49	7.5	SL	-	-	-	
		2	23~49		1.5	-	20.4	3.84	58.8	3.13	9.9	L	-	-	-	
3		49~70		3.7	5.1	28.6	2.99	58.5	2.69	14.6	L	-	-	-		
花 和	a 8	1	0~11		2.4	2.7	18.3	5.06	68.9	2.22	8.9	SL	125.3	4.63	38.2	
		2	11~54		1.6	0.4	10.3	5.79	68.2	2.23	9.5	SL	148.6	5.43	35.2	
		3	54~		4.2	4.9	9.3	2.36	32.9	3.95	27.6	LiC	7.89	3.04	48.4	
ピベ リカ ツ	t24	1	0~15		1.6	2.7	28.5	4.29	71.4	2.09	7.7	SL	114.6	4.15	31.6	
		2	15~51		3.1	-	30.1	2.97	59.8	2.35	16.7	SL	-	-	-	
モ イ ナ イ	t25	1	0~15		2.1	2.0	20.4	4.95	69.9	2.42	5.9	SL	114.0	4.15	31.2	
		2	15~34		1.0	0.4	25.1	4.68	71.9	2.15	6.6	SL	-	-	-	
		3	34~54		1.6	-	27.7	4.38	71.5	2.26	5.9	SL	-	-	-	
		4	54~		3.9	-	16.3	3.50	51.3	2.23	26.4	LiC	-	-	-	
高 岡	y13	1	0~22		7.7	13.1	7.6	2.20	29.6	4.23	28.1	LiC	-	-	-	
		2	22~55		10.3	9.7	8.7	6.5	15.2	6.57	19.1	SiCL	-	-	-	
		3	55~		6.8	-	5.5	9.3	14.8	5.58	29.4	SiC	-	-	-	
	y14	1	0~20		4.0	10.0	18.0	2.96	47.6	3.27	19.7	CL	-	-	-	
		2	20~40		9.0	18.3	19.7	1.32	32.9	4.12	25.9	LiC	-	-	-	
		3	40~55		6.2	-	24.0	1.18	35.8	4.42	20.0	CL	-	-	-	
y19	1	0~18		4.5	8.2	13.7	1.56	29.3	4.67	2.40	SiCL	-	-	-		
	2	18~25		5.3	5.2	17.2	2.42	41.4	3.67	2.19	CL	-	-	-		



理学性 容中		化 学 性												
		P H		置 換 酸 度 Y <sub>1</sub>	有 機 物			塩 基 置 換 容 量 me/ 100g	置換性塩基mg/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	有 効 態 磷 酸 mg/ 100g
		H <sub>2</sub> O	KCl		T-C %	T-N %	C/N		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
2.6.3	58.8	6.4	5.9	0.8	0.9.3	0.1.0	9.3	18.2	5.0.9	1.2	4.9	9.9.4	7.3.5	1.0.7
2.1.7	5.4.6	5.3	4.4	1.1	0.0.6	0.0.1	6.0	17.1	3.4.9	2.6	3.3	7.3.1	7.5.8	7.3
-	-	6.1	4.3	1.1	1.9.1	0.1.9	10.0	3.6.3	3.8.2	6.2	1.2	3.7.5	2.0.0.2	0.7
3.4.5	6.2.1	5.4	4.3	1.3	-	-	-	17.3	3.1.8	3.5	4.3	6.5.9	6.7.0	1.5.3
2.1.3	5.1.1	6.1	4.6	0.8	-	-	-	1.5.9	3.3.5	4.7	2.9	7.5.5	7.2.5	7.8
-	-	4.9	4.0	2.7	0.8.1	0.1.2	7.0	1.7.3	3.3.1	8	3.9	6.8.2	7.7.0	-
-	-	5.7	4.5	1.1	-	-	-	1.4.7	3.6.3	8	3.1	8.7.8	6.3.7	7.2
2.7.6	6.6.5	5.8	4.9	1.1	0.9.4	0.1.1	9.0	1.7.9	3.6.6	1.2	3.6	7.2.6	8.7.0	1.2
1.9.9	6.3.4	5.8	4.9	1.1	1.2.8	0.1.1	12.0	2.4.2	5.5.9	3.5	5.2	8.2.2	1.1.2.0	0.8
-	-	5.9	4.8	1.1	-	-	-	2.2.9	5.1.0	3.2	6.6	7.9.5	1.3.0.2	1.3
-	-	5.6	4.8	0.5	2.9.0	0.1.4	2.1.0	1.7.5	3.9.9	2.2	4.2	8.1.1	6.2.6	9.8
-	-	6.0	4.9	0.5	-	-	-	1.3.7	3.5.3	1.8	1.5	9.2.0	4.7.0	1.0.4
-	-	6.0	5.1	0.5	2.6.5	0.1.3	2.0.0	1.8.4	4.5.9	1.8	1.9	8.8.6	1.0.0.5	1.4
-	-	5.0	4.6	0.8	3.2.5	0.1.7	1.9.0	1.7.3	3.8.2	2.0	5.6	7.8.6	7.8.8	5.0
-	-	5.6	4.7	0.5	-	-	-	1.5.7	3.9.0	2.8	3.8	8.8.5	7.5.7	1.1.0
-	-	5.7	5.2	0.5	2.9.5	0.1.5	2.0.0	2.2.3	5.3.7	8	3.1	8.6.1	9.3.0	0.9
1.5.5	5.3.7	5.1	4.3	1.6	1.5.7	0.1.7	9.2	1.8.3	2.3.4	2.5	3.1	4.5.4	1.0.0.4	6.9
1.0.5	4.5.7	5.8	4.2	1.3	0.2.3	0.0.4	5.7	1.7.5	3.5.9	4.0	2.0	7.3.1	8.7.0	7.3
2.1.2	6.9.6	5.5	4.8	1.1	2.8.4	0.3.4	8.3	3.1.6	5.5.4	6.1	2.8	6.2.7	1.3.3.4	0.8
2.6.9	5.8.5	5.2	4.5	1.6	1.7.3	0.1.5	1.2.0	1.7.5	3.3.8	1.8	4.0	6.9.1	7.7.0	1.5.1
-	-	5.7	4.8	0.5	-	-	-	3.0.4	7.4.0	1.1.6	1.2	8.6.8	1.2.2.5	0.8
2.7.3	5.8.5	5.7	4.8	0.5	1.2.2	0.1.3	9.0	1.9.2	4.4.1	1.3	9	8.1.8	7.7.7	1.4.4
-	-	5.8	4.5	0.8	0.2.7	0.0.4	7.0	1.5.1	3.7.1	1.9	1.8	8.7.4	6.9.0	1.1.1
-	-	6.0	4.6	0.5	-	-	-	1.4.4	3.5.6	4.6	2.3	8.8.2	6.8.0	1.9.4
-	-	5.9	5.2	1.1	5.4.5	0.4.3	1.2.7	2.8.2	6.8.6	1.0.6	2.6	8.8.8	1.3.7.5	1.1
-	-	5.3	4.6	0.8	7.6.1	0.6.6	1.1.5	3.3.3	2.1.5	2.7	3.4	2.3.1	2.3.4.1	tr
-	-	5.2	4.6	1.6	5.6.5	0.5.1	1.1.1	3.6.9	5.8	3.8	2.5	5.6	3.3.0.3	tr
-	-	5.3	4.9	0.4	-	-	-	2.1.7	6.1	2.3	1.2	1.0.1	2.7.5.2	tr
-	-	5.7	4.9	0.4	5.7.8	0.5.0	1.1.6	2.2.1	3.7.7	1.6	2.4	6.1.0	1.5.9.9	3.3
-	-	5.2	4.2	8.6	10.5.5	0.5.9	1.7.9	4.7.8	1.4.5	1.1	1.4	1.0.9	2.8.9.5	tr
-	-	5.3	4.3	5.5	-	-	-	2.6.6	7.6	1.2	2.0	1.0.3	2.5.0.0	tr
-	-	5.3	4.7	2.3	4.7.8	0.3.2	1.4.9	2.7.2	1.6.6	3.3	1.2	2.1.8	2.0.9.7	3.4
-	-	5.3	4.5	3.1	2.9.9	0.2.4	1.2.5	2.4.4	2.0.0	2.2	1.2	2.9.2	1.8.2.2	0.8

保全対策区	土壌区	地点番号	層位	深さ cm	理 学 性											
					礫 (風乾物中) %	風乾細土中		細土無機物中					土性	現地における 100cc		
						水分%	腐植%	粗砂%	細砂%	砂合計%	シルト%	粘土%		容積重g	固相容積cc	水分容積cc
月	高岡	y19	3	25~40		6.8	7.9	21.5	9.8	31.3	49.0	19.7	SiCL	-	-	-
			4	40~		5.9	-	26.5	12.1	38.6	39.7	21.7	CL	-	-	-
	大和	y17	1	0~15		3.4	4.0	16.3	46.0	62.3	27.7	10.0	L	-	-	-
			2	15~		3.2	2.3	23.2	42.0	65.2	23.6	11.2	SL	-	-	-
	ボンベンベ	y32	1	0~15		4.0	5.9	18.9	34.0	52.9	31.7	15.4	CL	-	-	-
			2	15~30		3.9	4.7	13.6	19.5	33.1	42.9	24.0	CL	-	-	-
			3	30~		4.4	-	23.7	19.4	43.1	38.2	18.7	CL	-	-	-
		y31	1	0~18		4.2	6.1	18.2	34.8	53.1	31.3	15.6	CL	-	-	-
			2	18~30		4.0	2.2	21.7	17.0	38.7	44.3	17.0	CL	-	-	-
			3	30~		5.1	-	23.0	21.7	44.7	38.1	17.2	CL	-	-	-
	入江	a1	1	0~5		1.8	7.4	56.1	24.4	80.5	14.8	4.7	SL	109.5	42.9	38.6
			2	5~18		1.2	2.4	65.7	23.6	89.3	8.4	2.3	LS	-	-	-
3			18~33		0.5	0.7	65.8	29.4	95.2	4.0	0.8	S	-	-	-	
三豊	a13	1	0~19		1.3	1.9	16.5	49.4	65.9	25.2	8.9	SL	91.8	34.9	30.9	
		2	19~70		1.4	0.2	9.7	54.9	64.6	28.3	7.1	L	133.5	47.2	38.4	
		3	70~80		7.6	8.5	6.8	33.6	40.4	47.1	12.5	SiL	-	-	-	
		4	80~96		10.6	10.3	10.8	30.6	41.4	49.9	8.7	SiL	-	-	-	
泉	a2	1	0~20		1.8	1.4	20.9	42.1	63.0	27.7	9.3	L	117.3	41.9	32.1	
		2	20~70		1.5	-	27.3	43.3	70.6	21.1	8.3	SL	130.1	46.1	31.7	
		3	70~85		0.8	-	44.9	30.8	75.7	21.9	2.4	SL	133.2	50.6	33.7	
浦水	a15	1	0~22		1.4	3.3	22.8	38.0	60.8	27.8	11.4	L	105.6	37.8	33.8	
		2	22~29		1.3	0.6	7.8	49.3	57.1	32.6	10.3	L	124.3	45.2	35.5	
	a14	1	0~16		1.8	3.1	12.6	49.9	62.5	28.3	9.2	L	100.3	34.3	36.9	
		2	16~19		1.0	1.1	13.9	54.8	68.7	23.7	7.6	SL	-	-	-	
	t36	1	0~25		2.6	4.5	19.3	46.3	65.6	25.7	8.7	SL	102.1	39.0	39.8	
		2	25~47		6.4	6.4	10.2	47.8	58.0	35.6	6.4	L	-	-	-	
3		47~		8.3	-	13.0	25.9	38.9	49.3	11.8	SiL	-	-	-		
豊	y29	1	0~22		4.5	3.3	16.0	22.2	38.2	34.4	27.4	LiC	-	-	-	
		2	22~		5.1	1.2	15.8	20.3	36.1	36.0	27.9	LiC	-	-	-	
	y26	1	0~12		4.6	5.4	16.1	30.7	46.8	40.2	13.0	L	-	-	-	
2		12~20		5.4	5.6	24.0	17.2	41.2	50.0	8.8	SiL	-	-	-		
3		20~		3.5	-	29.1	20.7	49.8	36.3	13.9	L	-	-	-		
泉	y25	1	0~25		4.8	3.8	26.1	26.3	52.4	35.4	12.2	L	-	-	-	
		2	25~		4.5	0.5	51.1	21.2	72.3	22.4	5.3	SL	-	-	-	

理學性 容 中		化 學 性												
		p H		置 換 酸 度 Y <sub>1</sub>	有 機 物			塩 基 置 換 容 量 me/ 100g	置換性塩基mg/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 數	有 効 態 磷 酸 mg/ 100g
		H <sub>2</sub> O	K Cl		T-C %	T-N %	C/N		Ca O	MgO	K <sub>2</sub> O			
空 氣 容 積 cc	孔 隙 率 %													
-	-	5.0	4.4	6.2	4.57	0.29	15.8	14.4	85	12	14	21.0	2,285	0.4
-	-	5.0	4.4	6.2	-	-	-	19.9	82	86	18	14.6	1,890	tr
-	-	6.1	5.2	0.4	2.29	0.24	9.5	18.0	342	27	21	68.2	1,045	30.6
-	-	5.7	4.6	0.4	1.55	0.17	9.1	22.5	269	54	10	42.6	1,353	4.1
-	-	6.1	5.9	0.4	3.40	0.33	10.3	19.7	565	50	57	102.5	1,095	55.8
-	-	5.7	5.4	0.4	2.70	0.19	14.2	20.8	29.9	28	23	51.3	1,486	1.3
-	-	5.5	4.8	0.4	-	-	-	15.0	203	38	13	48.4	1,091	tr
-	-	5.4	5.0	0.4	3.53	0.31	11.4	23.6	392	32	13	59.2	1,164	2.5
-	-	5.4	4.7	0.8	1.25	0.12	10.4	19.9	270	41	18	48.5	1,265	0.8
-	-	4.9	4.3	6.2	-	-	-	19.1	149	53	39	27.8	1,352	0.4
18.5	57.1	6.0	5.8	0.8	4.29	0.44	9.7	19.5	486	34	51	88.7	637	9.7
-	-	5.6	5.5	0.8	1.39	0.16	8.7	9.2	190	26	22	73.9	380	6.0
-	-	5.8	5.6	0.5	-	-	-	4.5	98	7	8	77.7	267	3.7
34.2	65.1	5.5	4.6	1.3	1.10	0.12	9.2	18.9	307	21	25	57.7	752	2.9
14.4	52.8	5.4	4.3	1.3	0.12	0.01	12.0	19.4	363	43	26	67.0	830	5.6
-	-	5.4	5.0	0.8	4.93	0.50	9.9	45.4	729	55	47	57.3	2,100	0.7
-	-	5.4	5.0	0.8	5.97	0.65	9.2	57.2	737	110	52	46.0	2,663	0.4
26.0	58.1	5.2	4.6	0.8	0.81	0.09	9.0	16.8	283	40	40	60.1	672	7.3
22.2	53.9	5.8	4.6	0.5	-	-	-	16.4	335	58	15	73.2	770	9.5
15.7	49.4	6.1	5.2	0.5	-	-	-	5.5	106	25	11	69.1	297	7.3
28.4	62.2	5.3	4.5	0.8	1.91	0.28	6.8	23.0	401	33	25	62.2	800	2.3
19.3	54.8	5.7	4.4	0.8	0.35	0.04	8.7	21.1	399	42	15	67.3	938	4.7
28.8	65.7	5.1	4.5	0.8	1.80	0.18	10.0	22.9	371	32	54	57.6	812	5.1
-	-	5.5	4.5	0.7	0.64	0.06	10.7	18.7	311	30	50	59.4	884	3.4
21.2	61.0	5.0	4.2	1.3	2.84	0.28	10.1	19.2	329	24	16	61.5	1,181	3.6
-	-	5.2	4.4	1.3	4.03	0.56	7.2	25.5	316	27	16	44.3	2,068	0.5
-	-	5.3	4.7	0.8	5.01	0.48	10.4	28.7	204	30	20	25.4	2,720	0.3
-	-	5.4	5.0	0.4	1.93	0.19	10.2	20.4	344	34	31	60.3	1,049	8.8
-	-	4.8	4.3	7.0	0.71	0.06	11.8	19.9	219	58	28	39.2	1,369	tr
-	-	4.9	4.7	0.4	3.14	0.38	8.3	23.4	282	36	52	43.1	1,457	8.8
-	-	5.2	4.9	0.4	3.26	0.32	10.2	21.9	223	28	29	36.2	2,117	tr
-	-	4.8	4.2	13.3	-	-	-	17.1	124	58	18	25.8	1,103	1.2
-	-	4.9	4.4	3.1	2.20	0.24	9.2	26.7	307	57	50	41.1	1,287	63.1
-	-	5.1	4.2	4.7	0.26	0.04	6.5	23.2	267	89	19	41.4	1,196	14.2

保全 対策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学 性											
					礫 (風乾物中) %	風乾細土中		細 土 無 機 物 中					土 性	現地における 100 cc		
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シ ル ト %	粘 土 %		容 積 重 g	固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc
月 浦	豊 泉	y22	1	0~15		5.1	7.2	7.0	37.6	44.6	39.2	16.2	CL	-	-	-
			2	15~25		9.0	8.4	4.2	33.6	37.8	49.5	12.7	SiL	-	-	-
山	大 西 山	y10	1	0~18		4.5	4.7	22.4	21.5	43.9	42.0	14.1	L	-	-	-
			2	18~43		4.7	1.8	29.7	39.8	69.5	27.7	2.8	SL	-	-	-
			3	43~		4.0	-	29.8	36.7	66.5	27.9	5.6	SL	-	-	-
		y15	1	0~22		4.2	4.9	13.8	47.4	61.2	28.0	10.8	L	-	-	-
			2	22~37		6.9	3.8	22.8	19.1	41.9	24.8	33.3	LiC	-	-	-
			3	37~		4.6	-	26.9	37.2	64.1	33.3	2.6	L	-	-	-
	t34	1	0~21		6.3	2.6	13.3	33.6	46.9	45.4	7.7	SiL	70.7	26.5	40.5	
		2	21~37		8.8	-	11.5	30.7	42.2	51.1	6.7	SiL	64.2	24.4	52.2	
		3	37~64		9.9	-	13.3	53.3	66.6	30.7	2.7	SL	64.5	24.8	57.0	
	桜	y18	1	0~15		4.9	9.3	4.9	35.3	40.2	44.9	14.9	L	-	-	-
			2	15~32		10.2	9.3	6.6	18.0	24.6	56.2	19.2	SiCL	-	-	-
			3	32~		8.7	-	13.7	10.4	24.1	61.1	14.8	SiL	-	-	-
	山 梨	y4	1	0~25		4.3	7.1	13.4	36.5	49.9	34.9	15.2	CL	-	-	-
			2	25~48		7.1	5.6	8.6	18.8	27.4	47.5	25.1	SiC	-	-	-
		y2	1	0~28		4.3	6.7	7.9	25.0	32.9	47.2	19.9	SiCL	-	-	-
2			28~50		7.2	5.0	2.5	20.1	22.6	37.4	40.0	LiC	-	-	-	
3			50~		8.6	-	4.2	16.0	20.2	56.4	23.4	SiCL	-	-	-	
y7		1	0~35		13.0	5.7	9.4	29.1	38.5	37.7	23.8	CL	-	-	-	
		2	35~50		5.8	4.8	10.4	15.1	25.5	54.3	20.2	SiCL	-	-	-	
		3	50~		4.8	-	15.9	27.7	43.6	38.6	17.8	CL	-	-	-	
y8	1	0~15		4.8	7.8	5.8	39.7	45.5	40.7	13.8	L	-	-	-		
	2	15~50		7.3	6.7	5.2	21.5	26.7	50.2	23.1	SiCL	-	-	-		
上 泉	y9	1	0~15		5.8	6.5	11.4	18.5	29.9	48.7	21.4	SiCL	-	-	-	
		2	15~70		7.2	3.6	16.2	11.4	27.6	45.6	26.8	SiC	-	-	-	
		3	70~		9.5	-	57.8	28.3	86.1	12.5	1.4	LS	-	-	-	
香 川	t1	1	0~12		2.8	2.0	12.3	58.9	71.2	23.8	5.0	SL	121.0	45.4	37.2	
		2	12~46		2.0	-	21.6	51.5	73.1	21.1	5.9	SL	139.4	51.6	33.1	
		3	46~54		7.2	7.5	2.7	16.8	19.5	58.4	22.1	SiCL	-	-	-	
		4	54~72		13.5	9.9	3.4	55.7	59.1	28.9	12.0	L	60.1	22.3	53.5	
		5	72~95		13.2	-	3.4	55.4	58.8	31.6	9.6	L	59.2	22.8	59.6	
	1	t4	1	0~24		2.3	4.3	18.5	56.8	75.3	17.7	7.0	SL	-	-	-
			2	24~61		2.8	-	21.1	58.3	79.4	16.8	3.8	SL	-	-	-

物理学性 容 中		化 学 性												
		p H		置 換 酸 度 Y <sub>1</sub>	有 機 物			塩 基 置 換 容 量 me/ 100g	置換性塩基mg/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	有 効 態 磷 酸 mg/ 100g
		H <sub>2</sub> O	KCl		T-C %	T-N %	C/N		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
-	-	4.8	4.6	8.1	4.17	0.53	7.9	26.2	97	38	19	13.8	2,029	tr
-	-	5.2	4.7	2.3	4.85	0.62	7.8	38.2	82	34	22	7.7	3,002	tr
-	-	5.4	4.5	2.3	2.72	0.26	10.5	18.3	104	4	7	20.3	1,876	6.3
-	-	5.8	4.6	0.4	1.03	0.09	11.4	13.7	115	2	16	30.1	1,580	tr
-	-	5.8	4.4	1.6	-	-	-	12.1	111	3	27	32.5	1,068	tr
-	-	5.7	4.5	1.6	2.83	0.25	11.3	17.6	171	23	7	34.7	1,476	tr
-	-	5.7	4.4	2.3	2.21	0.20	11.1	20.7	95	31	5	16.4	2,186	tr
-	-	5.7	4.4	1.6	-	-	-	15.4	64	24	4	14.8	1,831	tr
33.0	73.5	4.9	4.3	1.3	1.04	0.17	6.1	21.1	235	14	38	39.8	2,248	0.8
23.4	75.6	5.1	4.5	0.8	-	-	-	28.6	250	10	25	31.1	2,643	0.2
18.2	75.2	5.2	4.7	0.5	-	-	-	23.9	176	7	19	26.4	2,810	tr
-	-	5.4	4.5	1.6	5.39	0.45	12.0	24.1	185	1	21	27.3	2,058	2.23
-	-	5.4	4.6	0.8	5.40	0.35	15.4	39.6	161	12	31	14.5	3,247	0.9
-	-	5.7	5.0	0.4	-	-	-	28.6	88	16	9	11.0	2,907	tr
-	-	6.0	5.1	0.4	4.14	0.38	10.9	23.0	304	28	29	47.2	1,891	2.5
-	-	5.3	4.5	2.3	3.23	0.32	10.1	24.5	615	13	31	9.0	2,699	tr
-	-	6.0	5.1	0.4	3.90	0.36	10.8	22.6	317	29	16	50.0	1,891	1.7
-	-	5.7	4.6	0.8	2.93	0.32	9.2	26.9	65	100	9	8.7	2,828	tr
-	-	5.5	4.8	0.4	-	-	-	23.5	43	7	10	6.5	2,965	tr
-	-	5.1	4.3	3.1	3.33	0.29	11.5	17.0	96	15	8	18.2	1,614	0.5
-	-	5.2	4.3	3.1	2.79	0.27	10.3	19.2	83	8	7	15.5	1,979	tr
-	-	5.3	4.2	7.8	-	-	-	15.5	52	17	15	12.0	1,490	0.4
-	-	5.3	4.3	3.9	4.55	0.42	10.8	23.5	106	22	31	16.2	1,992	13.0
-	-	5.8	4.6	0.8	3.90	0.35	11.1	29.9	173	31	18	20.0	2,865	0.9
-	-	4.8	4.3	5.5	3.80	0.39	9.7	23.5	51	2	22	7.8	2,433	15.3
-	-	5.5	4.8	0.4	2.10	0.23	9.1	21.4	34	10	19	5.6	2,883	tr
-	-	6.0	5.7	0.4	-	-	-	16.0	19	21	2	4.2	3,033	tr
17.4	54.6	4.9	4.0	6.7	1.16	0.07	17.0	17.7	277	27	23	55.9	893	4.4
15.3	48.4	5.7	4.3	1.3	-	-	-	14.1	333	21	15	84.4	748	5.1
-	-	5.5	4.7	0.8	4.74	0.54	9.0	38.5	832	128	22	77.1	1,590	1.5
24.2	77.7	5.5	4.7	0.8	6.30	0.67	10.0	53.2	794	25	29	53.2	2,550	0.4
17.6	77.2	5.4	4.6	0.8	-	-	-	46.0	399	29	29	30.9	3,012	0.3
-	-	5.1	4.3	1.9	2.50	0.23	11.0	19.4	235	13	40	43	1,165	2.8
-	-	5.4	4.3	1.6	-	-	-	14.8	260	14	20	62.8	950	2.7

保全 对策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学 性												
					礫 (風乾物中) %	風乾細土中		細土無機物中					土 性	現地における 100 cc			
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シ ル ト %	粘 土 %		容 積 重 g	固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc	
香 川 1	香 川	(混層耕)	3	61~82		12.3	14.1	5.3	16.0	21.3	55.1	23.6	SiCL	-	-	-	
			t8	1	0~25		3.2	0.9	15.6	51.4	67.0	24.3	8.7	SL	128.4	46.2	38.3
				2	旧表土		3.0	1.5	13.1	37.8	50.9	32.7	16.4	CL	154.8	56.7	38.0
				3	不明火山灰ローム		11.7	9.1	3.4	25.4	28.8	53.5	17.7	SiCL	-	-	-
		a6	1	0~21		2.0	2.0	11.8	55.7	67.5	26.2	6.3	SL	123.3	44.5	38.3	
			2	21~63		1.2	-	5.3	70.8	76.1	20.0	3.9	SL	134.1	48.3	32.9	
			3	3~92		6.1	9.3	9.0	29.5	38.5	44.1	17.4	CL	55.2	20.6	54.9	
			4	92~		9.4	5.2	18.2	34.4	52.6	40.8	6.6	L	54.7	20.1	55.9	
		a9	1	0~22		1.3	3.3	23.8	45.7	69.5	23.9	6.6	SL	119.1	45.8	40.2	
			2	22~47		1.0	-	15.0	60.3	75.3	20.0	4.7	SL	126.6	46.9	32.3	
			3	47~76		4.2	4.9	9.3	23.6	32.9	39.5	27.6	LiC	78.9	30.4	48.4	
		t5	1	0~33		3.1	2.2	11.5	57.0	68.5	24.7	6.8	SL	108.1	39.9	38.8	
			2	38~62		13.2	7.8	2.6	29.9	32.5	49.9	17.6	SiCL	-	-	-	
			3	62~76		12.6	5.1	4.8	28.7	33.5	51.1	15.4	SiCL	-	-	-	
			4	76~		11.3	-	3.1	18.6	21.7	57.8	20.5	SiCL	60.2	23.5	56.9	
	t6	1	0~25		7.4	5.0	7.2	37.7	44.9	42.9	12.2	L	75.4	31.6	42.1		
		2	旧表土		3.5	2.0	13.9	58.3	72.2	22.5	5.3	SL	130.3	48.5	40.8		
		3	不明火山灰ローム		12.1	-	1.8	23.3	25.1	50.6	24.3	SiCL	-	-	-		
	t11	1	0~29		3.3	2.9	18.8	52.2	71.0	21.2	7.8	SL	-	-	-		
		2	29~42		6.3	7.9	3.2	23.2	26.4	48.9	24.7	SiCL	-	-	-		
		3	42~58		11.6	12.7	2.3	19.9	22.2	55.3	22.5	SiCL	-	-	-		
	a10	1	0~16		1.9	2.8	10.4	59.4	69.8	23.5	6.7	SL	106.8	39.8	40.0		
		2	16~19		1.3	1.2	11.1	63.1	74.2	20.3	5.5	SL	-	-	-		
		3	19~31		7.9	7.9	7.3	31.3	38.6	47.7	13.7	SiL	-	-	-		
		4	31~44		8.8	9.4	5.8	35.6	41.4	44.6	14.0	L	54.6	21.3	51.6		
		5	44~		9.6	4.0	10.2	25.9	36.1	49.9	14.0	SL	50.8	17.7	56.4		
香 川 2	香 川	t29	1	0~26		2.7	4.8	18.1	49.3	67.4	24.3	8.3	SL	101.0	40.5	46.1	
			2	26~43		4.9	4.6	10.4	32.6	43.0	40.2	16.8	CL	61.9	24.7	52.4	
			3	43~61		10.2	-	3.3	29.8	33.1	57.4	9.5	SiL	56.0	21.5	58.2	
		t30	1	0~22		3.2	11.8	20.2	46.3	66.5	25.3	8.2	SL	-	-	-	
			2	22~34		5.7	7.4	8.7	32.5	41.2	50.2	8.6	SiL	-	-	-	
			3	34~87		11.1	-	8.0	27.2	35.2	53.1	11.7	SiL	-	-	-	
		t32	1	0~23		2.9	10.7	21.9	46.5	68.4	24.6	7.0	SL	-	-	-	
			2	23~46		6.3	9.6	8.0	37.4	45.4	47.4	7.2	SiL	-	-	-	

理學性 容 中		化 學 性												
		p H		置 換 酸 度 Y <sub>1</sub>	有 機 物			塩 基 置 換 容 量 me/100g	置換性塩基mg/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 數	有 效 態 磷 酸 mg/100g
		H <sub>2</sub> O	KCl		T-C %	T-N %	C/N		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
-	-	5.1	4.3	1.3	8.20	0.69	1.20	45.0	386	47	72	30.7	2,890	0.5
1.55	53.8	5.8	4.6	0.5	0.57	0.07	8.0	18.6	402	21	30	76.9	854	9.8
5.3	43.3	5.2	4.2	2.1	0.98	0.10	10.0	18.6	336	12	28	64.5	980	3.6
-	-	5.5	4.7	0.8	5.75	0.60	10.0	48.9	720	23	48	52.6	2,730	0.5
1.72	55.5	5.3	4.2	2.7	1.16	0.10	11.6	18.8	258	28	51	48.9	940	10.2
1.88	51.7	5.6	4.4	1.1	-	-	-	15.3	253	26	33	58.8	790	2.3
2.45	79.4	5.5	4.9	0.8	5.39	0.73	7.4	46.7	773	43	29	59.1	2,150	0.4
2.40	79.9	5.4	4.9	0.8	3.02	0.26	11.6	31.6	203	16	25	22.7	2,687	0.0
1.40	54.2	5.2	4.4	1.6	1.91	0.18	10.6	18.0	257	6	8	51.1	854	2.5
2.08	53.1	5.7	4.5	1.1	-	-	-	14.5	256	17	13	62.8	703	3.3
2.12	69.6	5.5	4.8	1.1	2.84	0.34	8.3	31.6	554	61	28	62.7	1,334	0.8
2.13	60.1	5.3	4.3	1.6	1.39	0.12	1.20	18.3	333	12	27	65.0	1,003	4.9
-	-	5.3	4.4	1.3	4.91	0.47	10.0	42.0	444	28	21	37.6	2,766	0.4
-	-	5.2	4.4	1.3	3.25	0.43	8.0	39.0	229	8	20	21.0	3,077	0.2
1.96	76.5	5.2	4.4	1.3	-	-	-	33.2	166	8	18	17.8	2,948	0.2
2.63	68.4	5.2	4.5	0.8	3.18	0.35	9.0	30.6	389	18	48	45.4	1,590	2.3
1.07	51.5	5.2	4.3	2.1	1.28	0.14	9.0	18.7	292	12	28	55.6	1,046	4.1
-	-	5.1	4.3	1.3	-	-	-	37.2	319	32	34	30.6	2,902	3.3
-	-	5.2	4.4	1.3	1.70	0.14	1.20	18.0	328	2	26	65.0	1,022	5.9
-	-	5.3	4.7	0.8	4.60	0.46	10.0	29.9	608	33	26	72.6	1,644	1.1
-	-	5.2	4.6	1.1	7.40	0.32	2.30	50.7	588	15	21	41.4	2,720	0.8
20.2	60.2	4.8	4.1	3.5	1.62	0.20	8.0	19.3	201	17	37	37.3	930	5.7
-	-	5.5	4.4	1.6	0.70	0.07	10.0	16.3	219	13	36	47.9	905	1.7
-	-	5.3	4.7	1.1	4.58	0.50	9.2	37.0	372	19	29	35.9	2,310	0.7
27.1	78.7	5.2	4.7	1.3	5.45	0.55	9.9	42.8	407	18	19	33.9	2,550	0.8
25.9	82.3	5.1	4.7	1.3	2.32	0.41	5.8	42.2	171	14	17	14.5	3,001	0.6
13.4	59.5	4.9	4.2	2.4	3.01	0.31	-	19.1	275	22	24	51.3	1,270	2.7
22.9	75.3	5.2	4.5	0.8	2.91	0.36	-	21.6	324	8	20	53.2	1,696	1.2
20.3	78.5	5.2	4.5	0.8	6.75	0.62	-	30.4	264	7	17	30.9	2,890	0.2
-	-	5.1	4.6	0.8	6.85	0.90	8.0	18.6	340	8	41	65.1	1,323	5.5
-	-	5.2	4.9	1.1	4.30	0.40	10.0	31.6	451	13	18	50.9	2,610	0.7
-	-	5.3	5.0	0.5	-	-	-	23.6	223	22	15	33.5	2,948	0.3
-	-	5.0	4.5	1.6	6.20	0.50	13.0	19.6	304	6	18	55.6	1,280	1.9
-	-	5.1	4.6	1.3	5.55	0.60	9.0	24.3	284	3	11	42.0	2,293	0.9

保 全 对 策 区	土 壤 区 号	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学 性										現地における 100cc			
					礫 (風乾物中) %	風乾細土中		細土無機物中					土 性	容 積 重 g	固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc		
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シ ル ト %	粘 土 %						
香 川 川	香 川 3		3	46~77		10.8	-	18.5	36.3	54.8	35.3	9.9	L	-	-	-		
			y21	1	0~25		4.9	13.1	14.5	39.3	53.8	33.6	12.6	L	-	-	-	
				2	25~50		5.9	11.5	12.5	18.4	30.9	53.5	15.6	SiCL	-	-	-	
				3	60~		7.5	3.4	11.7	14.4	26.1	51.8	22.1	SiCL	-	-	-	
貫 氣 別 川 原	貫 氣 別 川	y1	1	0~24		4.5	8.9	13.1	37.5	50.6	35.7	13.7	L	-	-	-		
				2	24~42		5.9	8.6	10.7	44.8	55.5	31.9	12.6	L	-	-	-	
				3	42~60		5.0	5.7	20.0	32.0	52.0	36.4	11.6	L	-	-	-	
	大 原	t9		1	0~33		3.8	7.3	16.0	53.1	69.1	24.6	6.3	SL	108.8	40.6	41.7	
					2	33~40		7.3	14.8	3.6	29.7	33.3	45.9	20.8	SiCL	-	-	-
					3	40~60		10.3	7.1	2.1	25.5	27.6	53.3	19.1	SiCL	-	-	-
					4	60~		12.7	6.4	4.6	36.1	40.7	49.3	10.0	SiL	-	-	-
	入 江 北 岸	入 江 北	a3	1	0~29		0.9	1.4	62.4	24.6	87.0	9.4	3.6	LS	154.9	52.4	22.9	
				2	29~40		0.7	0.4	69.4	20.8	90.2	6.0	3.8	LS	131.9	52.1	17.2	
				3	40~		1.0	-	61.7	20.9	82.6	10.8	6.6	SL	-	-	-	
大 岸		y24	1	0~7		1.5	1.9	83.5	9.1	92.6	4.3	3.1	S	-	-	-		
				2	7~50		2.6	4.0	90.3	4.4	94.7	3.1	2.2	S	-	-	-	
				3	50~		1.3	-	97.4	1.5	98.9	0.2	0.9	S	-	-	-	



理学性 容 中		化 学 性												
		p H		置 換 酸 度 Y <sub>1</sub>	有 機 物			塩 基 置 換 容 量 me 100g	置換性塩基mg/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	有 効 態 磷 酸 mg / 100g
		H <sub>2</sub> O	KCl		T-C %	T-N %	C/N		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
-	-	5.0	4.9	0.5	-	-	-	28.5	167	7	37	21.1	2960	0.1
-	-	5.8	5.5	0.4	7.65	0.48	15.9	21.9	500	30	51	61.4	1,794	1.7
-	-	5.5	4.8	1.6	6.68	0.49	13.6	34.1	112	36	45	11.7	2,546	tr
-	-	5.1	4.8	0.8	1.99	-	-	23.4	46	11	8	7.0	2,641	tr
-	-	5.5	4.7	0.4	5.17	0.46	11.2	28.9	400	39	30	49.5	1,652	5.4
-	-	5.5	4.6	0.4	4.99	0.51	98.0	31.1	322	13	9	37.1	2,118	0.9
-	-	5.5	4.4	2.3	3.31	-	-	26.5	176	30	9	23.7	2,280	tr
17.7	59.4	5.6	4.6	1.1	4.64	0.13	36.0	20.3	345	1	38	60.6	1,218	2.5
-	-	5.4	4.5	1.1	9.33	1.10	9.0	40.7	667	21	36	58.5	1,727	2.7
-	-	5.3	4.3	1.3	4.47	0.47	10.0	33.0	376	19	25	40.6	2,120	0.4
-	-	5.1	4.4	1.3	4.06	0.49	8.0	33.6	193	6	23	20.5	3,000	0.3
24.7	47.6	5.2	4.5	1.3	0.81	0.07	11.6	10.0	160	14	20	57.0	430	5.1
30.7	47.9	5.7	4.9	0.5	0.23	0.01	23.0	6.7	138	19	15	73.1	310	5.2
-	-	5.8	5.0	0.5	-	-	-	8.4	190	31	17	81.0	468	7.5
-	-	4.9	4.1	3.9	1.09	0.09	12.1	9.6	47	9	11	17.3	448	40.8
-	-	4.5	4.3	3.1	2.30	0.11	20.9	11.9	31	30	7	9.3	1,071	7.8
-	-	4.6	4.5	0.8	-	-	-	4.3	7	29	3	6.1	676	5.3